Orchestrating a brighter world NEC

CLUSTERPRO
MC ProcessSaver 2.7 for Windows
テンプレートガイド

第 10 版

2022 年 4 月

日本電気株式会社

改版履歴

版数	改版	内容
1.0	2015.03	新規作成
2.0	2016.03	バージョンアップに伴い改版
3.0	2017.04	バージョンアップに伴い改版
4.0	2018.04	バージョンアップに伴い改版
5.0	2018.06	商標の記載の修正
6.0	2019.04	バージョンアップに伴い改版
7.0	2020.04	バージョンアップに伴い改版
8.0	2021.04	監視テンプレートを最新化 WebOTX Application Server 監視テンプレートを新規作成 WebSAM JobCenter WebSAM SystemManager G ESMPRO/ServerAgentService
9.0	2021.04	監視テンプレートを更新 WebSAM JobCenter - 再起動スクリプトに JobCenter 管理者を追加 監視テンプレートガイドの情報を更新 WebSAM SystemManager G - 概要の表に「常駐プロセス」を記載 ESMPRO/ServerAgentService - SNMP サービスの「回復機能」を訂正
10.0	2022.04	バージョンアップに伴い改版

© NEC Corporation 2022

はしがき

（１）　マニュアルについて

「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.7 for Windows テンプレートガイド」 は、ProcessSaver によるプロセス/サービス監視ソリューションを支援するための導入事例をご紹介します。

本資料でご紹介する事例は、監視対象となる製品の設定ファイルの設定・運用スタイル・バージョンの差異、さらにバッチなどによって、監視手順に変更が発生する場合があります。

実際に導入する場合は、十分な検証と動作確認の実施をお願いします。

© NEC Corporation 2022

はしがき

（２）　商標および著作権について

- Apache、Tomcat は、Apache Software Foundation の登録商標または商標です。
- WebOTX、ESMPRO、WebSAM は、日本電気株式会社の商標または登録商標です。
- Oracle は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。
- その他記載の製品名および会社名は、すべて各社の商標または登録商標です。

なお、本書では®、TM マークを明記しておりません。

© NEC Corporation 2022

目次

1. はじめに P.15

2. Tomcat 6 の監視事例 P.19
   1. 概要
   2. Pfile
   3. 再起動スクリプト

3. Tomcat 7 の監視事例 P.22
   1. 概要
   2. Pfile
   3. 再起動スクリプト

4. WebOTX 9.1 の監視事例 P.25
   1. 概要
   2. Pfile
   3. 再起動スクリプト

5. WebOTX 10.3 の監視事例 P.28
   1. 概要
   2. Pfile
   3. 再起動スクリプト

© NEC Corporation 2022

目次

6. WebLogic 11g の監視事例 P.31
1. 概要
2. Pfile
3. 再起動スクリプト

7. WebLogic 12c の監視事例 P.34
1. 概要
2. Pfile
3. 再起動スクリプト

8. ESMPRO/ServerAgentService Ver.2 の監視事例 P.37
1. 概要
2. Pfile
3. 再起動スクリプト

© NEC Corporation 2022

目次

9. WebSAM JobCenter 15.4 の監視事例 P.41
1. 概要
2. Pfile
3. 再起動スクリプト

10. WebSAM SystemManager G 10.1 の監視事例 P.44
1. 概要
2. Pfile
3. 再起動スクリプト

© NEC Corporation 2022

目次

11. Oracle 10g の監視事例 P.47
1. システム一意
1-1. 概要
1-2. Pfile
1-3. 再起動スクリプト
2. インスタンス
2-1. 概要
2-2. Pfile
2-3. 再起動スクリプト

12. Oracle 11g の監視事例 P.59
1. システム一意
1-1. 概要
1-2. Pfile
1-3. 再起動スクリプト
2. インスタンス
2-1. 概要
2-2. Pfile
2-3. 再起動スクリプト

© NEC Corporation 2022

目次

13. Oracle 12c の監視事例 P.68
1. システム一意
1-1. 概要
1-2. Pfile
1-3. 再起動スクリプト
2. インスタンス
2-1. 概要
2-2. Pfile
2-3. 再起動スクリプト

14. IIS6.0 の監視事例 P.77
1. 概要
2. Pfile
3. 再起動スクリプト
4. Pfile 書き換え
4-1. IIS の状態確認
4-2. Pfile の読み込み
4-3. 監視しないサービスの削除
4-4. 監視サービスの並び替え
4-5. Pfile の保存

© NEC Corporation 2022

目次

15. IIS7.0 の監視事例 P.105
1. 概要
2. Pfile
3. 再起動スクリプト
4. Pfile 書き換え
4-1. Pfile の直接編集
4-2. Pfile の読み込み
4-3. 監視しないサービスの削除
4-4. Pfile の保存

16. IIS7.5 の監視事例 P.126
1. 概要
2. Pfile
3. 再起動スクリプト
4. Pfile 書き換え
4-1. Pfile の直接編集
4-2. Pfile の読み込み
4-3. 監視しないサービスの削除
4-4. Pfile の保存

© NEC Corporation 2022

目次

17. IIS8.0 の監視事例 P.142
1. 概要
2. Pfile
3. 再起動スクリプト
4. Pfile 書き換え
4-1. Pfile の直接編集
4-2. Pfile の読み込み
4-3. 監視しないサービスの削除
4-4. Pfile の保存

© NEC Corporation 2022

目次

18. Microsoft SQL Server 2008 の監視事例 P.158
1. システム一意
1-1. 概要
1-2. Pfile
1-3. 再起動スクリプト
2. インスタンス
2-1. 概要
2-2. Pfile
2-3. 再起動スクリプト
3. Pfile 書き換え
3-1. Pfile の直接編集
3-2. Pfile の読み込み
3-3. 監視しないサービスの削除
3-4. Pfile の保存

© NEC Corporation 2022

目次

19. Microsoft SQL Server 2008 R2 の監視事例 P.183
1. システム一意
1-1. 概要
1-2. Pfile
1-3. 再起動スクリプト
2. インスタンス
2-1. 概要
2-2. Pfile
2-3. 再起動スクリプト
3. Pfile 書き換え
3-1. Pfile の直接編集
3-2. Pfile の読み込み
3-3. 監視しないサービスの削除
3-4. Pfile の保存

© NEC Corporation 2022

目次

20. Microsoft SQL Server 2012 の監視事例 P.207
1. システム一意
1-1. 概要
1-2. Pfile
1-3. 再起動スクリプト
2. インスタンス
2-1. 概要
2-2. Pfile
2-3. 再起動スクリプト
3. Pfile 書き換え
3-1. Pfile の直接編集
3-2. Pfile の読み込み
3-3. 監視しないサービスの削除
3-4. Pfile の保存

© NEC Corporation 2022

目次

21. StarOffice の監視事例 P.233
1. 概要
2. Pfile
3. 再起動スクリプト
4. Pfile 書き換え
4-1. Pfile の直接編集
4-2. Pfile の読み込み
4-3. 監視しないサービスの削除
4-4. Pfile の保存

22. IIS のストール監視事例 P.248
1. 概要
2. Pfile
3. 再起動スクリプト
4. ストール監視スクリプトの設定

23. Microsoft SQL Server のストール監視事例 P.261
1. 概要
2. Pfile
3. 再起動スクリプト
4. ストール監視スクリプトの設定

© NEC Corporation 2022

表記規則

本書での表記規則に関しては、下記のように定義します。

記号表記	使用方法	例
『』	画面名の前後	『Create Pfile』 は、Pfile を作成する画面です。
「」	参照するマニュアル名の前後 参照する章および章のタイトル名の前後	「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.7 for Windows ユーザーズガイド （コンソール編）」 を参照してください。
【】	環境によって読み換えるファイル名および フォルダー名の前後	【HOME_NAME】は、Oracle のインストール時に指定するホーム名です。
< >	ファイル名およびフォルダー名の前後	<C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_iis6.0>
[ ]	項目名の前後・タブ名の前後	[Process/ServiceName] を変更してください。
斜体、太字	ボタン名・チェックボックス名	*Read* を押してください。

© NEC Corporation 2022

用語の定義

本書での用語に関しては、下記のように定義します。

用語	説明
ProcessSaver コンソール	ProcessSaver の運用管理のための GUI（グラフィカルユーザーインタフェース）画面のことを、ProcessSaver コンソールと表記します。
Pfile	プロセス／サービスの監視定義情報を記述する設定ファイルのことを、Pfile と表記します。
Pcheck	Pfile で指定された定義情報に基づき、プロセス／サービス消滅監視および再開を行うプロセスのことを、Pcheck と表記します。
再起動スクリプト	監視対象プロセス／サービスの消滅を検知した場合に、監視対象プロセス／サービスを自動的に再起動するためのコマンド処理を記述したファイルのことを、再起動スクリプトと表記します。
PcheckRunList	OS 起動時に自動的に監視を開始するための Pcheck の起動リストです。 監視を行う Pfile の一覧が記述されています。
インストールフォルダー	ProcessSaver をインストールしたフォルダーです。 本資料では、<C:¥Program Files> にインストールしたこととします。
Pcheck 自動起動	OS 起動時に ProcessSaver サービスから PcheckRunList にしたがって Pcheck を起動することです。
Pcheck 手動起動	OS 起動後に ProcessSaver コンソールや コマンドから Pcheck を起動することです。

© NEC Corporation 2022

1. （続き）

参考ドキュメント

Pcheck 自動起動の設定方法については、 「CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.7 for Windows ユーザーズガイド（コンソール編）」を参照してください。

Pcheck の起動方法については、 「 CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.7 for Windows ユーザーズガイド（コンソール編）」 および 「 CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.7 for Windows ユーザーズガイド（コマンド編）」を参照してください。

© NEC Corporation 2022

1. （続き）

作業を始める前に

テンプレートの各 Pfile の使い方については、テンプレート集に同梱の <Readme.txt> を参照してください。

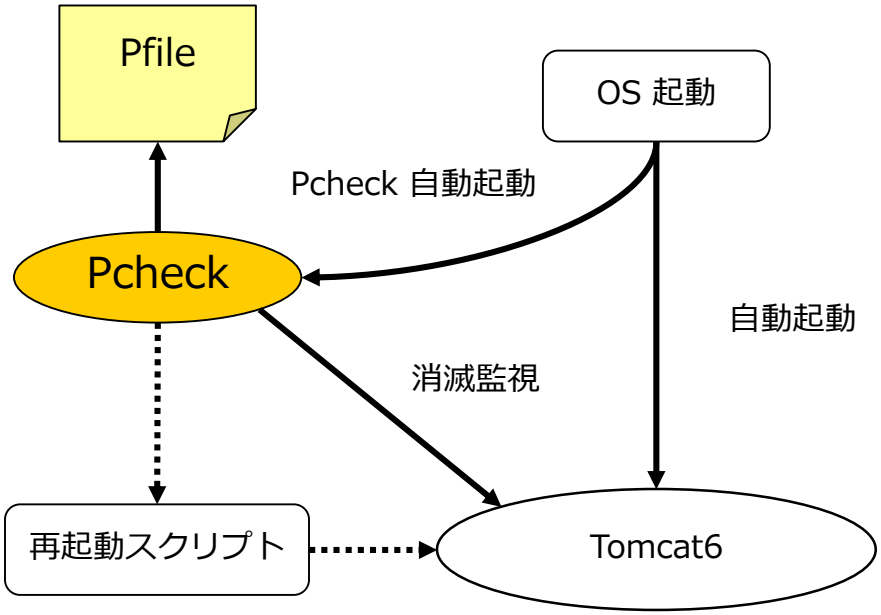
© NEC Corporation 2022

2. Tomcat 6 の監視事例

1. 概要

・ 本事例は Tomcat 6.0.18 を使用しています。

タイプ	Service
表示名	Apache Tomcat
サービス名	Tomcat6
常駐プロセス	Tomcat6.exe
スタートアップ	自動
回復機能	何もしない
依存関係	なし



監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

© NEC Corporation 2022

2. Pfile

Pfile <sample_tomcat6>

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval                5
MonitorInterval                 10
DumpFileName                    "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥tomcat6.dmp"
UpMessageReduceMode             disable

##### PENT #####
## Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;
ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
Tomcat6,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_tomcat6.bat",86400,3,Continue,Service
```


© NEC Corporation 2022

3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト <restart_tomcat6.bat>

```
@echo off

rem Tomcat 6.0.18 の再起動スクリプトです
sc start tomcat6

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

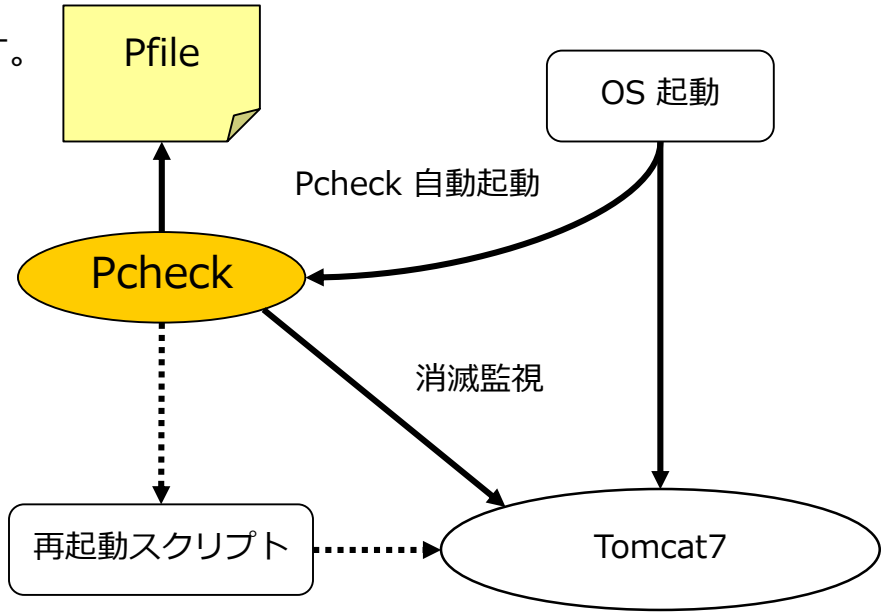
© NEC Corporation 2022

3. Tomcat 7 の監視事例

1. 概要

・ 本事例は Tomcat 7.0.42 を使用しています。

タイプ	Service
表示名	Apache Tomcat 7.0 Tomcat7
サービス名	Tomcat7
常駐プロセス	Tomcat7.exe
スタートアップ	自動
回復機能	何もしない
依存関係	なし



監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

© NEC Corporation 2022

2. Pfile

Pfile <sample_tomcat7>

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval                5
MonitorInterval                 10
DumpFileName                    "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥tomcat7.dmp"
UpMessageReduceMode             disable

##### PENT #####
## Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;
ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
Tomcat7,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_tomcat7.bat",86400,3,Continue,Service
```


© NEC Corporation 2022

3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト <restart_tomcat7.bat>

```
@echo off

rem Tomcat 7.0.42 の再起動スクリプトです
sc start tomcat7

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

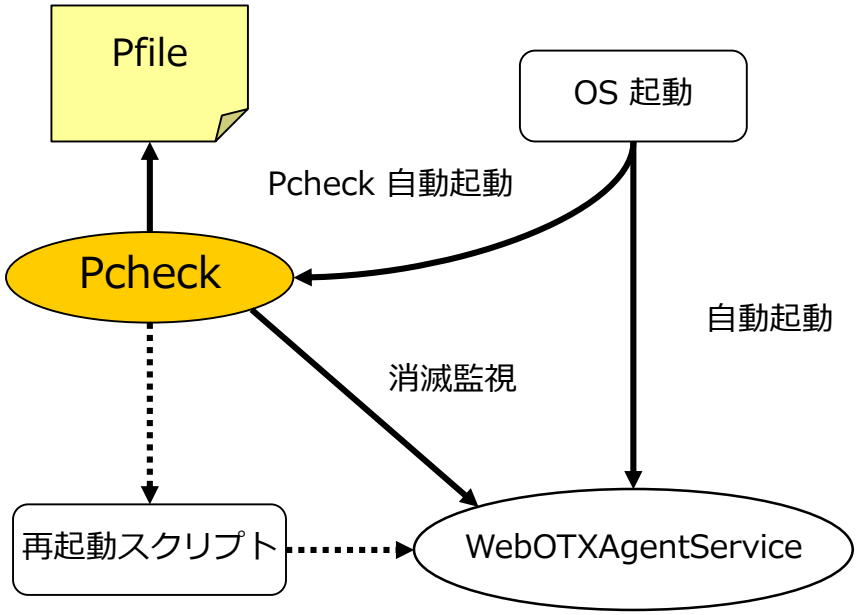
© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

4. WebOTX 9.1 の監視事例

1. 概要

・本事例は WebOTX 9.11 を使用しています。

タイプ	Service
表示名	WebOTX AS Agent Service
サービス名	WebOTXAgentService
常駐プロセス	WOAgentSvc.exe
スタートアップ	自動
回復機能	何もしない
依存関係	なし



監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

※ WebOTX 8.21 と WebOTX 9.11 の構成は同じため、本テンプレートを WebOTX 8.21 でも同様に使用することができます。

© NEC Corporation 2022

4. （続き）

2. Pfile

Pfile <sample_webotxas>

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval          5
MonitorInterval           10
DumpFileName              "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥webotxas.dmp"
UpMessageReduceMode         disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;Grou
pTag;
ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
WebOTXAgentService,"C:¥Program
Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_webotxas.bat",86400,3,Continue,Service
```


© NEC Corporation 2022

3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト <restart_webotxas.bat>

```
@echo off

rem WebOTX の再起動スクリプトです
sc start WebOTXAgentService

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

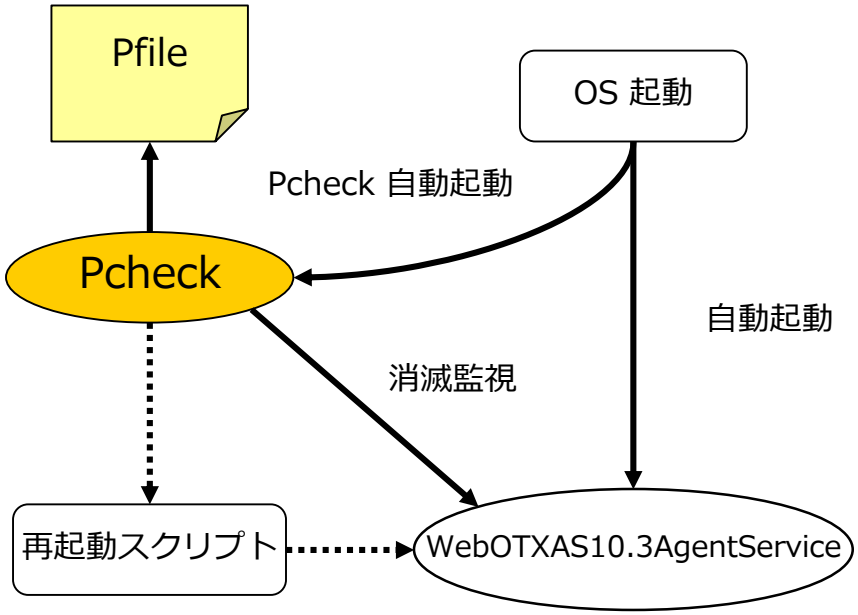
© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

5. WebOTX 10.3 の監視事例

1. 概要

・本事例は WebOTX 10.31 を使用しています。

タイプ	Service
表示名	WebOTX AS 10.3 Agent Service
サービス名	WebOTXAS10.3AgentService
常駐プロセス	WOAgentSvc.exe
スタートアップ	自動
回復機能	何もしない
依存関係	なし



監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

※ WebOTX 10.3 からサービス名に製品バージョン番号が含まれるようになりましたので、
本テンプレートは製品バージョン間の互換性はありません。

© NEC Corporation 2022

5. （続き）

2. Pfile

Pfile <sample_webotxas>

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval        5
MonitorInterval         10
DumpFileName            "C:¥Program Files (x86)¥HA¥ProcessSaver¥log¥webotxas.dmp"
UpMessageReduceMode     disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;Grou
pTag;ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch;StallCheck
WebOTXAS10.3AgentService,"C:¥Program Files
(x86)¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_webotxas.bat",86400,3,Continue,Service
```


© NEC Corporation 2022

3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト <restart_webotxas.bat>

```
@echo off

rem WebOTX の再起動スクリプトです
sc start WebOTXAS10.3AgentService

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

© NEC Corporation 2022

6. WebLogic 11g の監視事例

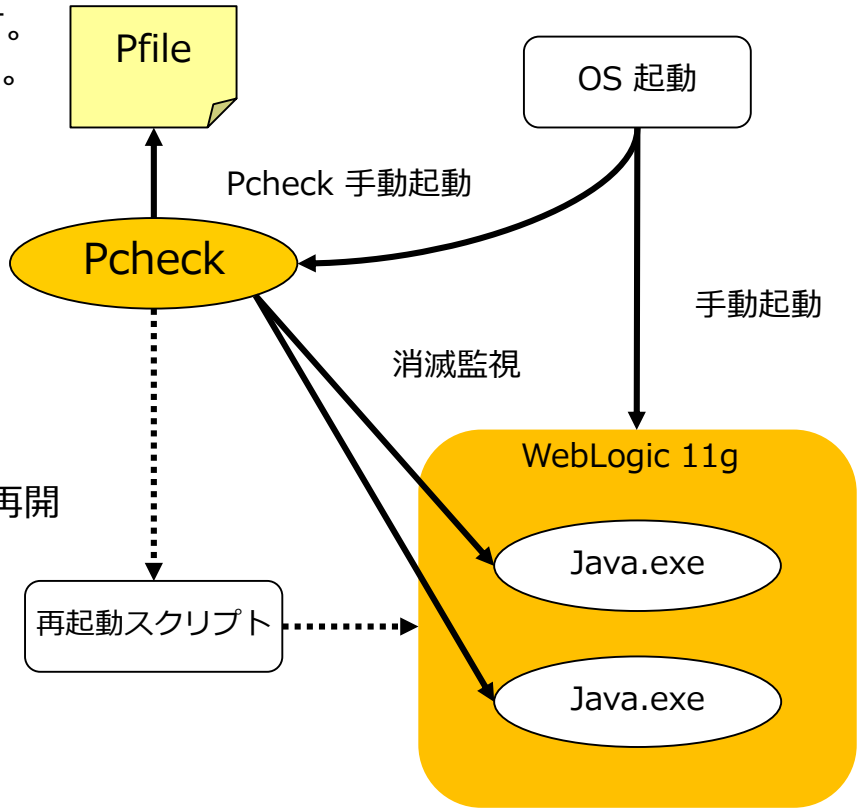
1. 概要

・本事例は WebLogic 11g (10.3) を使用しています。
WebLogic のインストール Dir は <C:¥bea> です。

タイプ	Process
常駐プロセス	Java.exe

監視手順
- OS 起動後、手動にて起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

※ 注意事項
手動起動を前提に作成しています。
サービスに登録している場合は、
別途作成してください。



© NEC Corporation 2022

2. Pfile

Pfile <sample_weblogic11g>

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval                5
MonitorInterval                 10
DumpFileName                    "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥weblogic11g.dmp"
UpMessageReduceMode             disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearCm
d;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
java.exe,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_weblogic12c.bat",86400,3,Continue,Process;GroupTag=web;
IncludeStrings=-jrockit -Xdebug -Xnoagent -Xrunjdwp:transport=dt_socket;RestartWaitTime=60;PnameFullMatch=disable
java.exe,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_weblogic12c.bat",86400,3,Continue,Process;GroupTag=web;
IncludeStrings=com.pointbase.net.netServer /noconsole /port:9093 /d:0
/pointbase.ini=C:¥bea¥WORKSH~1.3¥samples¥domains¥workshop¥pointbase.ini;RestartWaitTime=60;PnameFullMatch=disabl
e
```

依存関係をもたせるために
GroupTag を指定して
グループ監視を行います。

ほかの Java プロセスと誤認しないように
IncludeStrings を指定して Java プロセスを
識別します。

© NEC Corporation 2022

3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト <restart_weblogic11g.bat>

```
@echo off

rem WebLogic11g の再起動スクリプトです

rem WebLogic の停止コマンドを実行します
start call "C:¥bea¥workshop_10.3¥samples¥domains¥workshop¥bin¥stopWebLogic.cmd"

rem 任意の秒数の間待ちます(指定範囲：1 ～ 600)
"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥bin¥PSSleep.exe" 30

rem WebLogic の起動コマンドを実行します
start call "C:¥bea¥workshop_10.3¥samples¥domains¥workshop¥startWebLogic.cmd"

exit
```

停止コマンドが終了するまで起動コマンドを待ち合わせます。
環境によって待ち合わせ時間が異なりますので調整してください。

© NEC Corporation 2022

7. WebLogic 12c の監視事例

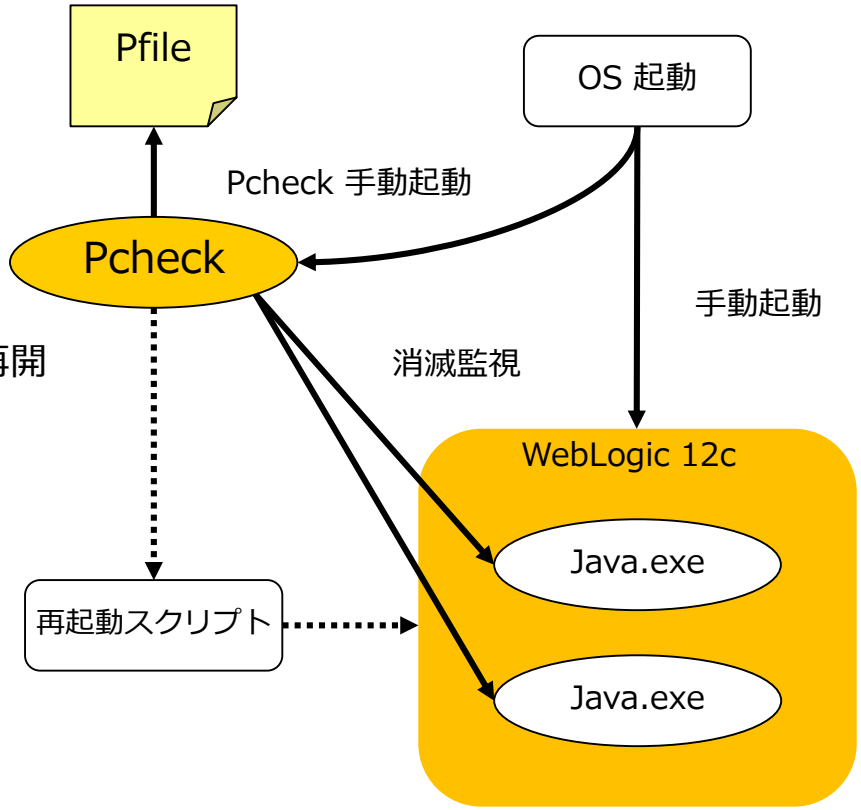
1. 概要

・本事例は WebLogic 12c (12.1.2) を使用しています。
WebLogic のインストール Dir は <C:¥Oracle¥Middleware¥Oracle_Home> です。

タイプ	Process
常駐プロセス	Java.exe

監視手順
- OS 起動後、手動にて起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

※ 注意事項
手動起動を前提に作成しています。
サービスに登録している場合は、
別途作成してください。



© NEC Corporation 2022

2. Pfile

Pfile <sample_weblogic12c>

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval                5
MonitorInterval                 10
DumpFileName                    "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥weblogic12c.dmp"
UpMessageReduceMode             disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearCm
d;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
java.exe,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_weblogic12c.bat",86400,3,Continue,Process;GroupTag=web;
IncludeStrings=-
Djava.security.policy=C:¥Oracle¥MIDDLE~1¥ORACLE~1¥wlserver¥server¥lib¥weblogic.policy;RestartWaitTime=60;PnameFullM
atch=disable
java.exe,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_weblogic12c.bat",86400,3,Continue,Process;GroupTag=web;
IncludeStrings=-classpath
"C:¥Oracle¥MIDDLE~1¥ORACLE~1¥wlserver¥common¥derby/lib/derby.jar;C:¥Oracle¥MIDDLE~1¥ORACLE~1¥wlserver¥commo
n¥derby/lib/derbynet.jar;RestartWaitTime=60;PnameFullMatch=disable
```

依存関係をもたせるために
GroupTag を指定して
グループ監視を行います。

ほかの Java プロセスと誤認しないように
IncludeStrings を指定して Java プロセスを識別します。

※ IncludeStrings に指定する値は、環境により適宜修正してください。

© NEC Corporation 2022

3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト <restart_weblogic12c.bat>

```
@echo off

rem WebLogic12c の再起動スクリプトです

rem WebLogic の停止コマンドを実行します
start call
"C:¥Oracle¥Middleware¥Oracle_Home¥user_projects¥domains¥base_domain¥bin¥stopWebLogic.cmd"

rem 任意の秒数の間待ちます(指定範囲：1 ～ 600)
"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥bin¥PSSleep.exe" 30

rem WebLogic の起動コマンドを実行します
start call
"C:¥Oracle¥Middleware¥Oracle_Home¥user_projects¥domains¥base_domain¥bin¥startWebLogic.cmd"

exit
```

停止コマンドが終了するまで起動コマンドを待ち合わせます。
環境によって待ち合わせ時間が異なりますので調整してください。

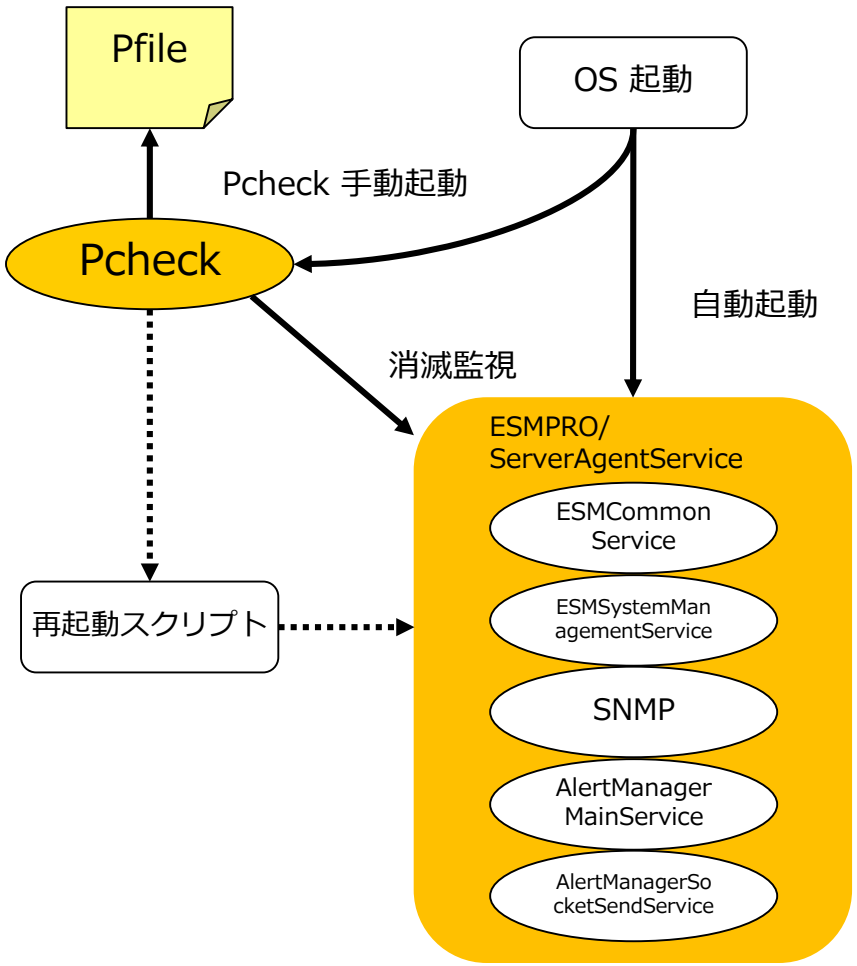
※ WebLogic の停止/起動コマンドに指定するフォルダーは、
環境により適宜修正してください。

© NEC Corporation 2022

8. ESMPRO/ServerAgentService Ver.2 の監視事例

1. 概要

・本事例は ESMPRO/ServerAgentService Ver.2 を使用しています。



監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

© NEC Corporation 2022

8. （続き）

タイプ	Service	Service	Service	Service	Service
表示名	ESMCommonService	ESM System Management Service	SNMP サービス	Alert Manager Main Service	Alert Manager Socket(S) Service
サービス名	ESMCommonService	ESMSystemManagementService ※1	SNMP	AlertManagerMainService	AlertManagerSocketSendService
常駐プロセス	ESMCommon.exe	esmsmsrv.exe	snmp.exe	AMVMain.exe	amvscks.exe
スタートアップ	自動(遅延開始)	自動	自動	自動(遅延開始)	手動 ※2
回復機能	サービスを再起動する	サービスを再起動する※3 何もしない ※4	サービスを再起動する	サービスを再起動する	サービスを再起動する
依存関係	なし	なし ※3 Winmgmt ※4	なし	なし	なし

※1 IPMI、iLO 対応機種の場合にインストールされます。
※2 マネージャ通報(TCP/IP In-Band)、マネージャ通報(TCP/IP Out-of-Band)のどちらかが有効の場合に起動されます。
※3 iLO　対象装置の場合です。
※4 BMC 対象装置の場合です。

© NEC Corporation 2022

2. Pfile

Pfile <sample_esmprosas>

依存関係をもたせるために
GroupTag を指定して
グループ監視を行います。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval        5
MonitorInterval         10
DumpFileName            "C:¥Program Files (x86)¥HA¥ProcessSaver¥log¥esmprosas.dmp"
UpMessageReduceMode     disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;Grou
pTag;ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch;StallCheck
ESMCommonService,"C:¥Program Files
(x86)¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_esmprosas.bat",86400,3,Continue,Service,GroupTag=esmprosas
#ESMSystemManagementService,"C:¥Program Files
(x86)¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_esmprosas.bat",86400,3,Continue,Service,GroupTag=esmprosas
SNMP,"C:¥Program Files
(x86)¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_esmprosas.bat",86400,3,Continue,Service,GroupTag=esmprosas
AlertManagerMainService,"C:¥Program Files
(x86)¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_esmprosas.bat",86400,3,Continue,Service,GroupTag=esmprosas
#AlertManagerSocketSendService,"C:¥Program Files
(x86)¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_esmprosas.bat",86400,3,Continue,Service,GroupTag=esmprosas
```

ESMSystemManagementService、AlertManagerSocketSendService
を監視する場合は # を削除してコメントインしてください。

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト <restart_esmprosas.bat>

```
@echo off

rem ESMPRO/ServerAgentService の再起動スクリプトです

rem ESMPRO/ServerAgentService を停止します
net stop ESMCommonService
rem net stop ESMSystemManagementService
net stop AlertManagerMainService
rem net stop AlertManagerSocketSendService
net stop SNMP

rem ESMPRO/ServerAgentService を起動します
net start ESMCommonService
rem net start ESMSystemManagementService
net start SNMP
net start AlertManagerMainService
rem net start AlertManagerSocketSendService

exit
```

ESMSystemManagementService、AlertManagerSocketSendService を監視する場合は rem を削除してコメントインしてください。

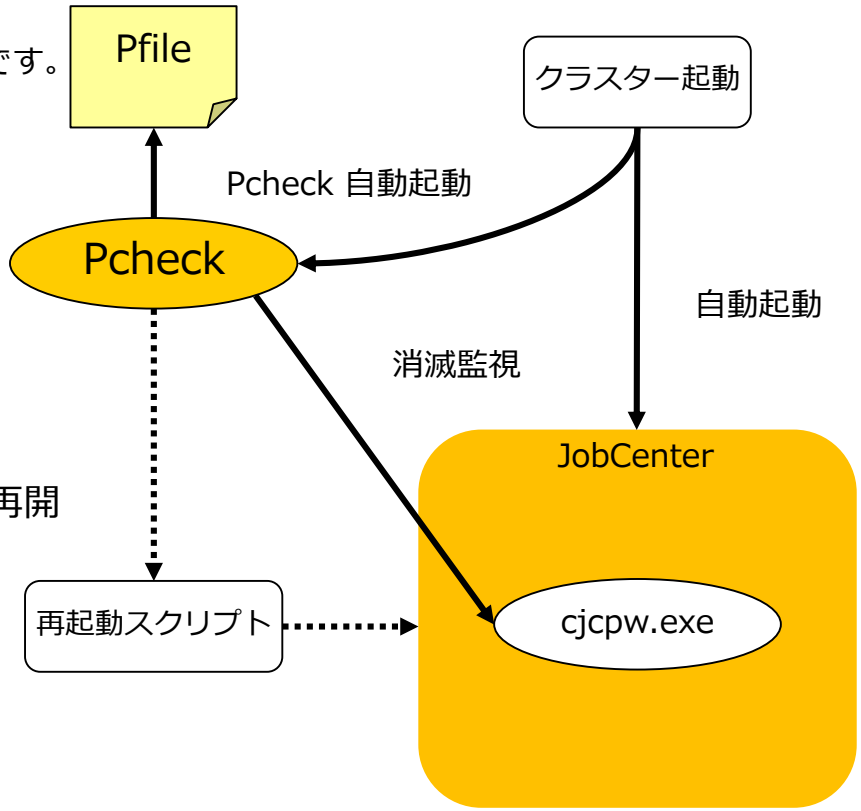
© NEC Corporation 2022

1. 概要

・本事例は WebSAM JobCenter 15.4 を使用しています。
JobCenter のインストール Dir は <C:¥JobCenter¥SV> です。

タイプ	Process
常駐プロセス	cjcpw.exe

監視手順
- クラスター起動時にプロセス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開



© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

2. Pfile

Pfile <sample_websamjc>

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval        5
MonitorInterval         10
DumpFileName            "C:¥Program Files (x86)¥HA¥ProcessSaver¥log¥websamjc.dmp"
UpMessageReduceMode     disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;Grou
pTag;ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch;StallCheck
cjcpw.exe,"C:¥Program Files
(x86)¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_websamjc.bat",86400,3,Shutdown,Process
```


© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト <restart_websamjc.bat>

```
@echo off

rem WebSAM JobCenter の再起動スクリプトです

rem WebSAM JobCenter を停止します
C:¥JobCenter¥SV¥bin¥cluster¥cjcpw -stop site-name
TIMEOUT /T 10 /NOBREAK>nul

rem WebSAM JobCenter を起動します
start C:¥JobCenter¥SV¥bin¥cluster¥cjcpw -u Administrator site-name db-directory
TIMEOUT /T 10 /NOBREAK>nul

exit
```

停止コマンドが終了するまで起動コマンドを待ち合わせます。
環境によって待ち合わせ時間が異なりますので調整してください。

JobCenter 管理者を環境に合わせて指定してください。

サイト名とデータベースディレクトリ名は環境に合わせて指定してください。

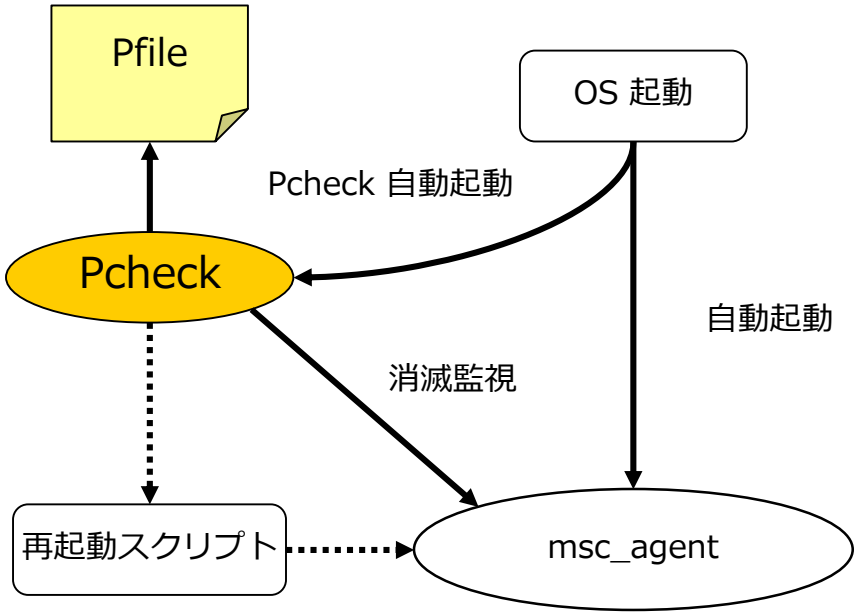
© NEC Corporation 2022

10. WebSAM SystemManager G 10.1 の監視事例

1. 概要

・本事例は WebSAM SystemManager G 10.1 エージェントを使用しています。

タイプ	Service
表示名	SystemManager G Agent Service
サービス名	msc_agent
常駐プロセス	msc_opm.exe
スタートアップ	自動
回復機能	何もしない
依存関係	なし



監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

© NEC Corporation 2022

2. Pfile

Pfile <sample_websamsmg_agent>

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval        5
MonitorInterval         10
DumpFileName            "C:¥Program Files (x86)¥HA¥ProcessSaver¥log¥websamsmg_agent.dmp"
UpMessageReduceMode     disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;Grou
pTag;ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch;StallCheck
msc_agent,"C:¥Program Files
(x86)¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_websamsmg_agent.bat",86400,3,Continue,Service
```


© NEC Corporation 2022

3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト <restart_websamsmg_agent.bat>

```
@echo off

rem WebSAM SystemManager G Agent の再起動スクリプトです
net start msc_agent

exit
```

net コマンドを使用してサービスの起動を行います。

© NEC Corporation 2022

11. Oracle 10g の監視事例

・本事例は Oracle 10g R2 を使用しています。
Oracle にて提供されている以下のサービスを監視する場合を紹介します。

（１）システム一意
Oracle をインストールした際に登録されるサービスです。
Oracle 一意のサービスのため、複数登録されません。
【HOME_NAME】は、Oracle のインストール時に指定するホーム名です。

・ Oracle【HOME_NAME】iSQL*Plus （OracleOraDb10g_home1iSQL*Plus）
・ Oracle【HOME_NAME】TNSListener （OracleOraDb10g_home1TNSListener）

*本書では、【HOME_NAME】（ホーム名）を “OraDb10g_home1” とします。

（２） インスタンス
DB を作成した際に登録されるサービスです。
DB 数分サービスが登録されます。
【SID】は、Oracle のデータベース作成時に指定するデータベース名です。

・ OracleDBConsole【SID 名】（OracleDBConsoleorcl）
・ OracleService【SID 名】（OracleServiceORCL）

*本書では、【SID 名】（データベース名）を “orcl” とします。

© NEC Corporation 2022

1. システム一意

1-1. 概要

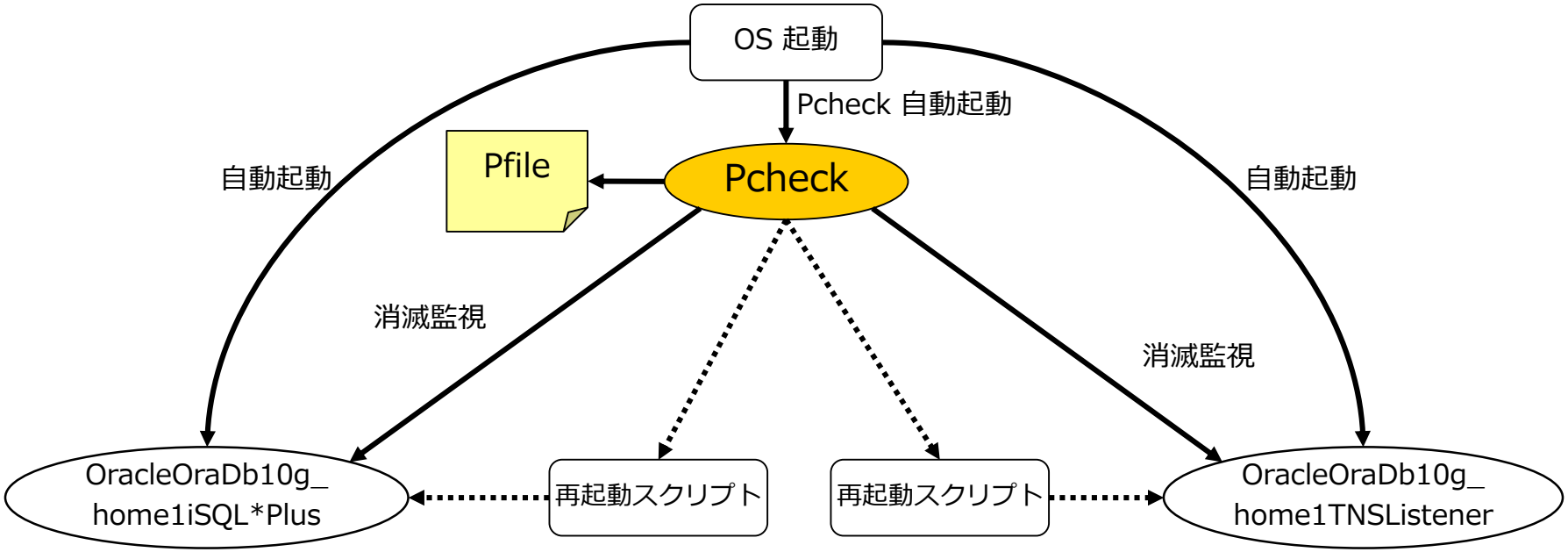
- OracleOraDb10g_home1iSQL*Plus
- OracleOraDb10g_home1TNSListener

タイプ	Service	Service
表示名	OracleOraDb10g_home1iSQL*Plus	OracleOraDb10g_home1TNSListener
サービス名	OracleOraDb10g_home1iSQL*Plus	OracleOraDb10g_home1TNSListener
常駐プロセス	isqlplussvc.exe	TNSLSNR.EXE
スタートアップ	自動	自動
回復機能	何もしない	何もしない
依存関係	なし	なし

© NEC Corporation 2022

11. （続き）

1-1. （続き）



監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

© NEC Corporation 2022

1-2. Pfile

Pfile <sample_oracle10g_system>

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval          5
MonitorInterval          10
DumpFileName             "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥oracle10g_system.dmp"
UpMessageReduceMode        disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;Group
Tag;ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
OracleOraDb10g_home1iSQL*Plus,"C:¥ProgramFiles¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlplus_10g.bat",86400,3,
Continue,Service
OracleOraDb10g_home1TNSListener,"C:¥ProgramFiles¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_tnslistener_10g.bat",864
00,3,Continue,Service
```

Oracle インストール時に指定したホーム名に変更してください。
OracleOraDb10g_home1iSQL*Plus → Oracle 【HOME_NAME】 iSQL*Plus
OracleOraDb10g_home1TNSListener → Oracle 【HOME_NAME】 TNSListener

© NEC Corporation 2022

1-3. 再起動スクリプト

・ OracleOraDb10g_home1iSQL*Plus <restart_sqlplus_10g.bat>

```
@echo off

rem iSQL*Plus の再起動スクリプトです。
sc start OracleOraDb10g_home1iSQL*Plus

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

・ OracleOraDb10g_home1TNSListener <restart_tnslistener_10g.bat>

```
@echo off

rem TNSListener の再起動スクリプトです。
sc start OracleOraDb10g_home1TNSListener

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

Oracle インストール時に指定したホーム名に変更してください。
OracleOraDb10g_home1iSQL*Plus → Oracle 【HOME_NAME】 iSQL*Plus
OracleOraDb10g_home1TNSListener → Oracle 【HOME_NAME】 TNSListener

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

2. インスタンス

2-1. 概要

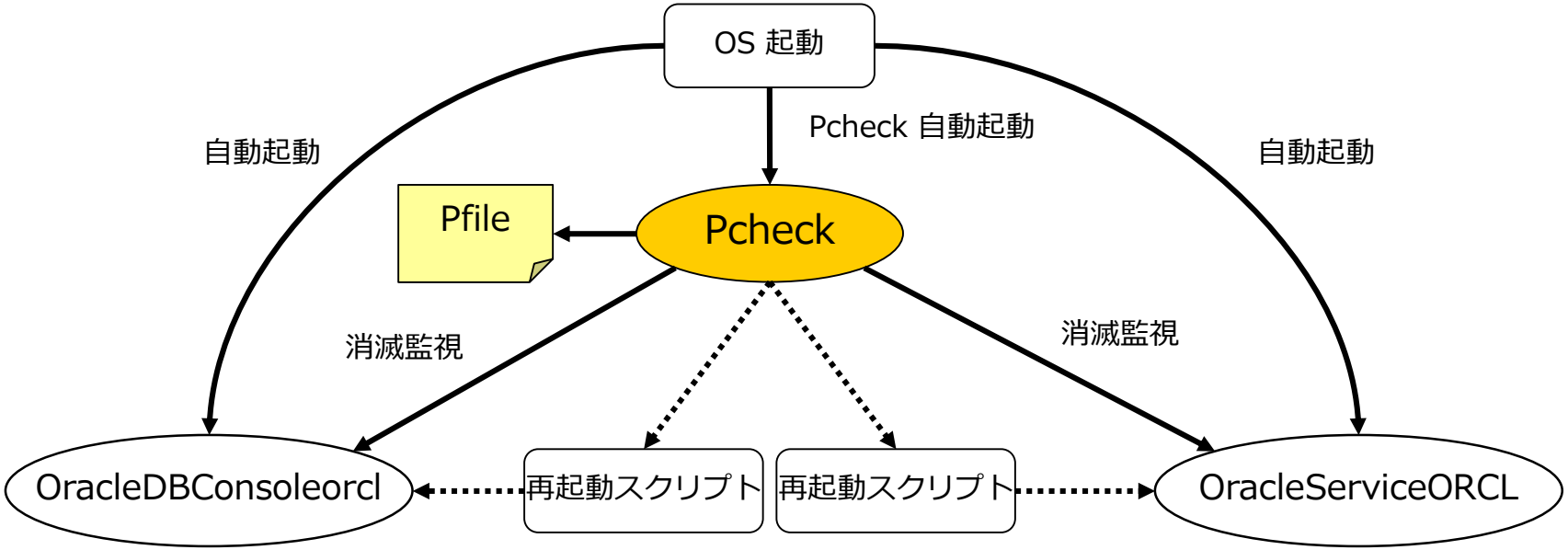
- OracleDBConsoleorcl
- OracleServiceORCL

タイプ	Service	Service
表示名	OracleDBConsoleorcl	OracleServiceORCL
サービス名	OracleDBConsoleorcl	OracleServiceORCL
常駐プロセス	nmesrvc.exe emagent.exe perl.exe java.exe cmd.exe	oracle.exe
スタートアップ	自動	自動
回復機能	何もしない	何もしない
依存関係	なし	なし

© NEC Corporation 2022

11. （続き）

2-1. （続き）



監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

2-2. Pfile

Pfile <sample_oracle10g_instance>

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval          5
MonitorInterval           10
DumpFileName              "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥oracle10g_instance.dmp"
UpMessageReduceMode         disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
OracleDBConsoleorcl,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_oracle10gdbconsole.bat",86400,3,Continue,Service;RestartWaitTime=600
OracleServiceORCL,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_oracle10gsvc.bat",86400,3,Continue,Service
```

データベース作成時に指定したデータベース名に変更してください。
OracleDBConsoleorcl → OracleDBConsole 【SID名】
OracleServiceORCL → OracleService 【SID名】

© NEC Corporation 2022

2-3. 再起動スクリプト

・ OracleDBConsoleorcl <restart_oracle10gdbconsole_base.bat>

```
@echo off

rem OracleDBConsoleの再起動スクリプトです。
rem 起動の前処理
cd C:¥WINDOWS¥system32
wmic process where "name = ¥"java.exe¥" and commandline = ¥" 【引数】 ¥" " delete

rem 起動処理
sc start OracleDBConsoleorcl

exit
```

Java プロセスを終了します。

sc コマンドを使用して
サービスの起動を行います。

【引数】の取得方法については次ページを参照してください。
※ この再起動スクリプトの内容は環境によって異なります。

データベース作成時に指定したデータベース名に変更してください。
OracleDBConsoleorcl → OracleDBConsole 【SID名】

© NEC Corporation 2022

2-3. （続き）

・ OracleDBConsoleorcl

wmic process where “name = ¥”java.exe¥”” get commandline の実行結果にて
下記の引数が取得されます。

【インストール Dir】¥jdk/bin/java -server -Xmx【全体の最大ヒープサイズ】 -XX:MaxPermSize=【Permanent 領域Max サイズ】 -XX:MinHeapFreeRatio=【Gorbage Collector 後に拡張されるまでに消費されるヒープ比率】 -XX:MaxHeapFreeRatio=【Gorbage Collector 後にシュリンクされるまでに消費されるヒープ比率】 -DORACLE_HOME=【インストール Dir】 -Doracle.home=【インストール Dir】/oc4j -Doracle.oc4j.localhome=【インストール Dir】¥【コンピューター名】_【SID 名】/sysman -DEMSTATE=【インストール Dir】¥¥【コンピューター名】_【SID 名】 -Doracle.j2ee.dont.use.memory.archive=true -Djava.protocol.handler.pkgs=HTTPClient -Doracle.security.jazn.config=【インストール Dir】/oc4j/j2ee/OC4J_DBConsole_【コンピューター名】_【SID 名】/config/jazn.xml -Djava.security.policy=【インストール Dir】/oc4j/j2ee/OC4J_DBConsole_【コンピューター名】_【SID 名】/config/java2.policy -Djava.security.properties=【インストール Dir】/oc4j/j2ee/home/config/jazn.security.props -DEMDROOT=【インストール Dir】¥¥【コンピューター名】_【SID 名】 -Dsysman.md5password=true -Drepapi.oracle.home=【インストール Dir】 -Ddisable.checkForUpdate=true -Djava.awt.headless=true -jar 【インストール Dir】/oc4j/j2ee/home/oc4j.jar -config 【インストール Dir】oc4j/j2ee/OC4J_DBConsole_【コンピューター名】 _【SID 名】/config/server.xml

※ 注意事項
【インストール Dir】oc4j/j2ee/OC4J_DBConsole_【コンピューター名】 _【SID 名】/config/server.xml があるものを記載してください。

© NEC Corporation 2022

2-3. （続き）

・ OracleDBConsoleorcl
<restart_oracle10gdbconsole.bat>

例）環境が以下の場合の再起動スクリプト

コンピューター名	: Win2003Oracle
インストール Dir	: C:¥oracle¥product¥10.2.0¥db_1
SID 名	: orcl
Xmx	: 256M
MaxPermSize	: 96M
MinHeapFreeRatio	: 20
MaxHeapFreeRatio	: 40

```
@echo off

rem OracleDBConsoleの再起動スクリプトです。
rem 起動の前処理

cd C:¥WINDOWS¥system32
wmic process where "name = ¥"java.exe¥" and commandline = ¥"C:¥¥oracle¥¥product¥¥10.2.0¥¥db_1¥¥jdk/bin/java -server -Xmx256M -XX:MaxPermSize=96m -XX:MinHeapFreeRatio=20 -XX:MaxHeapFreeRatio=40 -DORACLE_HOME=C:¥¥oracle¥¥product¥¥10.2.0¥¥db_1 -Doracle.home=C:¥¥oracle¥¥product¥¥10.2.0¥¥db_1/oc4j -Doracle.oc4j.localhome=C:¥¥oracle¥¥product¥¥10.2.0¥¥db_1¥¥Win2003Oracle_orcl/sysman -DEMSTATE=C:¥¥oracle¥¥product¥¥10.2.0¥¥db_1¥¥Win2003Oracle_orcl -Doracle.j2ee.dont.use.memory.archive=true -Djava.protocol.handler.pkgs=HTTPClient -Doracle.security.jazn.config=C:¥¥oracle¥¥product¥¥10.2.0¥¥db_1/oc4j/j2ee/OC4J_DBConsole_Win2003Oracle_orcl/config/jazn.xml -Djava.security.policy=C:¥¥oracle¥¥product¥¥10.2.0¥¥db_1/oc4j/j2ee/OC4J_DBConsole_Win2003Oracle_orcl/config/java2.policy -Djava.security.properties=C:¥¥oracle¥¥product¥¥10.2.0¥¥db_1/oc4j/j2ee/home/config/jazn.security.props -DEMDROOT=C:¥¥oracle¥¥product¥¥10.2.0¥¥db_1¥¥Win2003Oracle_orcl -Dsysman.md5password=true -Drepapi.oracle.home=C:¥¥oracle¥¥product¥¥10.2.0¥¥db_1 -Ddisable.checkForUpdate=true -Djava.awt.headless=true -jar C:¥¥oracle¥¥product¥¥10.2.0¥¥db_1/oc4j/j2ee/home/oc4j.jar -config C:¥¥oracle¥¥product¥¥10.2.0¥¥db_1/oc4j/j2ee/OC4J_DBConsole_Win2003Oracle_orcl/config/server.xml¥"" delete

rem 起動処理
sc start OracleDBConsoleorcl
exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

データベース作成時に指定したデータベース名に変更してください。
OracleDBConsoleorcl → OracleDBConsole 【SID名】

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

11. （続き）

2-3. （続き）

・ OracleServiceORCL <restart_oracle10gsvc.bat>

```
@echo off

rem OracleService の再起動スクリプトです。
sc start OracleServiceORCL

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

データベース作成時に指定したデータベース名に変更してください。
OracleServiceORCL → OracleService 【SID名】

© NEC Corporation 2022

12. Oracle 11g の監視事例

・本事例は Oracle 11g R2 を使用しています。
Oracle にて提供されている以下のサービスを監視する場合を紹介します。

（1）システム一意
Oracle をインストールした際に登録されるサービスです。
Oracle 一意のサービスのため、複数登録されません。
【HOME_NAME】は、Oracle のインストール時に指定するホーム名です。

・ Oracle【HOME_NAME】TNSListener （OracleOraDb11g_home1TNSListener）

*本書では、【HOME_NAME】（ホーム名）を “OraDb11g_home1” とします。

（2） インスタンス
DB を作成した際に登録されるサービスです。
DB 数分サービスが登録されます。
【SID】は、Oracle のデータベース作成時に指定するデータベース名です。

・ OracleDBConsole【SID 名】（OracleDBConsoleorcl）
・ OracleService【SID 名】（OracleServiceORCL）

*本書では、【SID 名】（データベース名）を “orcl” とします。

© NEC Corporation 2022

1. システム一意

1-1. 概要

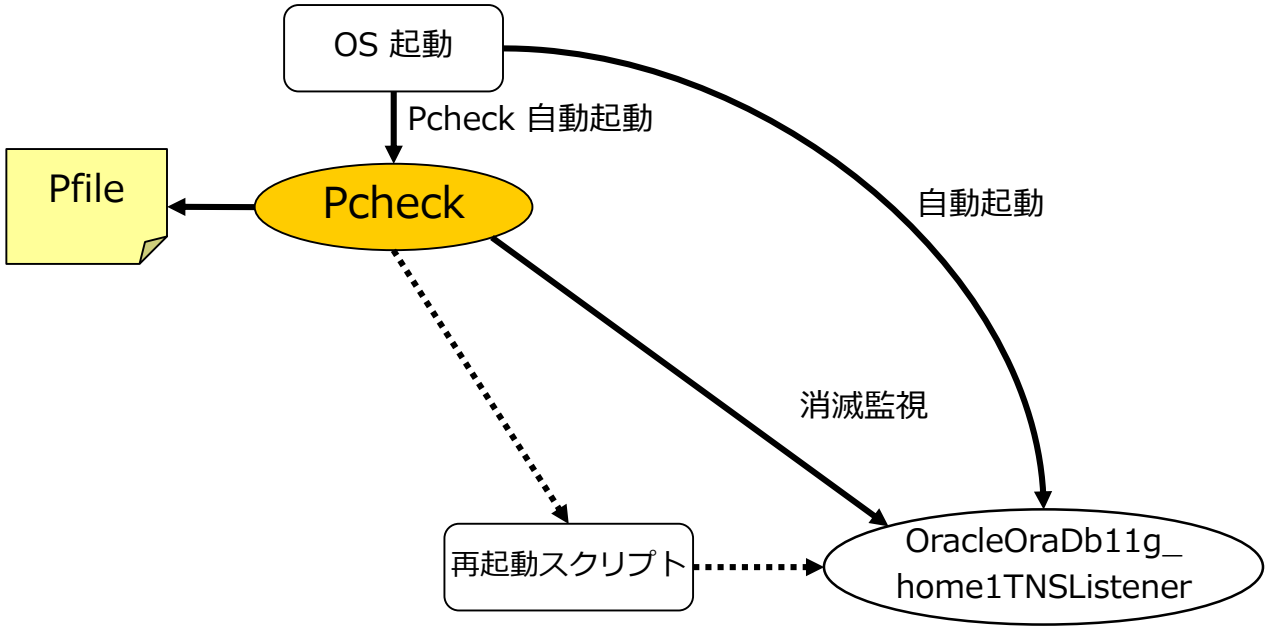
・ OracleOraDb11g_home1TNSListener

タイプ	Service
表示名	OracleOraDb11g_home1TNSListener
サービス名	OracleOraDb11g_home1TNSListener
常駐プロセス	TNSLSNR.EXE
スタートアップ	自動
回復機能	何もしない
依存関係	なし

© NEC Corporation 2022

12. （続き）

1-1. （続き）



監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

1-2. Pfile

Pfile <sample_oracle11g_system>

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval          5
MonitorInterval           10
DumpFileName              "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥oracle11g_system.dmp"
UpMessageReduceMode       disable

##### PENT #####
## Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;Group
Tag;ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
OracleOraDb11g_home1TNSListener,"C:¥ProgramFiles¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_tnslistener_11g.bat",86400,3,C
ontinue,Service
```

Oracle インストール時に指定したホーム名に変更してください。
OracleOraDb11g_home1TNSListener → Oracle 【HOME_NAME】 TNSListener

© NEC Corporation 2022

12. （続き）

1-3. 再起動スクリプト

・ OracleOraDb11g_home1TNSListener <restart_tnslistener_11g.bat>

```
@echo off

rem TNSListener の再起動スクリプトです。
sc start OracleOraDb11g_home1TNSListener

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

Oracle インストール時に指定したホーム名に変更してください。
OracleOraDb11g_home1TNSListener → Oracle 【HOME_NAME】 TNSListener

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

2. インスタンス

2-1. 概要

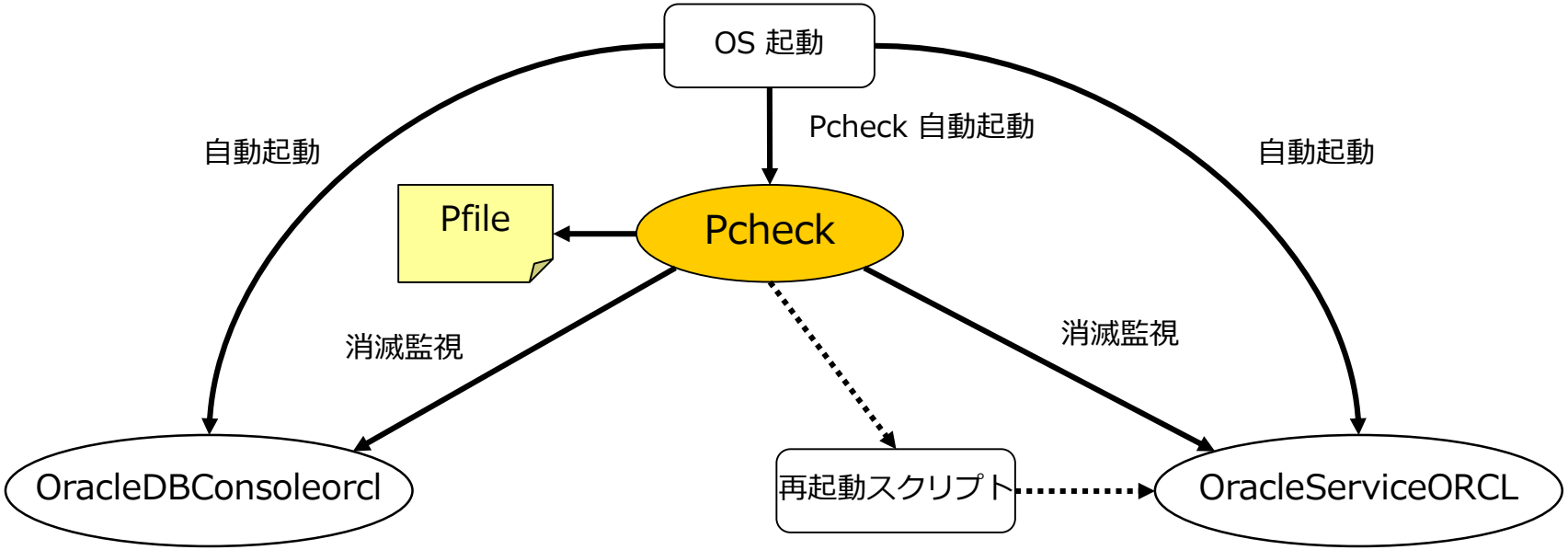
- OracleDBConsoleorcl
- OracleServiceORCL

タイプ	Service	Service
表示名	OracleDBConsoleorcl	OracleServiceORCL
サービス名	OracleDBConsoleorcl	OracleServiceORCL
常駐プロセス	nmesrvc.exe emagent.exe perl.exe java.exe cmd.exe	oracle.exe
スタートアップ	自動	自動
回復機能	何もしない	何もしない
依存関係	なし	なし

© NEC Corporation 2022

12. （続き）

2-1. （続き）



監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- OracleServiceORCL のみ消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

2-2. Pfile

Pfile <sample_oracle11g_instance>

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval          5
MonitorInterval           10
DumpFileName              "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥oracle11g_instance.dmp"
UpMessageReduceMode       disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;Clea
rCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
OracleDBConsoleorcl,,86400,0,Continue,Service
OracleServiceORCL,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_oracle11gsvc.bat",86400,3,Continue,Service
```

データベース作成時に指定したデータベース名に変更してください。
OracleDBConsoleorcl → OracleDBConsole 【SID名】
OracleServiceORCL → OracleService 【SID名】

© NEC Corporation 2022

2-3. 再起動スクリプト

・ OracleServiceORCL <restart_oracle11gsvc.bat>

```
@echo off

rem OracleService の再起動スクリプトです。
sc start OracleServiceORCL

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

データベース作成時に指定したデータベース名に変更してください。
OracleServiceORCL → OracleService 【SID名】

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

13. Oracle 12c の監視事例

・本事例は Oracle 12c を使用しています。
Oracle にて提供されている以下のサービスを監視する場合を紹介します。

（1）システム一意
Oracle をインストールした際に登録されるサービスです。
Oracle 一意のサービスのため、複数登録されません。
【HOME_NAME】は、Oracle のインストール時に指定するホーム名です。

・ Oracle【HOME_NAME】TNSListener （OracleOraDB12Home1TNSListener）

*本書では、【HOME_NAME】（ホーム名）を “OraDB12Home1” とします。

（2） インスタンス
DB を作成した際に登録されるサービスです。
DB 数分サービスが登録されます。
【SID】は、Oracle のデータベース作成時に指定するデータベース名です。

・ OracleService【SID 名】（OracleServiceORCL）
・ OracleVssWriter【SID 名】（OracleVssWriterORCL）

*本書では、【SID 名】（データベース名）を “orcl” とします。

© NEC Corporation 2022

1. システム一意

1-1. 概要

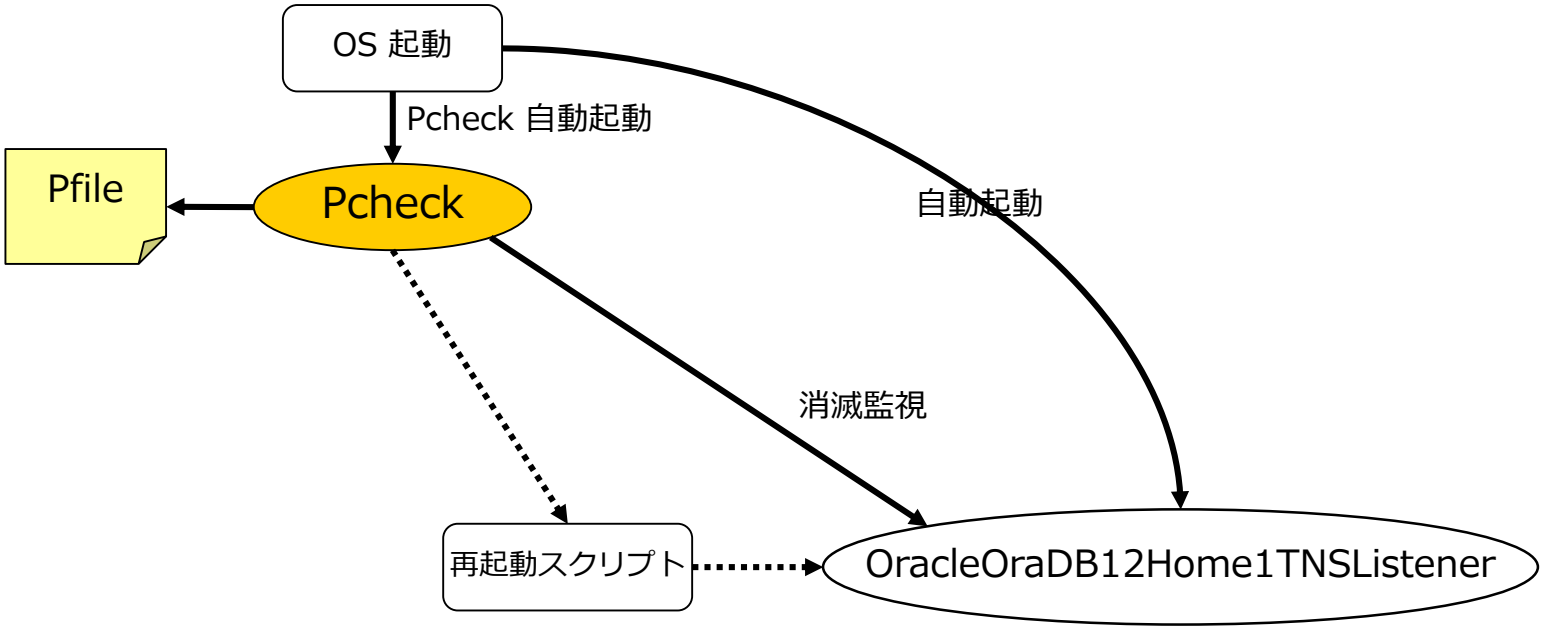
・ OracleOraDB12Home1TNSListener

タイプ	Service
表示名	OracleOraDB12Home1TNSListener
サービス名	OracleOraDB12Home1TNSListener
常駐プロセス	TNSLSNR.EXE
スタートアップ	自動
回復機能	何もしない
依存関係	なし

© NEC Corporation 2022

13. （続き）

1-1. （続き）



監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

© NEC Corporation 2022

1-2. Pfile

Pfile <sample_oracle12c_system>

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval          5
MonitorInterval           10
DumpFileName              "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥oracle12c_system.dmp"
UpMessageReduceMode       disable

##### PENT #####
## Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;Group
Tag;ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
OracleOraDB12Home1TNSListener,"C:¥Program
Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_tnslistener_12c.bat",86400,3,Continue,Service
```

Oracle インストール時に指定したホーム名に変更してください。
OracleOraDB12Home1TNSListener → Oracle 【HOME_NAME】 TNSListener

© NEC Corporation 2022

1-3. 再起動スクリプト

・ OracleOraDB12Home1TNSListener<restart_tnslistener_12c.bat>

```
@echo off

rem TNSListener の再起動スクリプトです。
sc start OracleOraDB12Home1TNSListener

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

Oracle インストール時に指定したホーム名に変更してください。
OracleOraDB12Home1TNSListener → Oracle 【HOME_NAME】 TNSListener

© NEC Corporation 2022

2. インスタンス

2-1. 概要

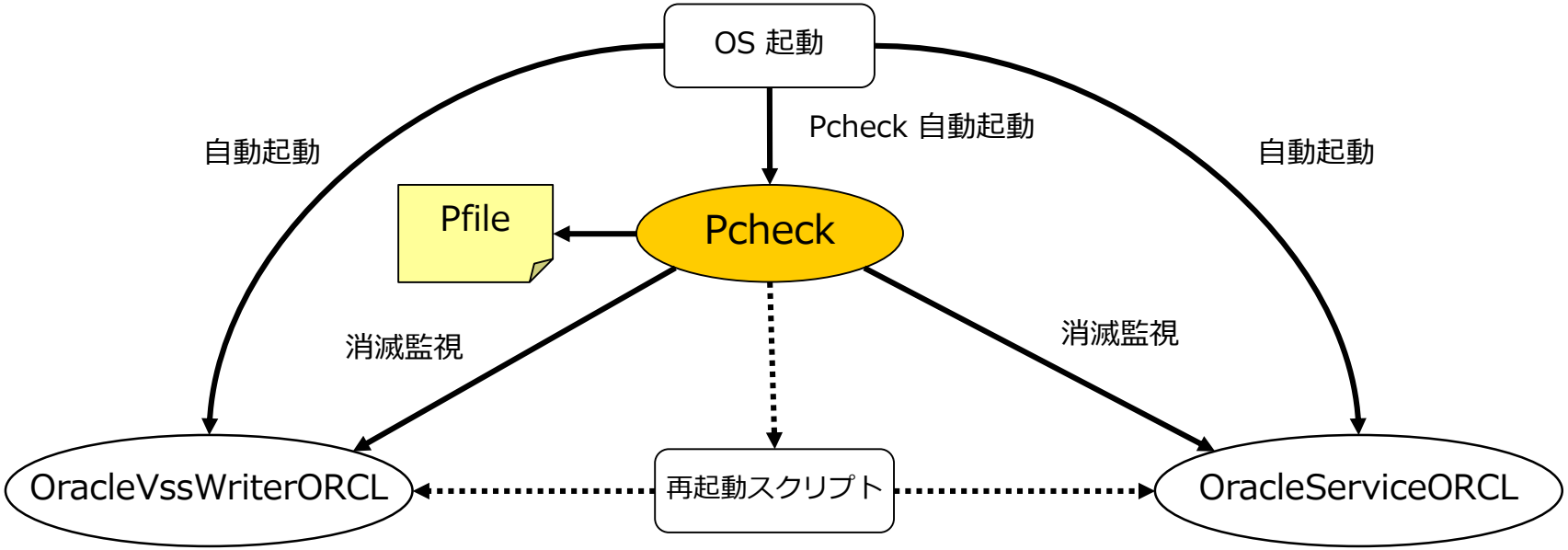
- OracleVssWriterORCL
- OracleServiceORCL

タイプ	Service	Service
表示名	OracleVssWriterORCL	OracleServiceORCL
サービス名	OracleVssWriterORCL	OracleServiceORCL
常駐プロセス	oravssw.exe	oracle.exe
スタートアップ	自動	自動
回復機能	何もしない	何もしない
依存関係	なし	なし

© NEC Corporation 2022

13. （続き）

2-1. （続き）



監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

2-2. Pfile

Pfile <sample_oracle12c_instance>

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval          5
MonitorInterval           10
DumpFileName              "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥oracle12c_instance.dmp"
UpMessageReduceMode       disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;Clea
rCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
OracleVssWriterORCL,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_vsswriter12c.bat",86400,3,Continue,Service
OracleServiceORCL,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_oracle12csvc.bat",86400,3,Continue,Service
```

データベース作成時に指定したデータベース名に変更してください。
OracleVssWriterORCL → OracleVssWriter 【SID名】
OracleServiceORCL → OracleService 【SID名】

© NEC Corporation 2022

2-3. 再起動スクリプト

- OracleServiceORCL <restart_oracle12csvc.bat>

```
@echo off

rem OracleService の再起動スクリプトです。
sc start OracleServiceORCL

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

- OracleVssWriterORCL <restart_vsswriter12c.bat>

```
@echo off

rem VssWriterService の再起動スクリプトです。
sc start OracleVssWriterORCL

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

データベース作成時に指定したデータベース名に変更してください。
OracleServiceORCL → OracleService 【SID名】
OracleVssWriterORCL → OracleVssWriter 【SID名】

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

14. IIS6.0 の監視事例

1. 概要

本事例は IIS6.0 を使用しています。
IIS6.0 は Windows Server 2003 に標準で搭載されています。

IIS6.0 にて提供される機能は、下記のとおりです。

-Web サーバー
使用するサービス
・IISADMIN
・W3SVC
・HTTPFilter
状態サーバーモード使用時に必要なサービス
・aspnet_state

-FTP サーバー
使用するサービス
・IISADMIN
・MSFTPSVC

© NEC Corporation 2022

14. （続き）

-SMTP サーバー
使用するサービス
・IISADMIN
・SMTPSVC

-POP3 サーバー
使用するサービス
・IISADMIN
・SMTPSVC
・POP3SVC

-NNTP サーバー
使用するサービス
・IISADMIN
・NNTPSVC

＊ IISADMIN サービスはすべての機能で使用されます。

© NEC Corporation 2022

14. （続き）

Web サーバー使用時に必要なサービス （状態サーバーモードなし）

タイプ	Service	Service	Service
表示名	IIS Admin Service	World Wide Web Publishing Service	HTTP SSL
サービス名	IISADMIN	W3SVC	HTTPFilter
常駐プロセス	inetinfo.exe	svchost.exe	lsass.exe
スタートアップ	自動	自動	手動
回復機能	プログラムを実行する	サービスを再起動する	何もしない
依存するサービス	・Remote Procedure Call(RPC) ・Security Acounts Manager	・IIS Admin Service ・Remote Procedure Call(RPC) ・HTTP SSL	・HTTP ・IIS Admin Service
依存されるサービス	・World Wide Web Publishing Service ・FTP Publishing Service ・Simple Mail Transfer Protocol(SMTP) ・Network News Transfer Protocol(NNTP) ・Microsoft POP3 Service ・HTTP SSL	なし	・World Wide Web Publishing Service

© NEC Corporation 2022

14. （続き）

Web サーバー使用時に必要なサービス （状態サーバーモードあり）

タイプ	Service	Service	Service	Service
表示名	IIS Admin Service	World Wide Web Publishing Service	HTTP SSL	ASP.NET State Service
サービス名	IISADMIN	W3SVC	HTTPFilter	aspnet_state
常駐プロセス	inetinfo.exe	svchost.exe	lsass.exe	aspnet_state.exe
スタートアップ	自動	自動	手動	自動
回復機能	プログラムを実行する	サービスを再起動する	何もしない	何もしない
依存するサービス	・Remote Procedure Call(RPC) ・Security Acounts Manager	・IIS Admin Service ・Remote Procedure Call(RPC) ・HTTP SSL	・HTTP ・IIS Admin Service	なし
依存されるサービス	・World Wide Web Publishing Service ・FTP Publishing Service ・Simple Mail Transfer Protocol(SMTP) ・Network News Transfer Protocol(NNTP) ・Microsoft POP3 Service ・HTTP SSL	なし	・World Wide Web Publishing Service	なし

© NEC Corporation 2022

14. （続き）

FTP サーバー使用時に必要なサービス

タイプ	Service	Service
表示名	IIS Admin Service	FTP Publishing Service
サービス名	IISADMIN	MSFTPSVC
常駐プロセス	inetinfo.exe	inetinfo.exe
スタートアップ	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	何もしない
依存するサービス	・Remote Procedure Call(RPC) ・Security Acounts Manager	・IIS Admin Service
依存されるサービス	・World Wide Web Publishing Service ・FTP Publishing Service ・Simple Mail Transfer Protocol(SMTP) ・Network News Transfer Protocol(NNTP) ・Microsoft POP3 Service ・HTTP SSL	なし

© NEC Corporation 2022

14. （続き）

SMTP サーバー使用時に必要なサービス

タイプ	Service	Service
表示名	IIS Admin Service	Simple Mail Transfer Protocol(SMTP)
サービス名	IISADMIN	SMTPSVC
常駐プロセス	inetinfo.exe	inetinfo.exe
スタートアップ	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	何もしない
依存するサービス	・Remote Procedure Call(RPC) ・Security Acounts Manager	・Event Log ・IIS Admin Service
依存されるサービス	・World Wide Web Publishing Service ・FTP Publishing Service ・Simple Mail Transfer Protocol(SMTP) ・Network News Transfer Protocol(NNTP) ・Microsoft POP3 Service ・HTTP SSL	なし

© NEC Corporation 2022

14. （続き）

POP3 サーバー使用時に必要なサービス

タイプ	Service	Service	Service
表示名	IIS Admin Service	Microsoft POP3 Service	Simple Mail Transfer Protocol(SMTP)
サービス名	IISADMIN	POP3SVC	SMTPSVC
常駐プロセス	inetinfo.exe	POP3Svc.exe	inetinfo.exe
スタートアップ	自動	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	サービスを再起動する	何もしない
依存するサービス	・Remote Procedure Call(RPC) ・Security Acounts Manager	・Event Log ・IIS Admin Service	・Event Log ・IIS Admin Service
依存されるサービス	・World Wide Web Publishing Service ・FTP Publishing Service ・Simple Mail Transfer Protocol(SMTP) ・Network News Transfer Protocol(NNTP) ・Microsoft POP3 Service ・HTTP SSL	なし	なし

© NEC Corporation 2022

14. （続き）

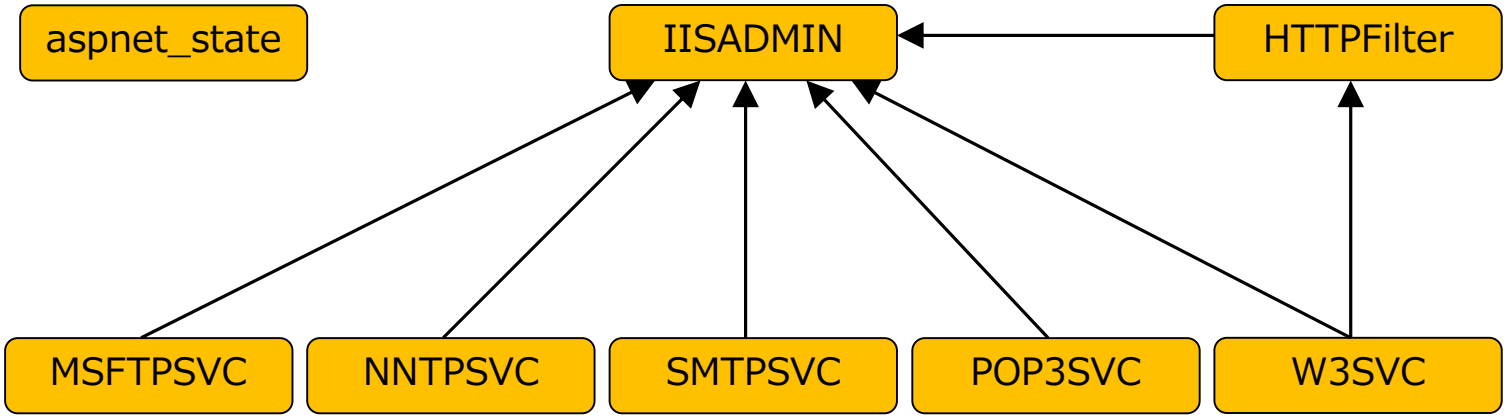
NNTP サーバー使用時に必要なサービス

タイプ	Service	Service
表示名	IIS Admin Service	Network News Transfer Protocol(NNTP)
サービス名	IISADMIN	NNTPSVC
常駐プロセス	inetinfo.exe	inetinfo.exe
スタートアップ	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	何もしない
依存するサービス	・Remote Procedure Call(RPC) ・Security Acounts Manager	・Event Log ・IIS Admin Service
依存されるサービス	・World Wide Web Publishing Service ・FTP Publishing Service ・Simple Mail Transfer Protocol(SMTP) ・Network News Transfer Protocol(NNTP) ・Microsoft POP3 Service ・HTTP SSL	なし

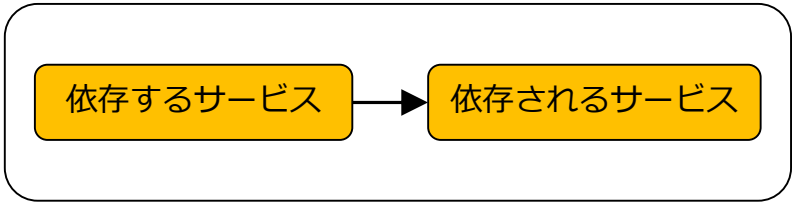
© NEC Corporation 2022

14. （続き）

サービスの依存関係



例）

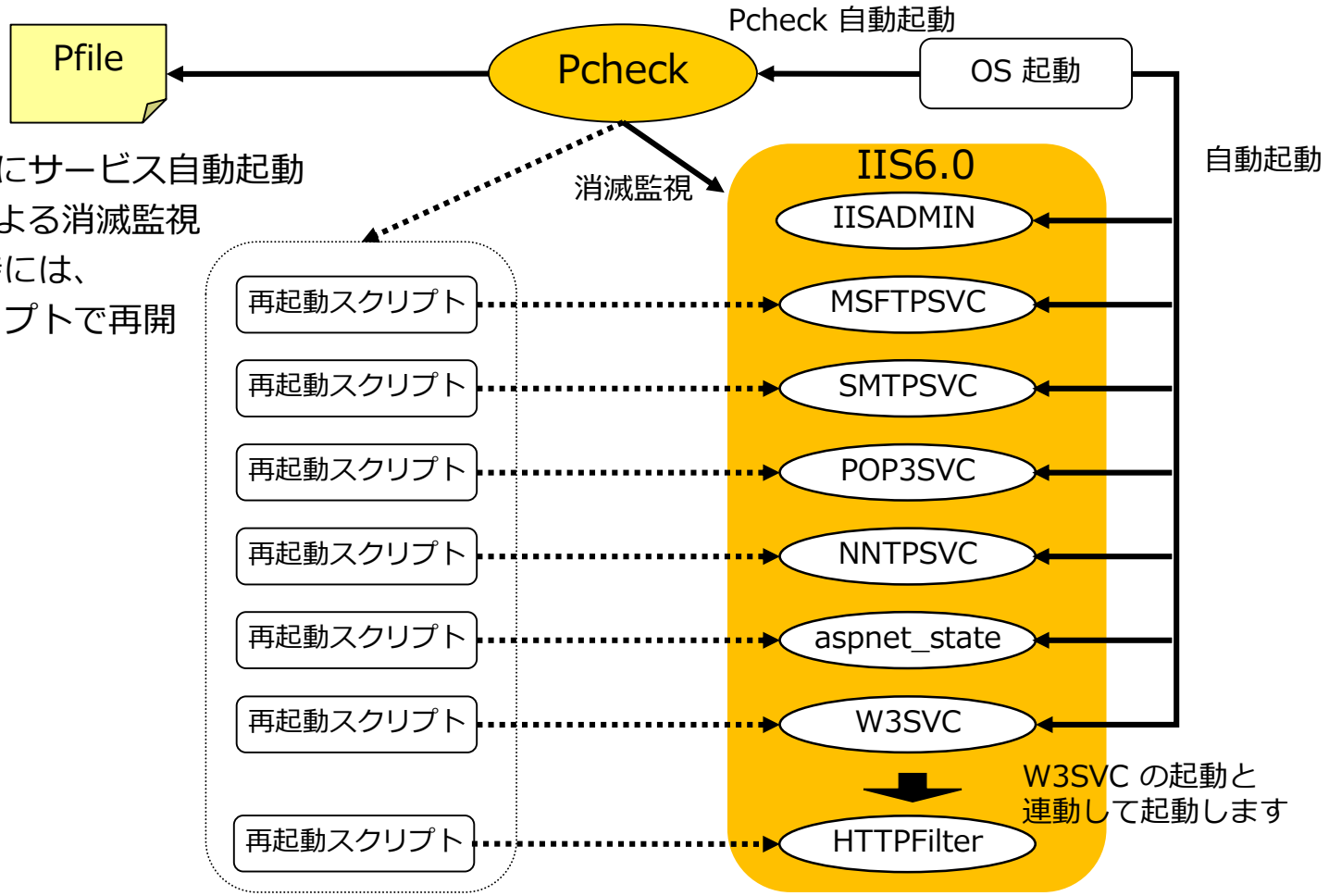


© NEC Corporation 2022

14. （続き）

監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、
再起動スクリプトで再開



© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

2. Pfile

Pfile <sample_iis6.0>

本 Pfile は IIS6.0 で 標準搭載されている機能をすべて監視する Pfile です。
本 Pfile は使用する機能や構築手順により、監視するサービスの名前や順番を
変更する必要があります。その場合、「4. Pfile 書き換え」 の手順で Pfile を変更してください。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval          5
MonitorInterval           10
DumpFileName              "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥IIS6.dmp"
UpMessageReduceMode       disable

##### PENT #####
## Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;
ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch

## NNTP サーバー  ##
NNTPSVC,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_IIS6_nntp.bat",86400,3,Continue,Service

## POP3 サーバー ##
POP3SVC,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_IIS6_pop3.bat",86400,3,Continue,Service
```

次ページへ続く

© NEC Corporation 2022

14. （続き）

続き

SMTP サーバー / POP3 サーバー
SMTPSVC,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_IIS6_smtp.bat",86400,3,Continue,Service

FTP サーバー
MSFTPSVC,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_IIS6_ftp.bat",86400,3,Continue,Service

Web サーバー
W3SVC,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_IIS6_w3.bat",86400,3,Continue,Service
HTTPFilter,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_IIS6_ssl.bat",86400,3,Continue,Service

全機能共通
IISADMIN,,86400,3,Continue,Service

Web サーバー（状態サーバーモード）##
aspnet_state,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_IIS6_aspnet_state.bat",86400,3,Continue,Service

© NEC Corporation 2022

3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト

- NNTPSVC <restart_IIS6_nntp.bat>

```
@echo off

rem NNTPSVC の再起動スクリプトです

:REPEAT

rem サービスの二重起動を防止するための処理を行います
sc query NNTPSVC | find "RUNNING"
if %ERRORLEVEL% == 0 exit

rem サービスの起動失敗を防止するための処理を行います
sc query IISADMIN | find "STOP_PENDING"
if %ERRORLEVEL% == 0 goto REPEAT

rem 起動処理
sc start NNTPSVC

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

14. （続き）

・ POP3SVC <restart_IIS6_pop3.bat>

```
@echo off

rem POP3SVC の再起動スクリプトです

:REPEAT

rem サービスの二重起動を防止するための処理を行います
sc query POP3SVC | find "RUNNING"
if %ERRORLEVEL% == 0 exit

rem サービスの起動失敗を防止するための処理を行います
sc query IISADMIN | find "STOP_PENDING"
if %ERRORLEVEL% == 0 goto REPEAT

rem 起動処理
sc start POP3SVC

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

© NEC Corporation 2022

14. （続き）

・ SMTPSVC <restart_IIS6_smtp.bat>

```
@echo off

rem SMTPSVC の再起動スクリプトです

:REPEAT

rem サービスの二重起動を防止するための処理を行います
sc query SMTPSVC | find "RUNNING"
if %ERRORLEVEL% == 0 exit

rem サービスの起動失敗を防止するための処理を行います
sc query IISADMIN | find "STOP_PENDING"
if %ERRORLEVEL% == 0 goto REPEAT

rem 起動処理
sc start SMTPSVC

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

14. （続き）

・ MSFTPSVC <restart_IIS6_ftp.bat>

```
@echo off

rem MSFTPSVC の再起動スクリプトです

:REPEAT

rem サービスの二重起動を防止するための処理を行います
sc query MSFTPSVC | find "RUNNING"
if %ERRORLEVEL% == 0 exit

rem サービスの起動失敗を防止するための処理を行います
sc query IISADMIN | find "STOP_PENDING"
if %ERRORLEVEL% == 0 goto REPEAT

rem 起動処理
sc start MSFTPSVC

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

14. （続き）

・ W3SVC <restart_IIS6_w3.bat>

```
@echo off

rem W3SVC の再起動スクリプトです

:REPEAT

rem サービスの二重起動を防止するための処理を行います
sc query W3SVC | find "RUNNING"
if %ERRORLEVEL% == 0 exit

rem サービスの起動失敗を防止するための処理を行います
sc query HTTPFilter | find "STOP_PENDING"
if %ERRORLEVEL% == 0 goto REPEAT
sc query IISADMIN | find "STOP_PENDING"
if %ERRORLEVEL% == 0 goto REPEAT

rem 起動処理
sc start W3SVC

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

© NEC Corporation 2022

14. （続き）

・ HTTPFilter <restart_IIS6_ssl.bat>

```
@echo off

rem HTTPFilter の再起動スクリプトです

:REPEAT

rem サービスの二重起動を防止するための処理を行います
sc query HTTPFilter | find "RUNNING"
if %ERRORLEVEL% == 0 exit

rem サービスの起動失敗を防止するための処理を行います
sc query IISADMIN | find "STOP_PENDING"
if %ERRORLEVEL% == 0 goto REPEAT

rem 起動処理
sc start HTTPFilter

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

14. （続き）

・ aspnet_state <restart_IIS6_aspnet_state.bat>

```
@echo off

rem aspnet_state の再起動スクリプトです

rem 起動処理
sc start aspnet_state

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

© NEC Corporation 2022

4. Pfile 書き換え

提供している Pfile を下記の観点で書き換えてください。

- 監視しないサービスについては、Pfile から削除してください。
- 機能の追加や削除を行った場合、サービス名が変わることがあります。
  そのため、表示されているとおりに Pfile のサービス名を書き換えてください。
- IISADMIN に依存するサービスは IISADMIN サービス停止時に、機能を追加した順番に停止します。そのため、機能を追加した逆順に Pfile を書き換えてください。

以降、Web サーバー （状態サーバーモードなし）、FTP サーバー、SMTP サーバー、POP3 サーバー、NNTP サーバーを監視する Pfile への書き換え手順を説明します。

© NEC Corporation 2022

14. （続き）

Pfile 書き換え手順

4-1. IIS6.0 の状態確認

⬇

4-2. Pfile の読み込み

⬇

4-3. 監視しないサービスの削除

⬇

4-4. 監視するサービスの並び替え

⬇

4-5. Pfile の保存

© NEC Corporation 2022

4-1. IIS6.0 の状態確認

IIS6.0 に関連するインストール済みのサービス、サービス名、サービスのインストール順の確認を行います。

（１） IIS6.0 の構成が終わった後に、コマンドプロンプトにて以下のコマンドを実行し、IIS6.0 に関連するすでにインストールされているサービスの一覧の情報を表示します。

（すべてのフォルダー配下で実行可能） ＞ iisreset /status

出力例 *インストールしている構成によってサービスの表示件数が異なります。

```
C:¥Documents and Settings¥Administrator>iisreset /status

Microsoft POP3 Service (POP3SVC) の状態：実行中
World Wide Web Publishing Service ( W3SVC ) の状態：実行中
Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) (SMTPSVC) の状態：実行中
Network News Transfer Protocol (NNTP) (NntpSvc) の状態：実行中
FTP Publishing Service (MSFtpsvc) の状態：実行中
HTTP SSL (HTTPFilter) の状態：実行中
```


© NEC Corporation 2022

14. （続き）

（２） IIS6.0 でインストールされているサービスを確認し、そのサービス名 （下線部） と表示順を確認してください。

```
C:¥Documents and Settings¥Administrator>iisreset /status

Microsoft POP3 Service (POP3SVC) の状態：実行中
World Wide Web Publishing Service ( W3SVC ) の状態：実行中
Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) (SMTPSVC) の状態：実行中
Network News Transfer Protocol (NNTP) (NntpSvc) の状態：実行中
FTP Publishing Service (MSFtpsvc) の状態：実行中
HTTP SSL (HTTPFilter) の状態：実行中
```


© NEC Corporation 2022

4-2. Pfile の読み込み

（1） 『Create Pfile』 で *Read* を押して
Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_iis6.0> の読み込みを
行ってください。

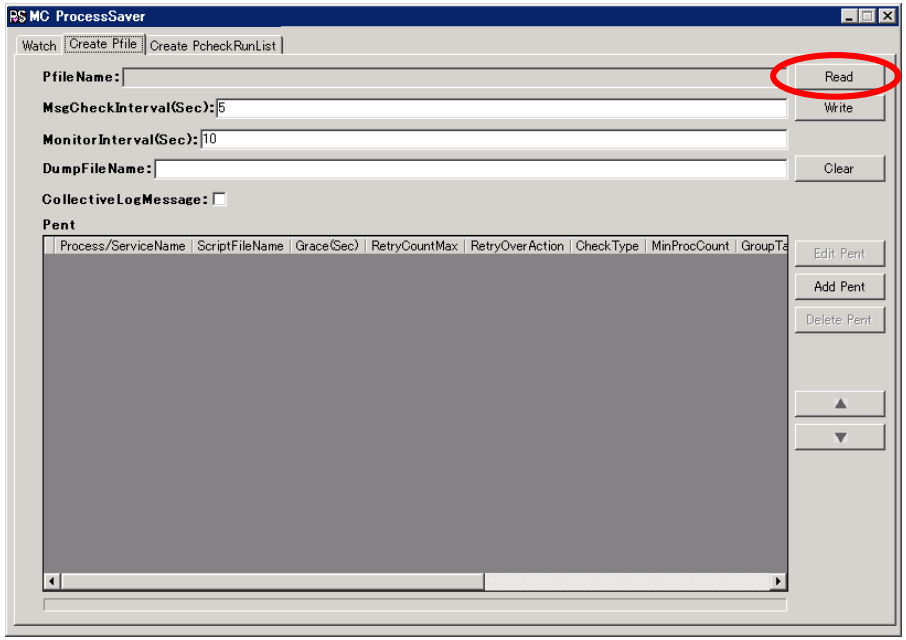


図1 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022

4-3. 監視しないサービスの削除

（1） 『Create Pfile』 の [Pent] から監視しないサービスの aspnet_state にカーソルをあわせて *Delete Pent* を押して削除してください。

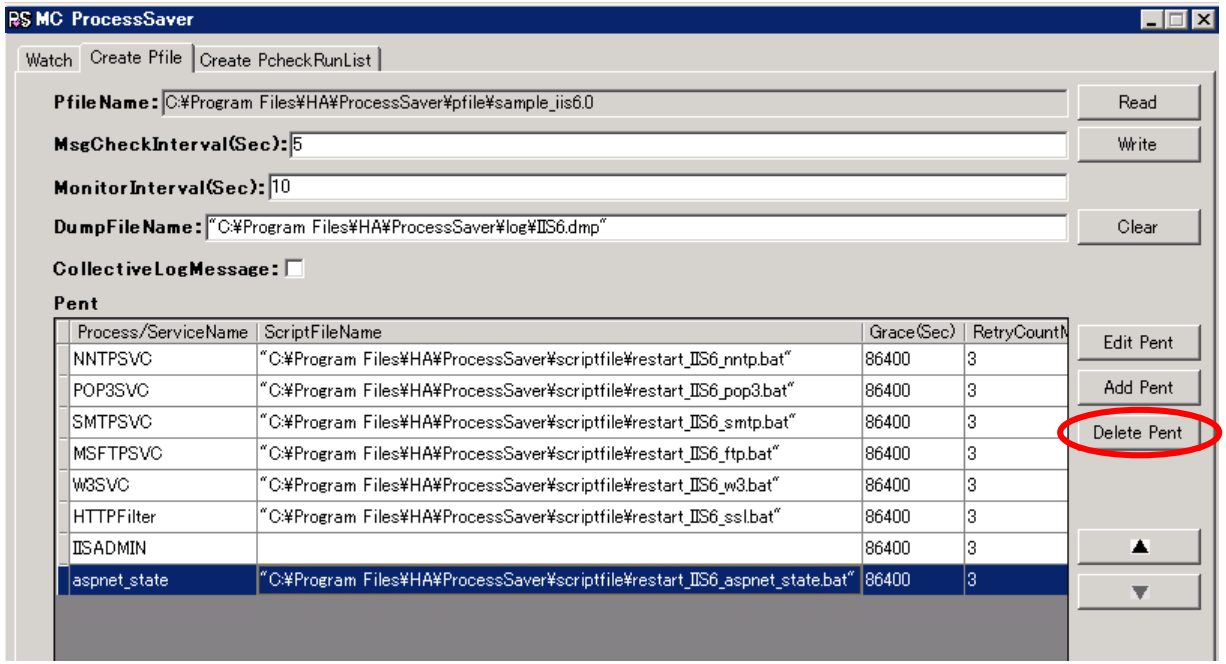


図2 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022

4-4. 監視するサービスの並び替え

（1） 「IIS の状態確認」 で確認した表示順とおりに [Pent] を並び替えてください。
並び替えの手順について「 CLUSTERPRO MC ProcessSaver 2.7 for Windows ユーザーズガイド（コンソール編）」を参照してください。また、IISADMIN が一番下であることを確認してください。

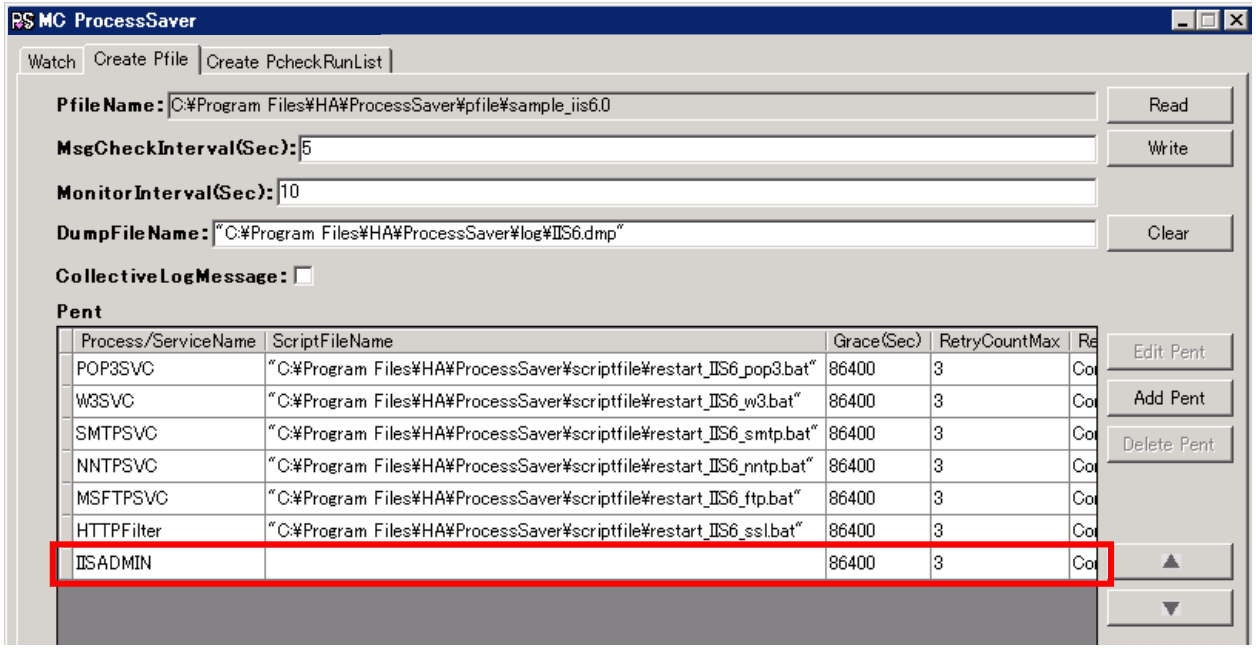


図3 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022

14. （続き）

（２） 監視するすべての [Process/ServiceName] が 「4-1. IIS6.0 の状態確認」 で確認したサービス名と同じであるか確認してください。

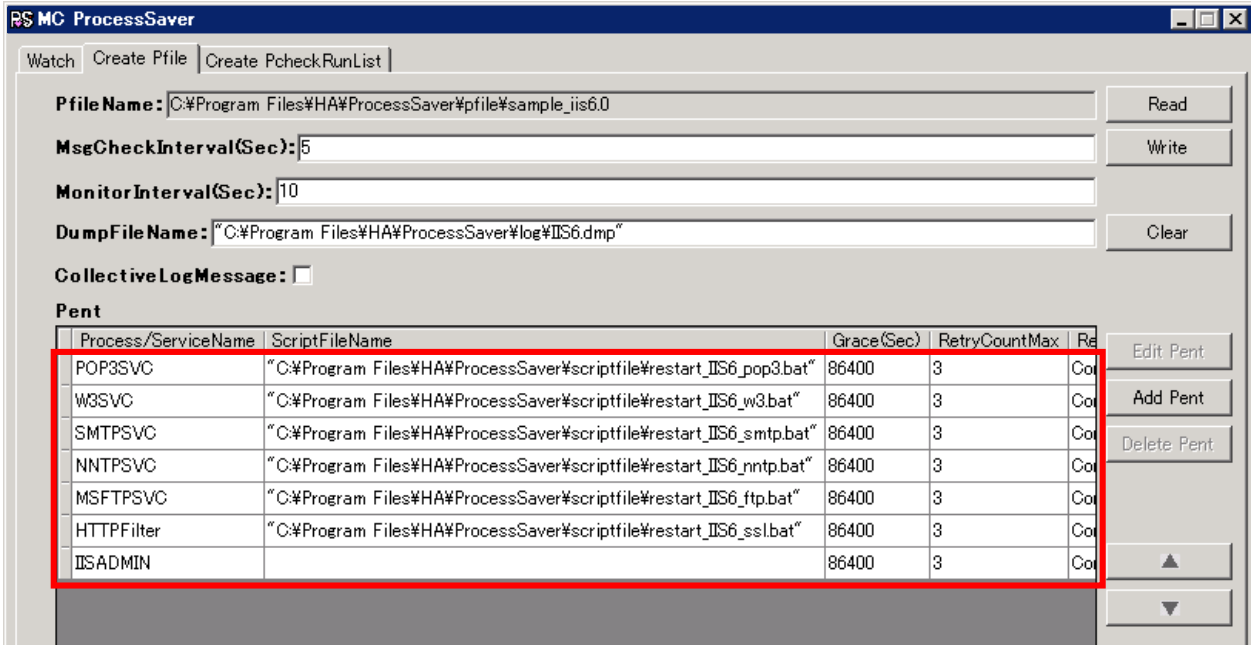


図4 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022

4-5. Pfile の保存

（1） 『Create Pfile』 で *Write* を押して
Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_iis6.0> を保存してください。

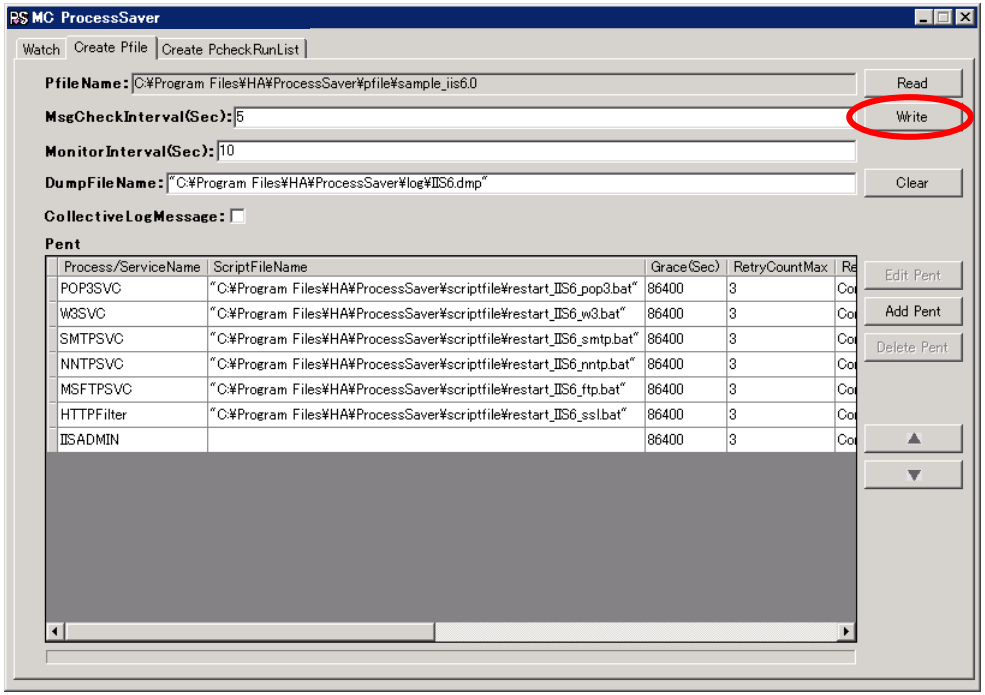


図5 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

15. IIS7.0 の監視事例

1. 概要

本事例は IIS7.0 を使用しています。
IIS7.0 は Windows Server 2008 に標準で搭載されています。

IIS7.0 にて提供される機能は、下記のとおりです。

-Web サーバー
使用するサービス
・WAS
・W3SVC
・AppHostSvc
状態サーバーモード使用時に必要なサービス
・aspnet_state

-リモート管理
使用するサービス
・WMSvc

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

15. （続き）

-FTP サーバー

IIS7.0 では FTP サーバーが 2 バージョンから選択可能で、どちらか 1 つしかインストールできません。

それぞれの FTP サーバーが使用するサービスは以下のとおりです。

（FTP）

使用するサービス

・IISADMIN

・MSFTPSVC

（FTP 7）

使用するサービス

・ftpsvc

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

15. （続き）

Web サーバー使用時に必要なサービス （状態サーバーモードなし）

タイプ	Service	Service	Service
表示名	Windows Process Activation Service	World Wide Web Publishing Service	Application Host Helper Service
サービス名	WAS	W3SVC	AppHostSvc
常駐プロセス	svchost.exe	svchost.exe	svchost.exe
スタートアップ	手動	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	何もしない	サービスを再起動する
依存するサービス	・Remote Procedure Call(RPC)	・Windows Process Activation Service	なし
依存されるサービス	・World Wide Web Publishing Service	なし	なし

© NEC Corporation 2022

15. （続き）

Web サーバー使用時に必要なサービス （状態サーバーモードあり）

タイプ	Service	Service	Service	Service
表示名	Windows Process Activation Service	World Wide Web Publishing Service	Application Host Helper Service	ASP.NET State Service
サービス名	WAS	W3SVC	AppHostSvc	aspnet_state
常駐プロセス	svchost.exe	svchost.exe	svchost.exe	aspnet_state.exe
スタートアップ	手動	自動	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	何もしない	サービスを再起動する	サービスを再起動する
依存するサービス	・Remote Procedure Call(RPC)	・Windows Process Activation Service	なし	なし
依存されるサービス	・World Wide Web Publishing Service	なし	なし	なし

© NEC Corporation 2022

15. （続き）

リモート管理使用時に必要なサービス

タイプ	Service
表示名	Web Management Service
サービス名	WMSvc
常駐プロセス	WMSvc.exe
スタートアップ	自動
回復機能	サービスを再起動する
依存するサービス	・HTTP
依存されるサービス	なし

© NEC Corporation 2022

15. （続き）

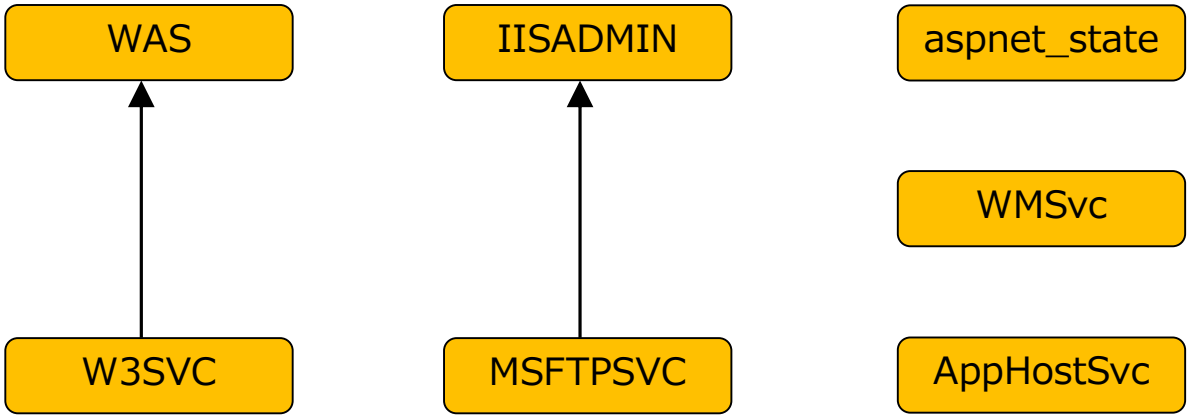
FTP サーバー （FTP） 使用時に必要なサービス

タイプ	Service	Service
表示名	IIS Admin Service	FTP Publishing Service
サービス名	IISADMIN	MSFTPSVC
常駐プロセス	inetinfo.exe	inetinfo.exe
スタートアップ	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	何もしない
依存するサービス	・Remote Procedure Call(RPC) ・Security Acounts Manager	・IIS Admin Service
依存されるサービス	・HTTP ・FTP Publishing Service	なし

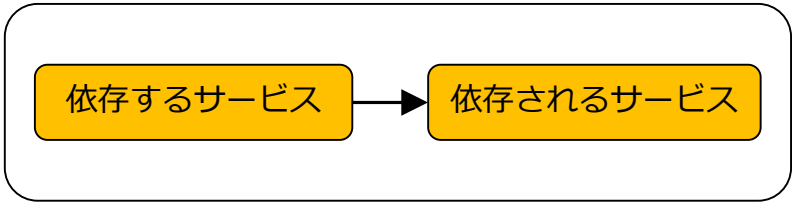
© NEC Corporation 2022

15. （続き）

FTP サーバー （FTP） 使用時 サービスの依存関係



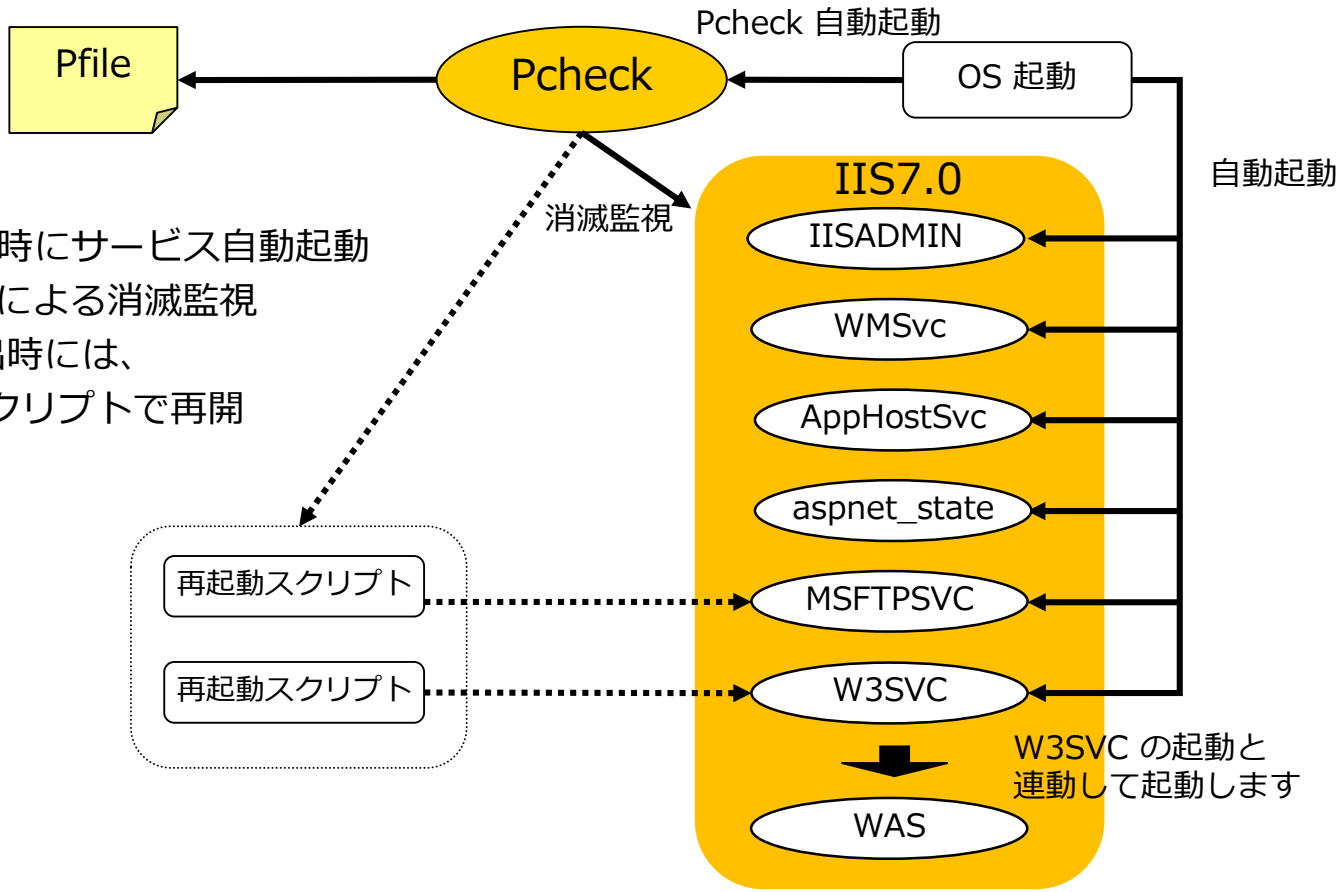
例）



© NEC Corporation 2022

15. （続き）

FTP サーバー （FTP） 使用時



監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、
  再起動スクリプトで再開

© NEC Corporation 2022

15. （続き）

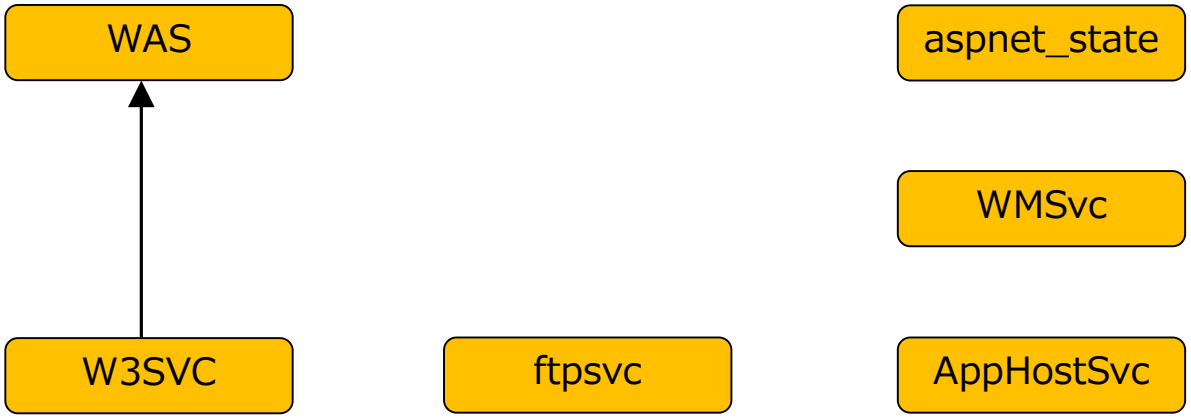
FTP サーバー （FTP 7） 使用時に必要なサービス

タイプ	Service
表示名	Microsoft FTP Service
サービス名	ftpsvc
常駐プロセス	svchost.exe
スタートアップ	自動
回復機能	サービスを再起動する
依存するサービス	・Remote Procedure Call(RPC)
依存されるサービス	なし

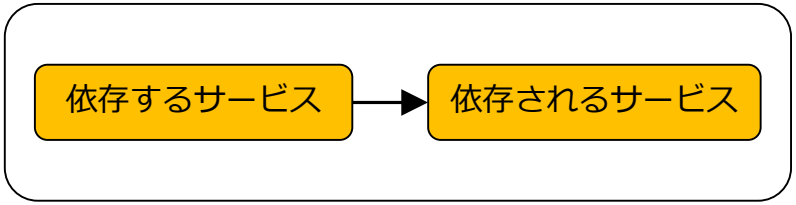
© NEC Corporation 2022

15. （続き）

FTP サーバー （FTP 7） 使用時
サービスの依存関係



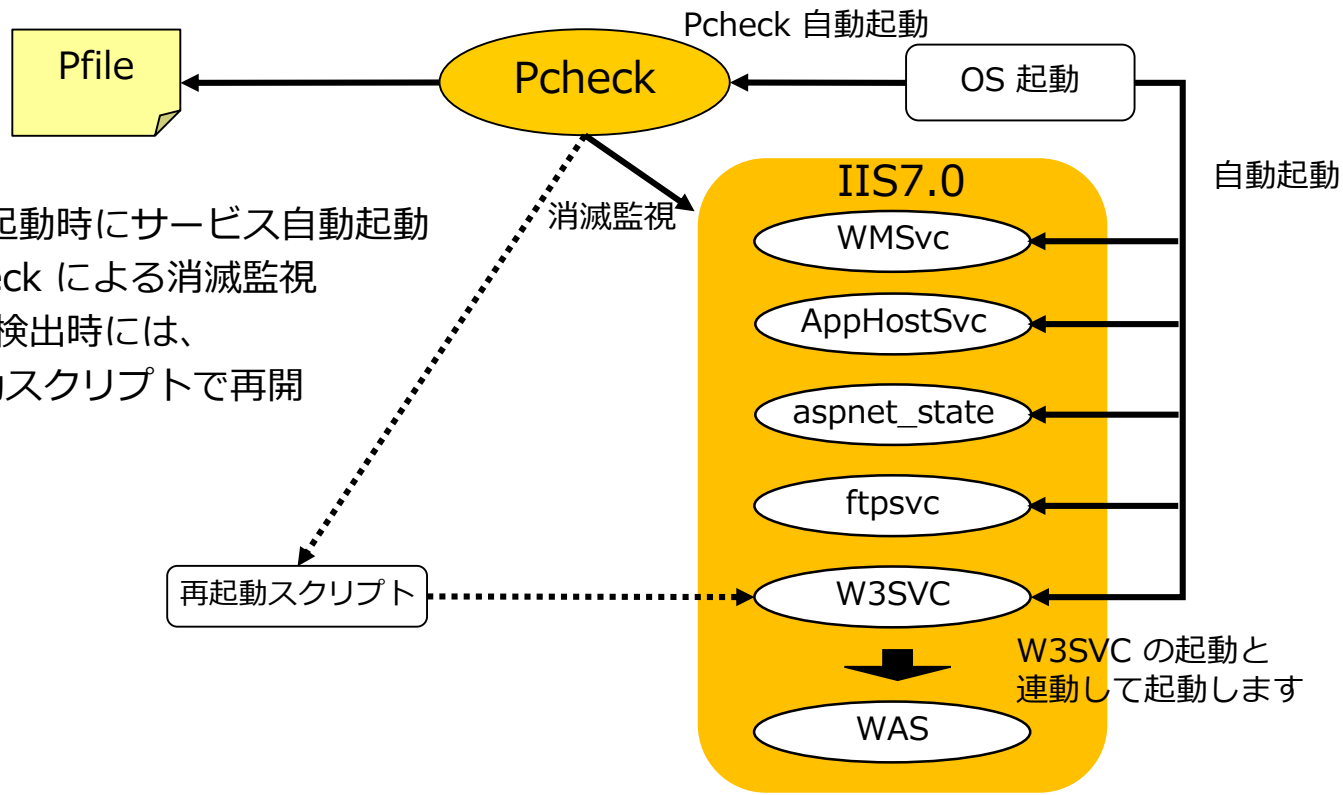
例）



© NEC Corporation 2022

15. （続き）

FTP サーバー （FTP 7） 使用時



監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、
  再起動スクリプトで再開

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

2. Pfile

Pfile <sample_iis7.0>

本 Pfile は IIS7.0 で 以下のサーバーまたは、機能を監視する Pfile です。
-Web サーバー （状態サーバーモードあり）
-リモート管理
-FTP サーバー （FTP）
本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。
本 Pfile は FTP サーバー （FTP 7） の監視はコメントアウトしていますので FTP サーバー （FTP 7） を監視するためには Pfile を変更する必要があります。その場合、「4. Pfile 書き換え」 の手順で Pfile を変更してください。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval          5
MonitorInterval           10
DumpFileName              "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥IIS7.dmp"
UpMessageReduceMode         disable
```

次ページへ続く

© NEC Corporation 2022

15. （続き）

続き

```
##### PENT #####
## Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;
ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch

## Web サーバー ##
AppHostSvc,,86400,3,Continue,Service
W3SVC,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_IIS7_w3.bat",86400,3,Continue,Service
WAS,,86400,3,Continue,Service

## Web サーバー（状態サーバーモード）##
aspnet_state,,86400,3,Continue,Service

## リモート管理 ##
WMSvc,,86400,3,Continue,Service

## FTP サーバー　##
MSFTPSVC,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_IIS7_ftp.bat",86400,3,Continue,Service
IISADMIN,,86400,3,Continue,Service

### FTP 7 ###
# FTP を使用する設定にしているため FTP 7 はコメントアウトしています
#ftpsvc,,86400,3,Continue,Service
```


© NEC Corporation 2022

3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト

- W3SVC <restart_IIS7_w3.bat>

```
@echo off

rem W3SVC の再起動スクリプトです

:REPEAT

rem サービスの二重起動を防止するための処理を行います
sc query W3SVC | find "RUNNING"
if %ERRORLEVEL% == 0 exit

rem サービスの起動失敗を防止するための処理を行います
sc query WAS | find "STOP_PENDING"
if %ERRORLEVEL% == 0 goto REPEAT

rem 起動処理
sc start W3SVC

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

15. （続き）

・ MSFTPSVC <restart_IIS7_ftp.bat>

```
@echo off

rem MSFTPSVC の再起動スクリプトです

:REPEAT

rem サービスの二重起動を防止するための処理を行います
sc query MSFTPSVC | find "RUNNING"
if %ERRORLEVEL% == 0 exit

rem サービスの起動失敗を防止するための処理を行います
sc query IISADMIN | find "STOP_PENDING"
if %ERRORLEVEL% == 0 goto REPEAT

rem 起動処理
sc start MSFTPSVC

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

© NEC Corporation 2022

4. Pfile 書き換え

提供している Pfile を下記の観点で書き換えてください。

- 監視しないサービスについては、Pfile から削除してください。
- FTP サーバー （FTP 7） の監視については、コメントアウトしています。
  FTP サーバー （FTP 7） を使用する場合は、Pfile を書き換えて、コメントインしてください。

以降、Web サーバー （状態サーバーモードあり）、リモート管理、FTP サーバー （FTP 7） を使用する場合の
Pfile への書き換え手順を説明します。

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

15. （続き）

Pfile 書き換え手順

4-1. Pfile の直接編集

↓

4-2. Pfile の読み込み

↓

4-3. 監視しないサービスの削除

↓

4-4. Pfile の保存

© NEC Corporation 2022

4-1. Pfile の直接編集

（1） テキストエディターなどで
Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_iis7.0> を開き、
FTP 7 ### の下の # を削除し、コメントインしてください。

```
                    ・
                    ・
                    ・
## FTP サーバー ##
### FTP ###
MSFTPSVC,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_IIS7_ftp.bat",86400,3,Continue,Service
IISADMIN,,86400,3,Continue,Service

### FTP 7 ###
# FTP を使用する設定にしているため FTP 7 はコメントアウトしています
#msftpsvc,,86400,3,Continue,Service
```

を削除してコメントインしてください。

© NEC Corporation 2022

4-2. Pfile の読み込み

（1） 『Create Pfile』 で *Read* を押して
Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_iis7.0> の読み込みを
行ってください。
下記画面にならなかった場合、または Pfile の読み込み時にエラーか警告が出力された場合は、
Page 18 の手順により Pfile を再取得し、もう一度 「4-1. Pfile の直接編集」 から
やり直してください。

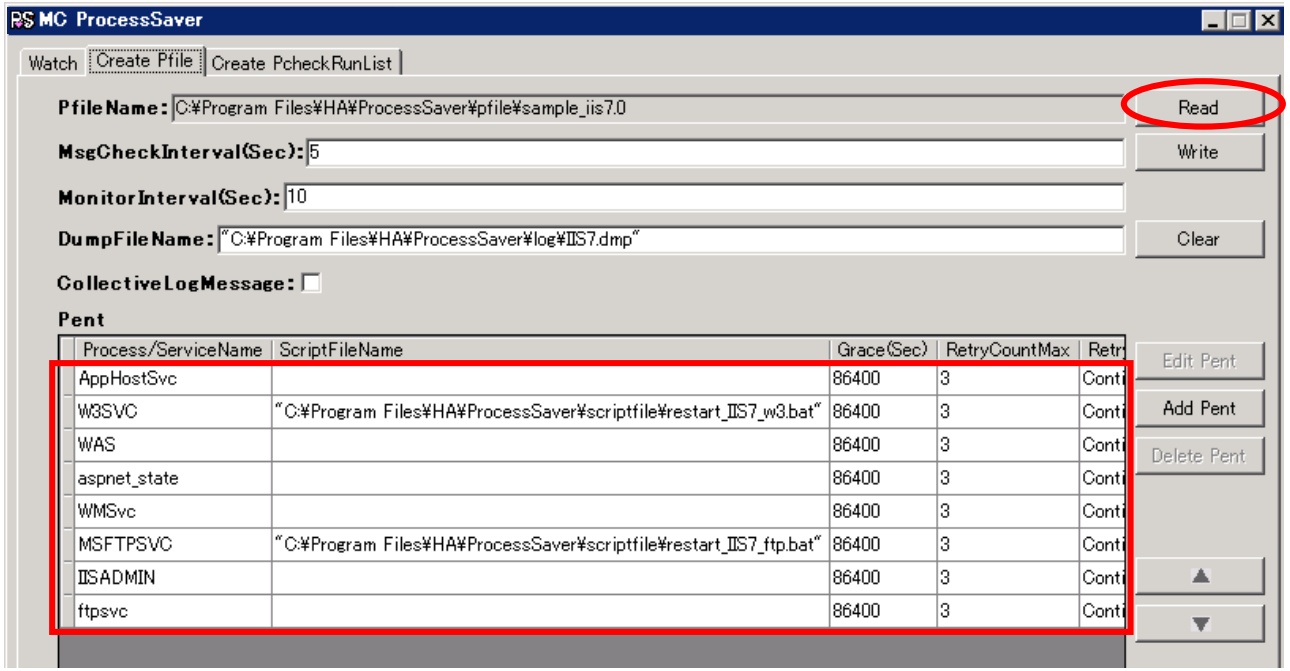


図6 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

4-3. 監視しないサービスの削除

（1） 『Create Pfile』 の [Pent] から FTP サーバー （FTP） のサービスの MSFTPSVC と IISADMIN を *Delete Pent* を押して削除してください。

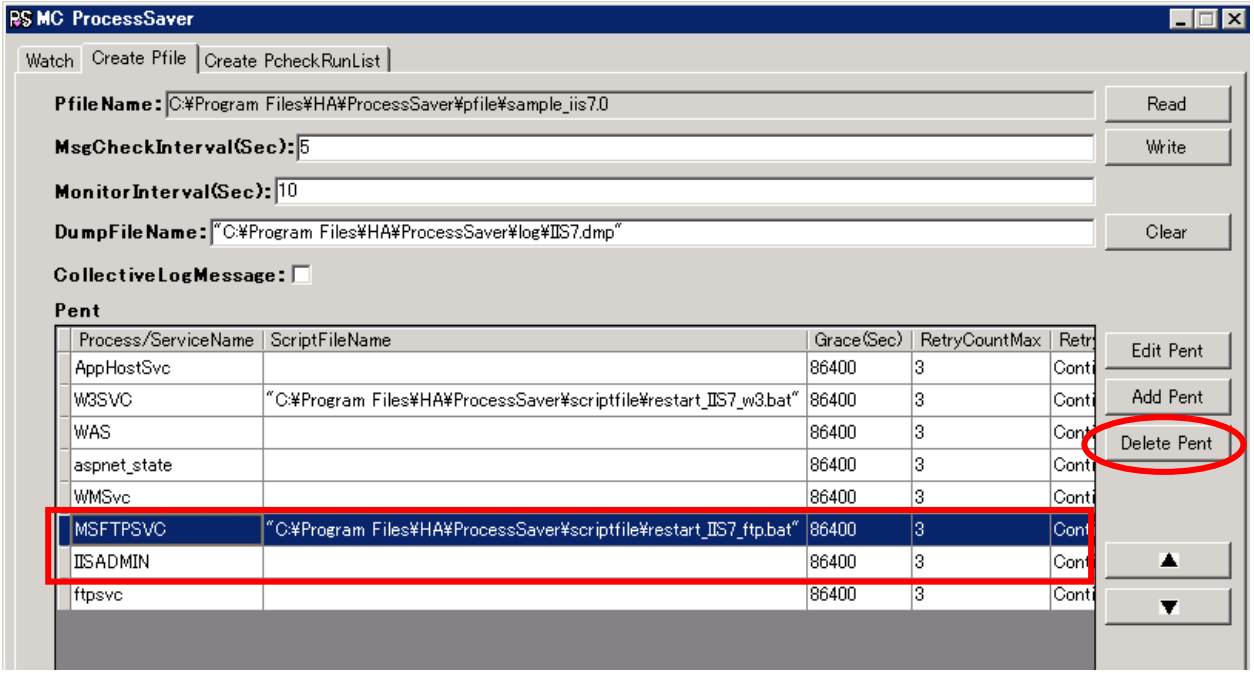


図7 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022

4-4. Pfile の保存

（1） 『Create Pfile』 で *Write* を押して
Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_iis7.0> を保存してください。

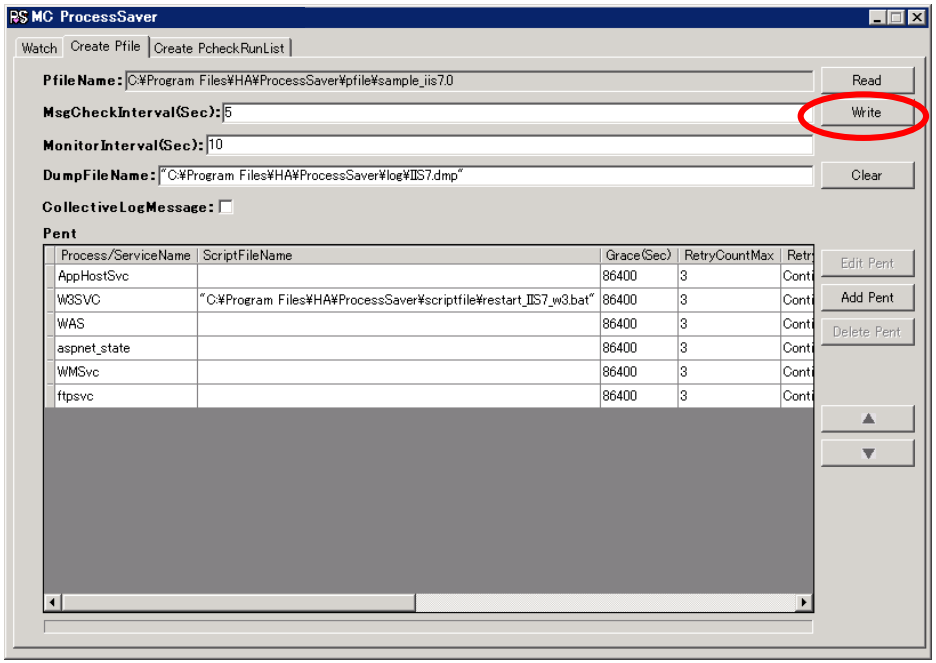


図8 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

1. 概要

本事例は IIS7.5 を使用しています。
IIS7.5 は Windows Server 2008 R2 に標準で搭載されています。

IIS7.5 にて提供される機能は、下記のとおりです。

-Web サーバー
使用するサービス
・WAS
・W3SVC
・AppHostSvc
状態サーバーモード使用時に必要なサービス
・aspnet_state

-リモート管理
使用するサービス
・WMSVC

-FTP サーバー
使用するサービス
・IISADMIN
・ftpsvc

© NEC Corporation 2022

16. （続き）

Web サーバー使用時に必要なサービス （状態サーバーモードなし）

タイプ	Service	Service	Service
表示名	Windows Process Activation Service	World Wide Web Publishing Service	Application Host Helper Service
サービス名	WAS	W3SVC	AppHostSvc
常駐プロセス	svchost.exe	svchost.exe	svchost.exe
スタートアップ	手動	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	何もしない	サービスを再起動する
依存するサービス	・Remote Procedure Call(RPC)	・HTTP ・Windows Process Activation Service	なし
依存されるサービス	・World Wide Web Publishing Service	なし	なし

© NEC Corporation 2022

16. （続き）

Web サーバー使用時に必要なサービス （状態サーバーモードあり）

タイプ	Service	Service	Service	Service
表示名	Windows Process Activation Service	World Wide Web Publishing Service	Application Host Helper Service	ASP.NET State Service
サービス名	WAS	W3SVC	AppHostSvc	aspnet_state
常駐プロセス	svchost.exe	svchost.exe	svchost.exe	aspnet_state.exe
スタートアップ	手動	自動	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	何もしない	サービスを再起動する	サービスを再起動する
依存するサービス	・Remote Procedure Call(RPC)	・HTTP ・Windows Process Activation Service	なし	なし
依存されるサービス	・World Wide Web Publishing Service	なし	なし	なし

© NEC Corporation 2022

16. （続き）

リモート管理使用時に必要なサービス

タイプ	Service
表示名	Web Management Service
サービス名	WMSVC
常駐プロセス	WMSvc.exe
スタートアップ	手動
回復機能	サービスを再起動する
依存するサービス	・HTTP
依存されるサービス	なし

© NEC Corporation 2022

16. （続き）

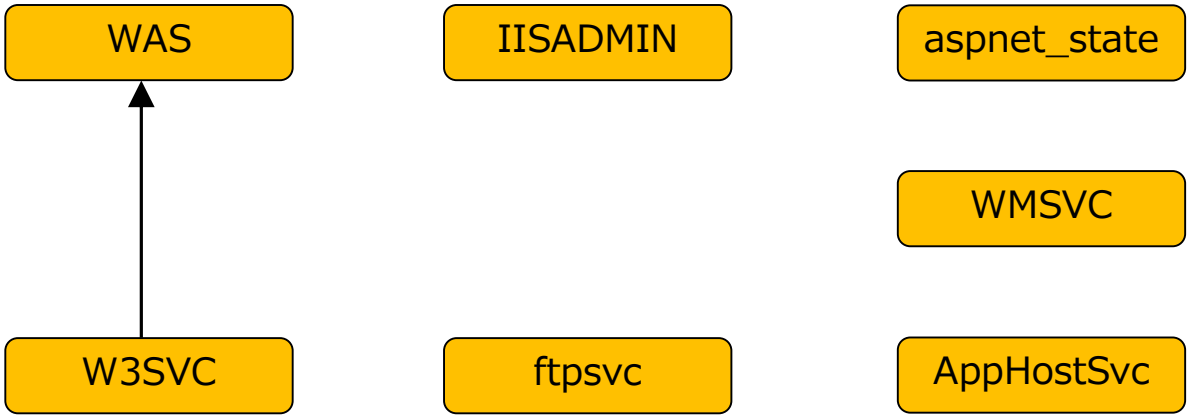
FTP サーバー （FTP） 使用時に必要なサービス

タイプ	Service	Service
表示名	IIS Admin Service	Microsoft FTP Service
サービス名	IISADMIN	ftpsvc
常駐プロセス	inetinfo.exe	svchost.exe
スタートアップ	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	サービスを再起動する
依存するサービス	・Remote Procedure Call(RPC) ・Security Acounts Manager	・Remote Procedure Call(RPC)
依存されるサービス	なし	なし

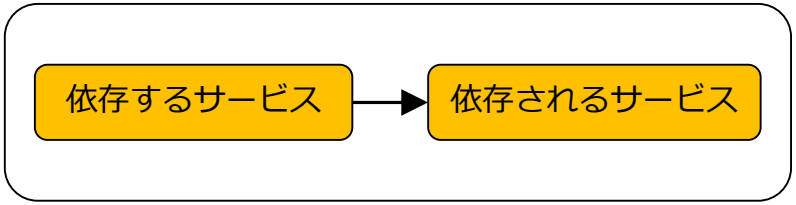
© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

16. （続き）

サービスの依存関係

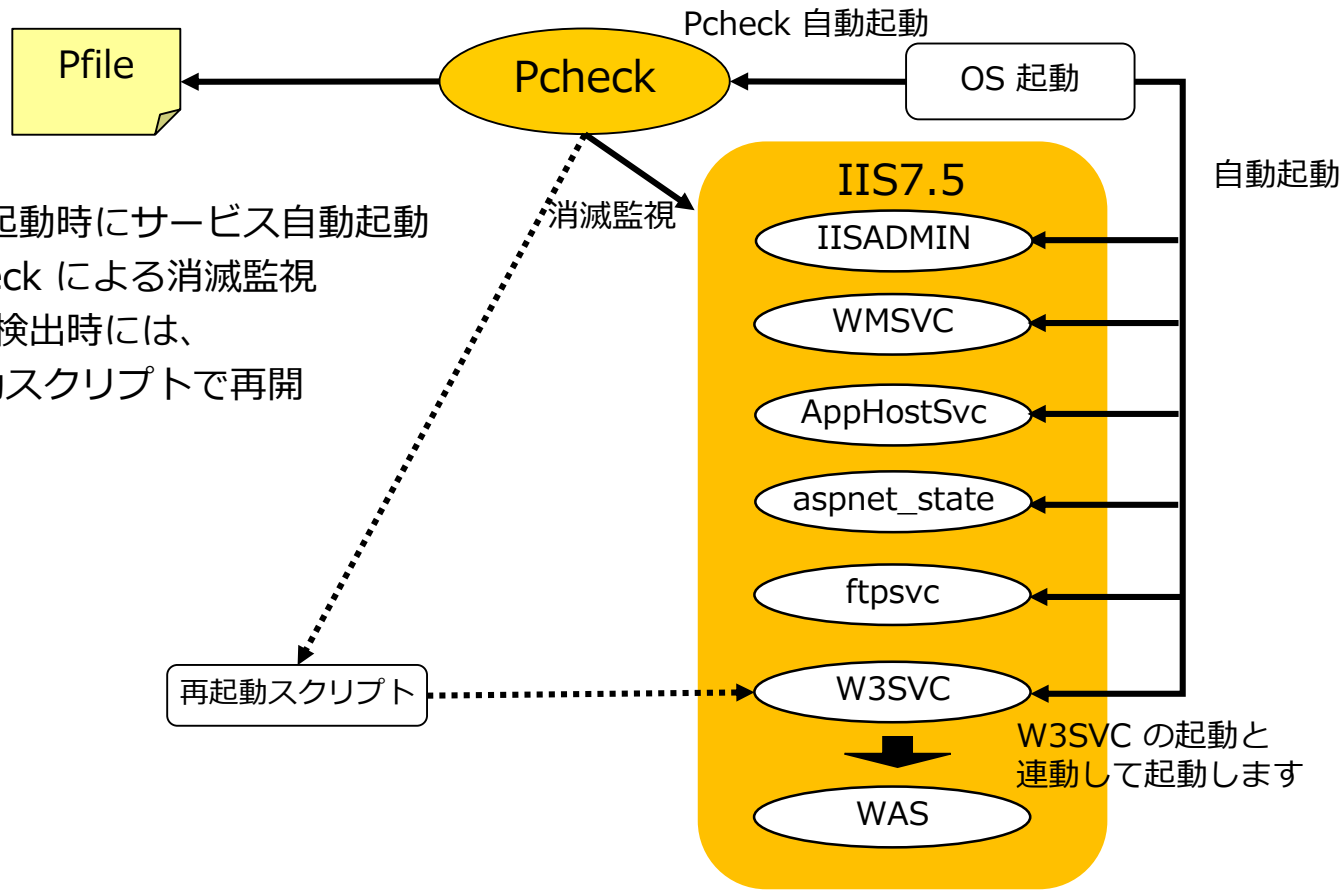


例）



© NEC Corporation 2022

16. （続き）



監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、
  再起動スクリプトで再開

© NEC Corporation 2022

2. Pfile

Pfile <sample_iis7.5>

本 Pfile は IIS7.5 で 以下のサーバーまたは、機能を監視する Pfile です。

-Web サーバー （状態サーバーモードあり）

-リモート管理

-FTP サーバー

本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。

その場合、「4. Pfile 書き換え」 の手順で Pfile を変更してください。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval        5
MonitorInterval         10
DumpFileName            "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥IIS75.dmp"
UpMessageReduceMode       disable
```

次ページへ続く

© NEC Corporation 2022

16. （続き）

続き

```
##### PENT #####
## Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;
ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch

## Web サーバー ##
AppHostSvc,,86400,3,Continue,Service
W3SVC,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_IIS75_w3.bat",86400,3,Continue,Service
WAS,,86400,3,Continue,Service

## Web サーバー（状態サーバーモード）##
aspnet_state,,86400,3,Continue,Service

## リモート管理 ##
WMSVC,,86400,3,Continue,Service

## FTP サーバー　##
ftpsvc,,86400,3,Continue,Service
IISADMIN,,86400,3,Continue,Service
```


© NEC Corporation 2022

3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト

- W3SVC <restart_IIS75_w3.bat>

```
@echo off

rem W3SVC の再起動スクリプトです

:REPEAT

rem サービスの起動失敗を防止するための処理を行います
sc query WAS | find "STOP_PENDING"
if %ERRORLEVEL% == 0 goto REPEAT

rem 起動処理
sc start W3SVC

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

4. Pfile 書き換え

提供している Pfile を下記の観点で書き換えてください。

・ 監視しないサービスについては、Pfile から削除してください。

以降、状態サーバーモードなしにする、または、リモート管理や FTP サーバー を監視しない場合の
Pfile への書き換え手順を説明します。

© NEC Corporation 2022

16. （続き）

Pfile 書き換え手順

4-1. Pfile の直接編集

↓

4-2. Pfile の読み込み

↓

4-3. 監視しないサービスの削除

↓

4-4. Pfile の保存

© NEC Corporation 2022

4-1. Pfile の直接編集

（１） テキストエディターなどで
Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_iis7.5> を開き、
監視しないサービスを削除するか、コメントアウトしてください。

```
                    ・
                    ・
                    ・
## Web サーバー ##
AppHostSvc,,86400,3,Continue,Service
W3SVC,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_IIS75_w3.bat",86400,3,Continue,Service
WAS,,86400,3,Continue,Service

## Web サーバー（状態サーバーモード）##
aspnet_state,,86400,3,Continue,Service

## リモート管理 ##
WMSVC,,86400,3,Continue,Service

## FTP サーバー　##
ftpsvc,,86400,3,Continue,Service
IISADMIN,,86400,3,Continue,Service
```

監視しないサービスの記載を削除してください。

を記載してコメントアウトしてください。

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

4-2. Pfile の読み込み

（1） 『Create Pfile』 で *Read* を押して
Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_iis7.5> の
読み込みを行ってください。

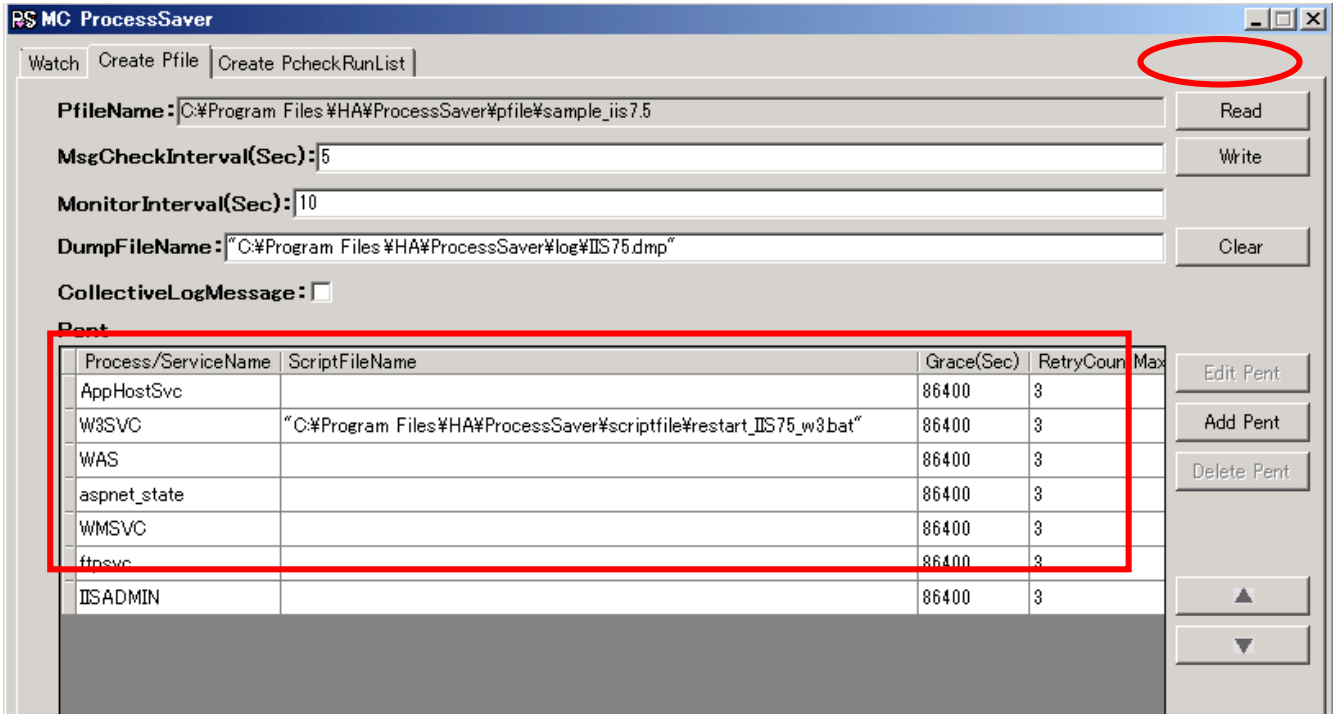


図9 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

4-3. 監視しないサービスの削除

（1） 『Create Pfile』 の [Pent] から、監視しないサービスを 選択し、
Delete Pent を押して削除してください。

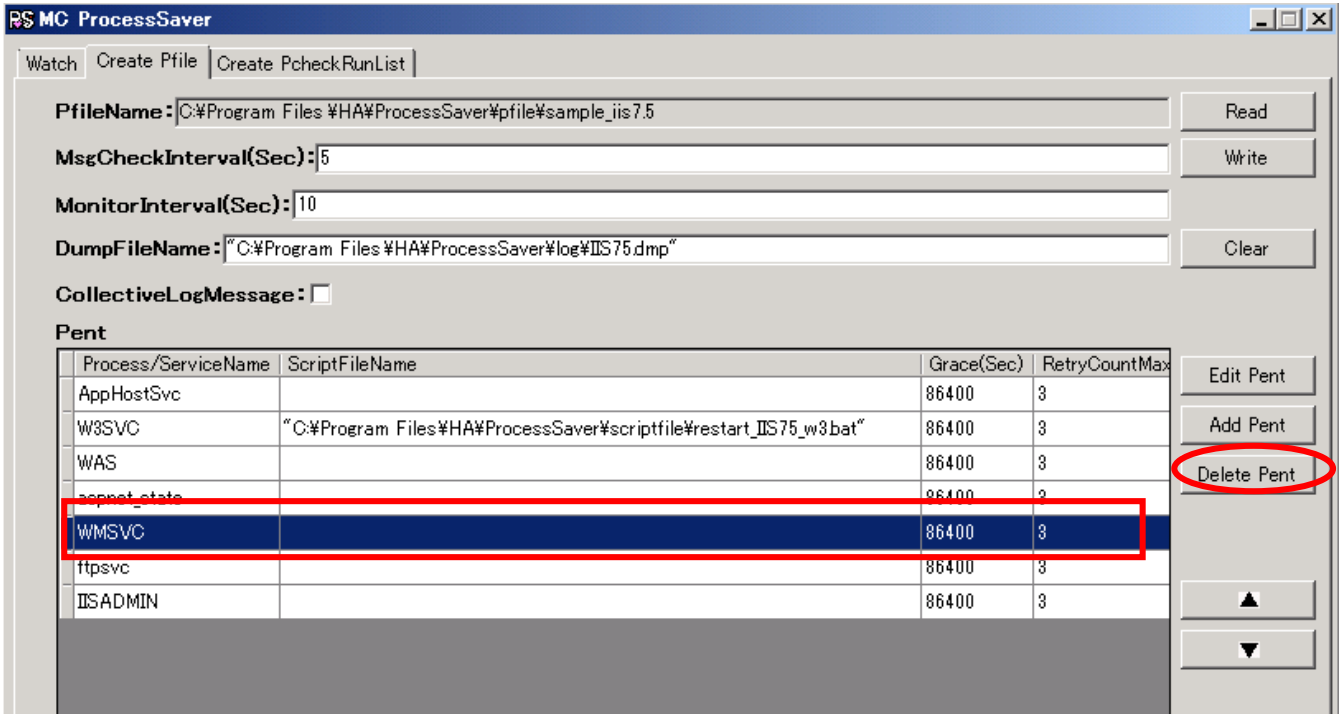


図10 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022

4-4. Pfile の保存

（1） 『Create Pfile』 で *Write* を押して
Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_iis7.5> を保存してください。

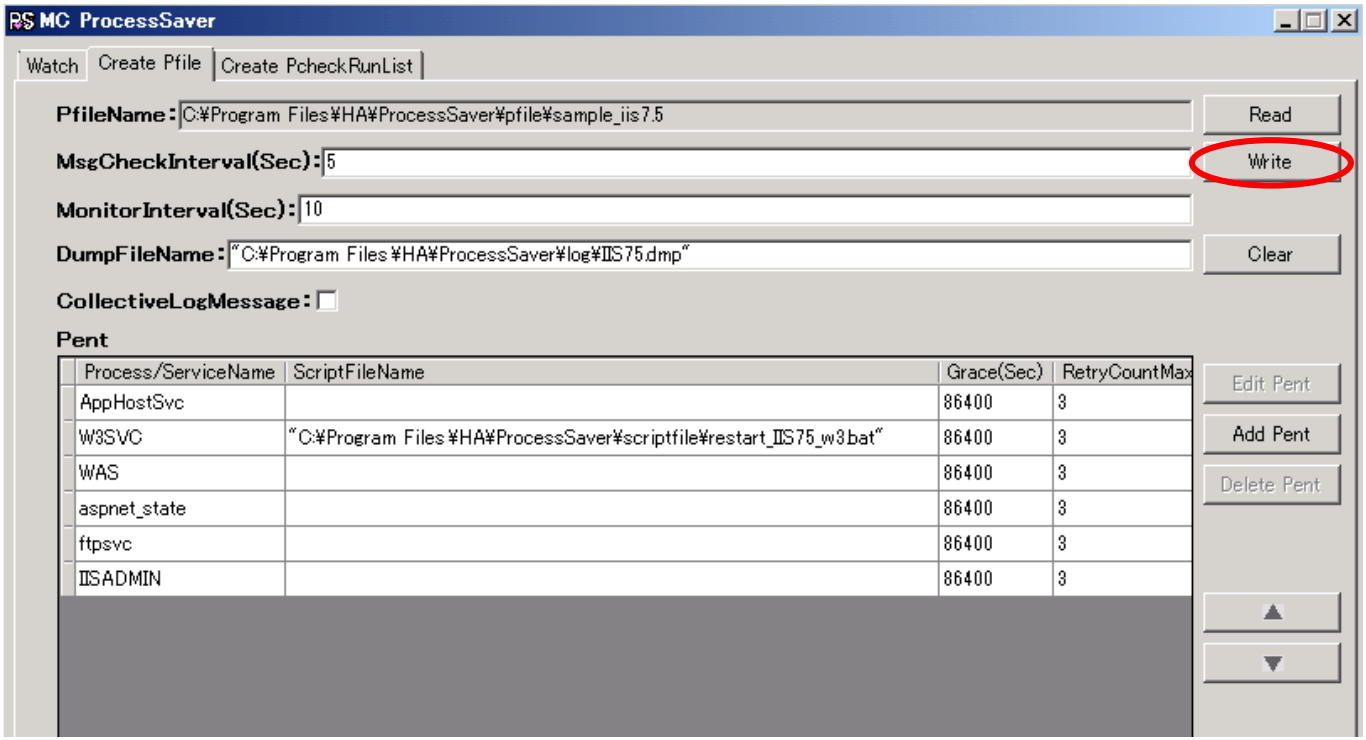


図11 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022

1. 概要

本事例は IIS8.0 を使用しています。
IIS8.0 は Windows Server 2012 に標準で搭載されています。

IIS8.0 にて提供される機能は、下記のとおりです。
※ IIS8.0 にて提供される機能は、IIS7.5 にて提供される機能と同じものです。
ただし、IIS7.5 と IIS8.0 とではサービス名が異なり、Pfile や再起動スクリプトに指定するサービス名を変更する必要がありますので、バージョンにあったテンプレートを使用してください。

-Web サーバー
使用するサービス
・WAS
・W3SVC
・AppHostSvc
状態サーバーモード使用時に必要なサービス
・aspnet_state

-リモート管理
使用するサービス
・WMSvc

-FTP サーバー
使用するサービス
・IISADMIN
・FTPSVC

© NEC Corporation 2022

17. （続き）

Web サーバー使用時に必要なサービス （状態サーバーモードなし）

タイプ	Service	Service	Service
表示名	Windows Process Activation Service	World Wide Web Publishing Service	Application Host Helper Service
サービス名	WAS	W3SVC	AppHostSvc
常駐プロセス	svchost.exe	svchost.exe	svchost.exe
スタートアップ	手動	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	何もしない	サービスを再起動する
依存するサービス	・Remote Procedure Call(RPC)	・HTTP ・Windows Process Activation Service	なし
依存されるサービス	・World Wide Web Publishing Service	なし	なし

© NEC Corporation 2022

17. （続き）

Web サーバー使用時に必要なサービス （状態サーバーモードあり）

タイプ	Service	Service	Service	Service
表示名	Windows Process Activation Service	World Wide Web Publishing Service	Application Host Helper Service	ASP.NET State Service
サービス名	WAS	W3SVC	AppHostSvc	aspnet_state
常駐プロセス	svchost.exe	svchost.exe	svchost.exe	aspnet_state.exe
スタートアップ	手動	自動	自動	手動
回復機能	プログラムを実行する	何もしない	サービスを再起動する	サービスを再起動する
依存するサービス	・Remote Procedure Call(RPC)	・HTTP ・Windows Process Activation Service	なし	なし
依存されるサービス	・World Wide Web Publishing Service	なし	なし	なし

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

17. （続き）

リモート管理使用時に必要なサービス

タイプ	Service
表示名	Web Management Service
サービス名	WMSvc
常駐プロセス	WMSvc.exe
スタートアップ	手動
回復機能	サービスを再起動する
依存するサービス	・HTTP
依存されるサービス	なし

© NEC Corporation 2022

17. （続き）

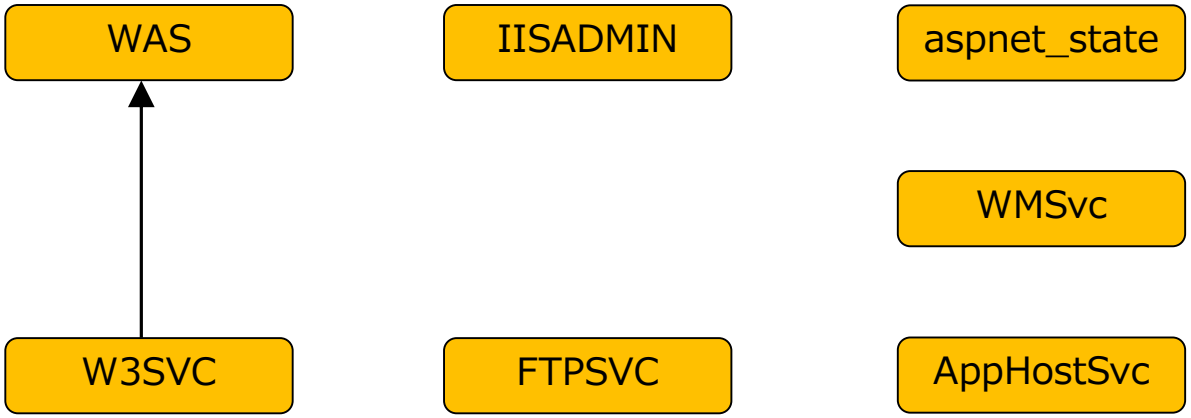
FTP サーバー （FTP） 使用時に必要なサービス

タイプ	Service	Service
表示名	IIS Admin Service	Microsoft FTP Service
サービス名	IISADMIN	FTPSVC
常駐プロセス	inetinfo.exe	svchost.exe
スタートアップ	自動	自動
回復機能	プログラムを実行する	サービスを再起動する
依存するサービス	・Remote Procedure Call(RPC) ・Security Acounts Manager	・Remote Procedure Call(RPC)
依存されるサービス	なし	なし

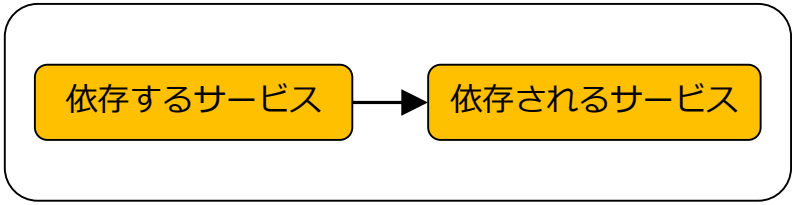
© NEC Corporation 2022

17. （続き）

サービスの依存関係

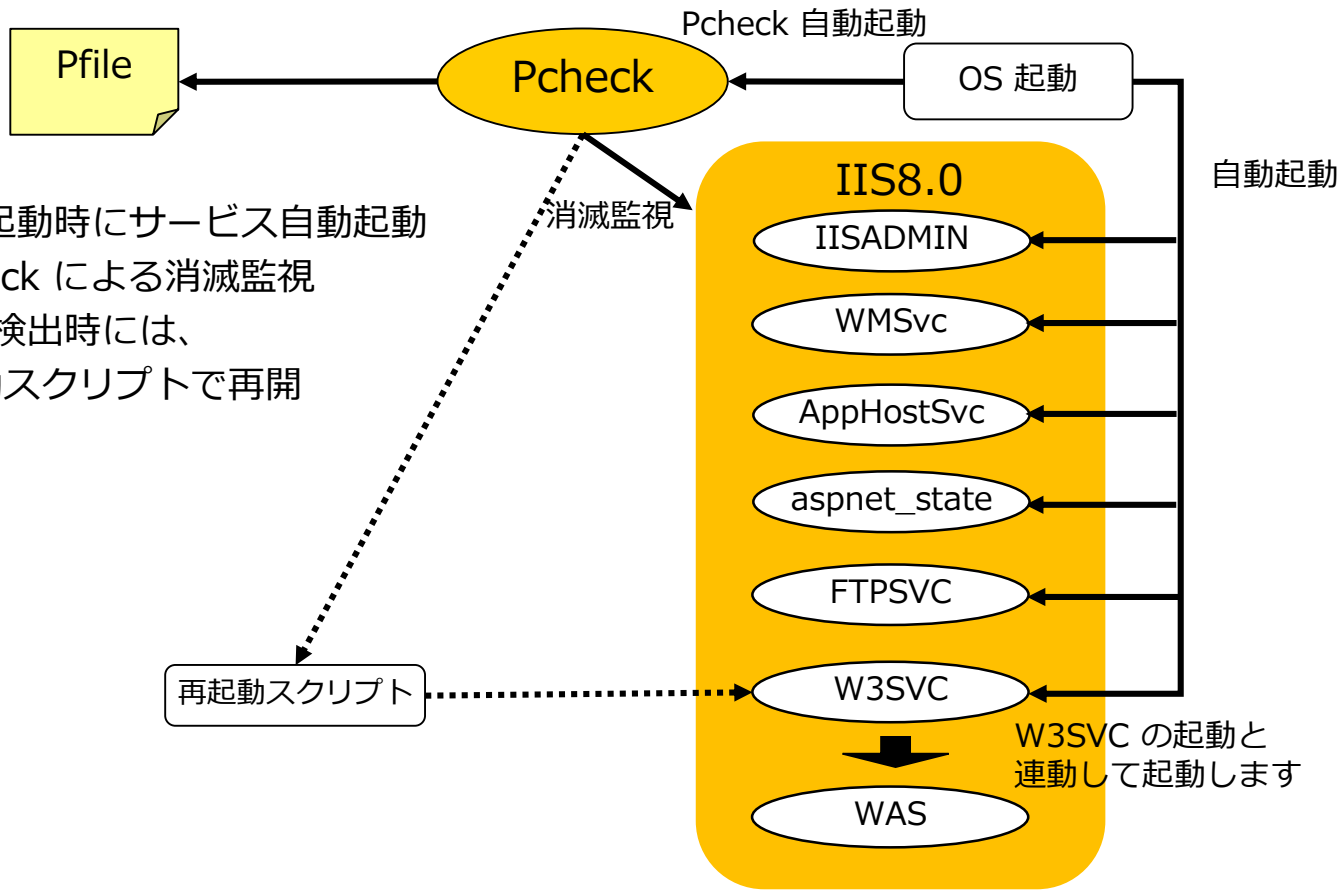


例）



© NEC Corporation 2022

17. （続き）



監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、
  再起動スクリプトで再開

© NEC Corporation 2022

2. Pfile

Pfile <sample_iis8.0>

本 Pfile は IIS8.0 で 以下のサーバーまたは、機能を監視する Pfile です。

-Web サーバー （状態サーバーモードあり）

-リモート管理

-FTP サーバー

本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。

その場合、「4. Pfile 書き換え」 の手順で Pfile を変更してください。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval          5
MonitorInterval           10
DumpFileName              "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥IIS8.dmp"
UpMessageReduceMode         disable
```

次ページへ続く

© NEC Corporation 2022

17. （続き）

続き

```
##### PENT #####
## Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;
ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch

## Web サーバー ##
AppHostSvc,,86400,3,Continue,Service
W3SVC,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_IIS8_w3.bat",86400,3,Continue,Service
WAS,,86400,3,Continue,Service

## Web サーバー（状態サーバーモード）##
aspnet_state,,86400,3,Continue,Service

## リモート管理 ##
WMSvc,,86400,3,Continue,Service

## FTP サーバー　##
FTPSVC,,86400,3,Continue,Service
IISADMIN,,86400,3,Continue,Service
```


© NEC Corporation 2022

3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト

- W3SVC <restart_IIS8_w3.bat>

```
@echo off

rem W3SVC の再起動スクリプトです

:REPEAT

rem サービスの起動失敗を防止するための処理を行います
sc query WAS | find "STOP_PENDING"
if %ERRORLEVEL% == 0 goto REPEAT

rem 起動処理
sc start W3SVC

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

4. Pfile 書き換え

提供している Pfile を下記の観点で書き換えてください。

・ 監視しないサービスについては、Pfile から削除してください。

以降、状態サーバーモードなしにする、または、リモート管理や FTP サーバー を監視しない場合の
Pfile への書き換え手順を説明します。

© NEC Corporation 2022

17. （続き）

Pfile 書き換え手順

4-1. Pfile の直接編集

↓

4-2. Pfile の読み込み

↓

4-3. 監視しないサービスの削除

↓

4-4. Pfile の保存

© NEC Corporation 2022

4-1. Pfile の直接編集

（1） テキストエディターなどで
Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_iis8.0> を開き、
監視しないサービスを削除するか、コメントアウトしてください。

```
                    ・
                    ・
                    ・
## Web サーバー ##
AppHostSvc,,86400,3,Continue,Service
W3SVC,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_IIS8_w3.bat",86400,3,Continue,Service
WAS,,86400,3,Continue,Service

## Web サーバー（状態サーバーモード）##
aspnet_state,,86400,3,Continue,Service

## リモート管理 ##
WMSvc,,86400,3,Continue,Service

## FTP サーバー　##
FTPSVC,,86400,3,Continue,Service
IISADMIN,,86400,3,Continue,Service
```

監視しないサービスの記載を削除してください。

を記載してコメントアウトしてください。

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

4-2. Pfile の読み込み

（1） 『Create Pfile』 で *Read* を押して
Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_iis8.0> の
読み込みを行ってください。

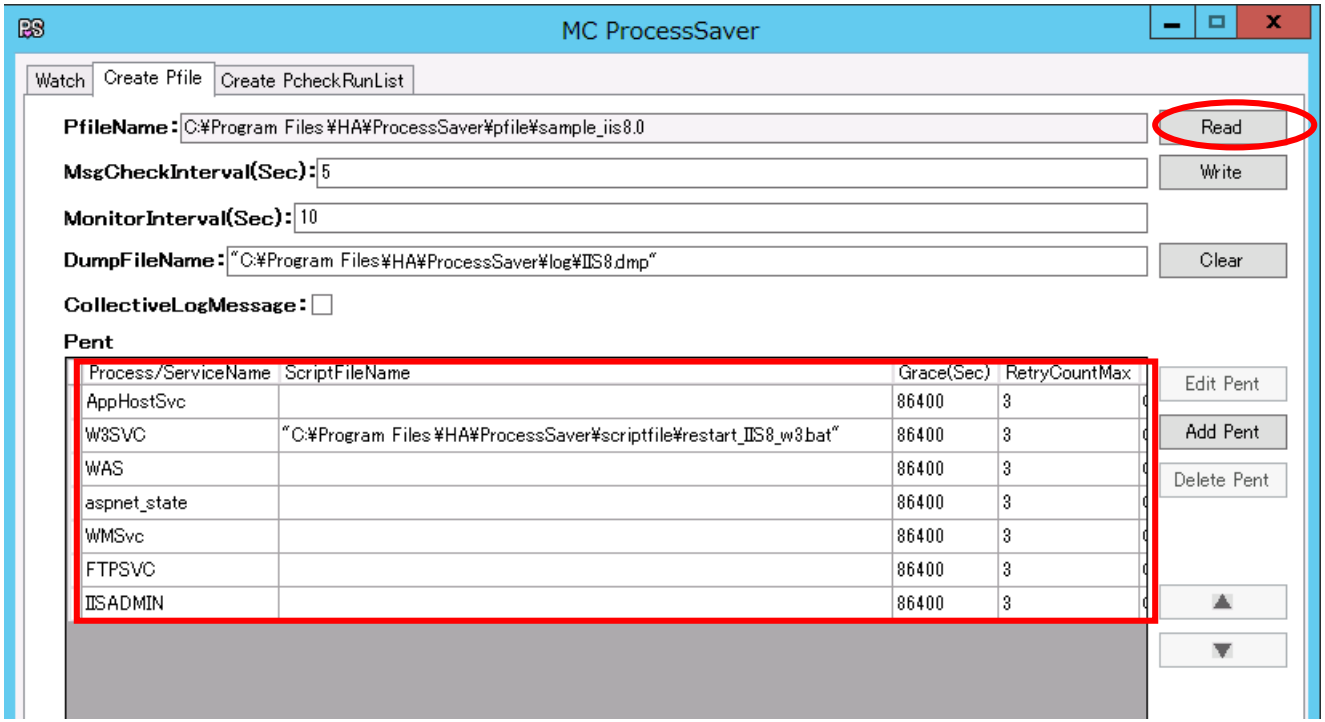


図12 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022

4-3. 監視しないサービスの削除

（1） 『Create Pfile』 の [Pent] から、監視しないサービスを 選択し、
Delete Pent を押して削除してください。

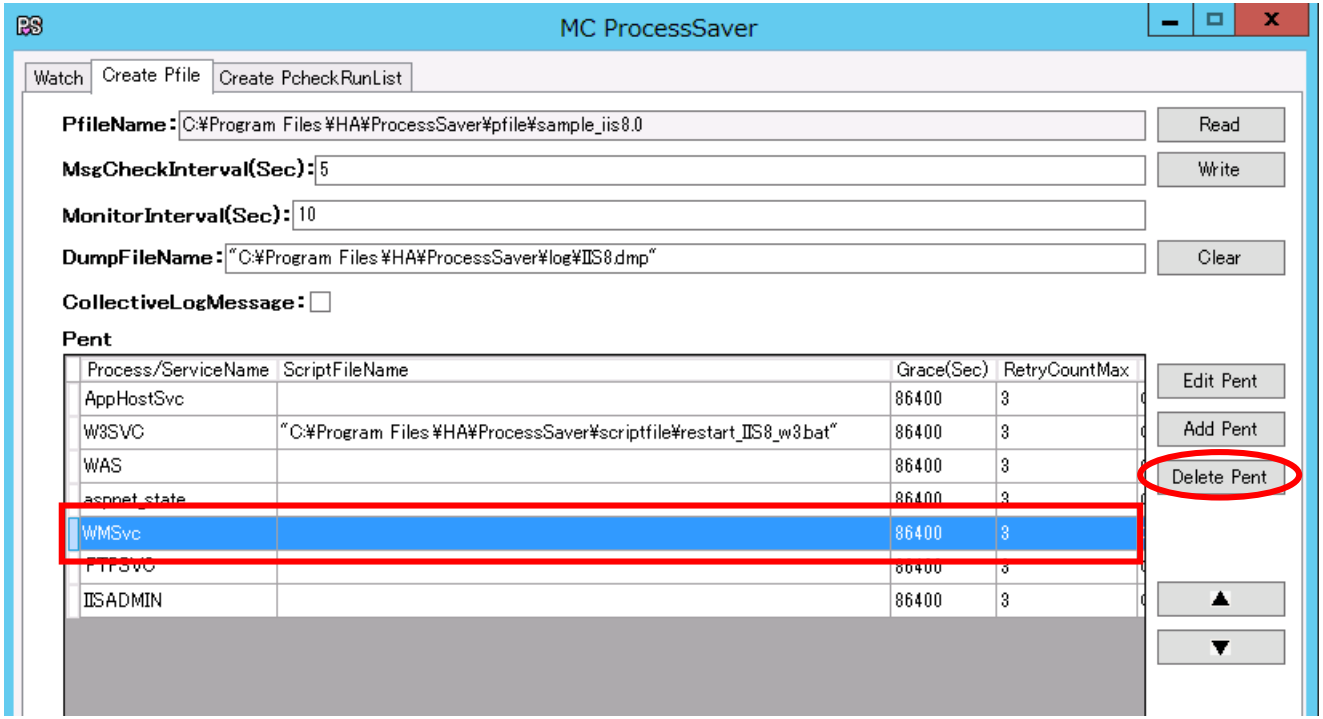


図13 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022

4-4. Pfile の保存

（1） 『Create Pfile』 で Write を押して
Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_iis8.0> を保存してください。

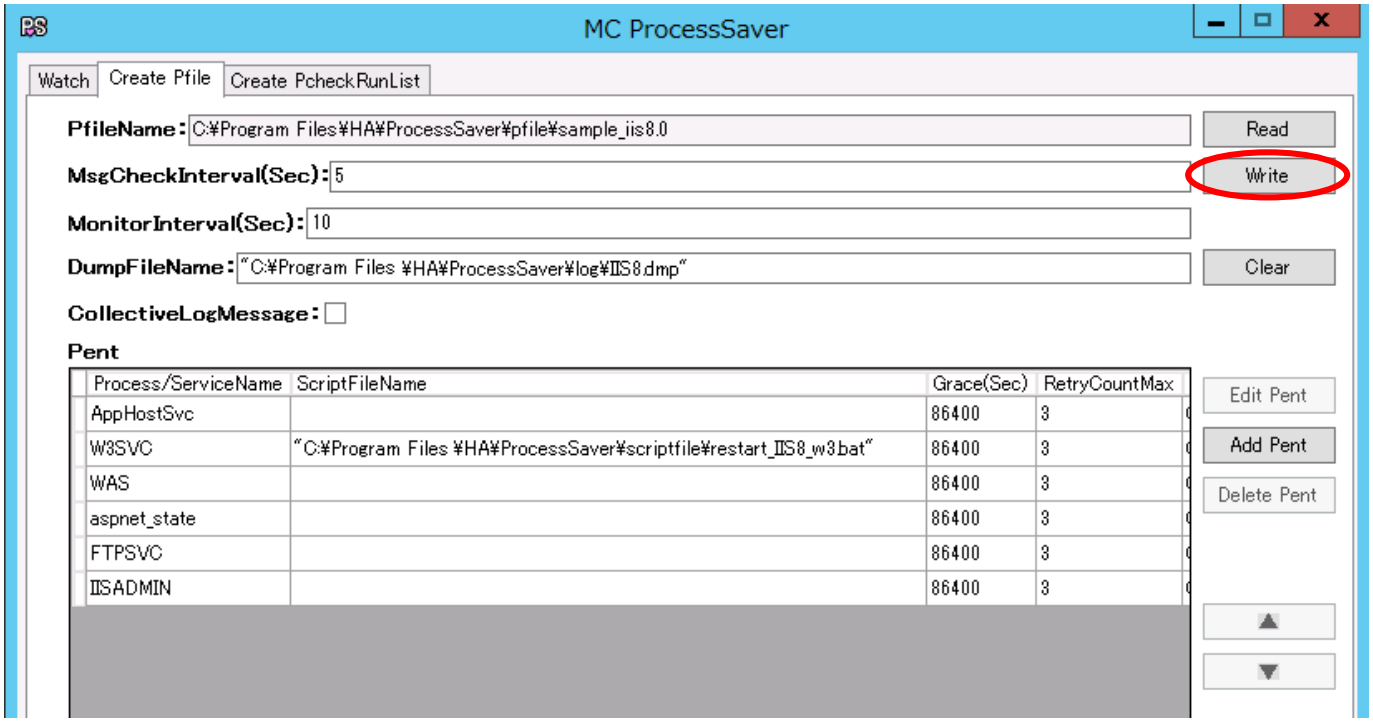


図14 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022

18. Microsoft SQL Server 2008 の監視事例

・本事例は Microsoft SQL Server 2008 を使用しています。
Microsoft SQL Server にて提供されているサービスを監視する場合を紹介します。

Microsoft SQL Server で提供されるサービスは以下のとおりですが、
インストール時に選択する機能によって、登録されないサービスがあります。

（1）システム一意
Microsoft SQL Server 一意のサービスのため、複数登録されません。

- SQLBrowser
- SQLWriter
- MsDtsServer100
- MSSQLServerADHelper100

（2）インスタンス
インスタンス数分サービスが登録されます。

- MSSQLSERVER
- SQLSERVERAGENT
- MSSQLFDLauncher
- MSSQLServerOLAPService
- ReportServer

© NEC Corporation 2022

18. （続き）

（２）　（続き）

インスタンスのサービス名はインストール時のインスタンス名の設定方法によって、
以下のようになります。

既定のインスタンスの場合	名前つきインスタンスの場合
MSSQLSERVER	MSSQL$【インスタンス名】
SQLSERVERAGENT	SQLAgent$【インスタンス名】
MSSQLFDLauncher	MSSQLFDLauncher$【インスタンス名】
MSSQLServerOLAPService	MSOLAP$【インスタンス名】
ReportServer	ReportServer$【インスタンス名】

＊　本書ではインスタンス名は既定のインスタンスで設定したものとします。

© NEC Corporation 2022

1. システム一意

1-1. 概要

・ SQLBrowser
・ SQLWriter

タイプ	Service	Service
表示名	SQL Server Browser	SQL Server VSS Writer
サービス名	SQLBrowser	SQLWriter
常駐プロセス	sqlbrowser.exe	sqlwriter.exe
スタートアップ	自動	自動
回復機能	サービスを再起動する	何もしない
依存関係	なし	なし

＊　スタートアップの値はインストールする機能の構成により変わる場合があります。
また、SQL Server インストール時に設定変更が可能となっています。

© NEC Corporation 2022

18. （続き）

1-1. （続き）

・ MsDtsServer100
・ MSSQLServerADHelper100

タイプ	Service	Service
表示名	SQL Server Integration Services 10.0	SQL Active Directory Helper Service
サービス名	MsDtsServer100	MSSQLServerADHelper100
常駐プロセス	MsDtsSrvr.exe	SQLADHLP.EXE
スタートアップ	自動	無効
回復機能	何もしない	何もしない
依存関係	なし	なし

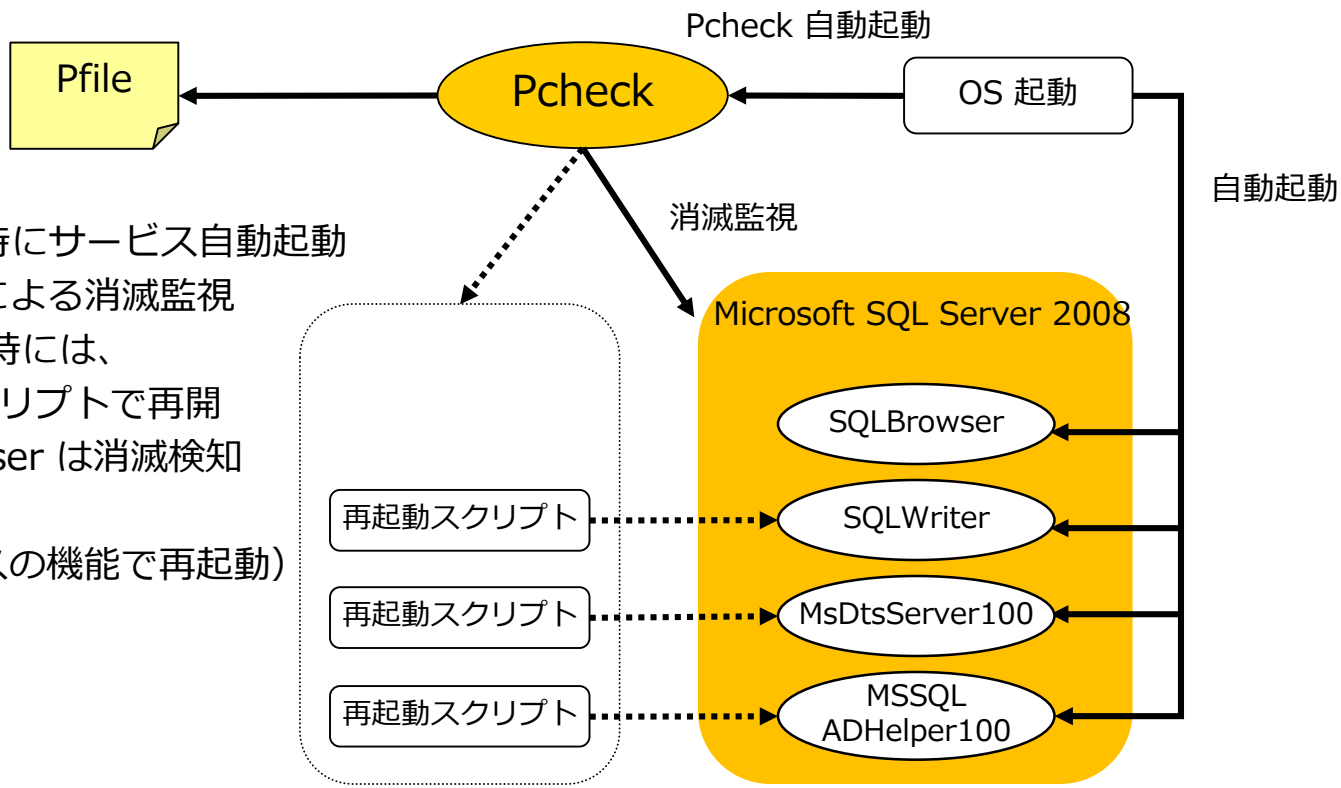
＊ スタートアップの値はインストールする機能の構成により変わる場合があります。
また、SQL Server インストール時に設定変更が可能となっています。

© NEC Corporation 2022

18. （続き）

監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、
  再起動スクリプトで再開
- SQLBrowser は消滅検知
  のみ行う
  （サービスの機能で再起動）



© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

1-2. Pfile

Pfile <sample_sqlserver_system>

本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。
本 Pfile は MSSQLServerADHelper100 の監視はコメントアウトしていますので
MSSQLServerADHelper100 を監視するためには Pfile を変更する必要があります。
その場合、「3. Pfile 書き換え」 の手順で Pfile を変更してください。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval          5
MonitorInterval            10
DumpFileName              "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥sqlserver_system.dmp"
UpMessageReduceMode    disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearCm
d;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
SQLBrowser,,86400,0,Continue,Service
SQLWriter,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlwriter.bat",86400,3,Continue,Service
MsDtsServer100,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_msdtsserver.bat",86400,3,Continue,Service
#MSSQLServerADHelper100,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_adhelper.bat",86400,3,Continue,Service
```


© NEC Corporation 2022

1-3. 再起動スクリプト

- SQLWriter <restart_sqlwriter.bat>

```
@echo off

rem SQLWriter の再起動スクリプトです。
sc start SQLWriter

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

- MsDtsServer100 <restart_msdtsserver.bat>

```
@echo off

rem MsDtsServer100 の再起動スクリプトです。
sc start MsDtsServer100

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

- MSSQLServerADHelper100 <restart_adhelper.bat>

```
@echo off

rem MSSQLServerADHelper100 の再起動スクリプトです。
sc start MSSQLServerADHelper100

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

© NEC Corporation 2022

2. インスタンス

2-1. 概要

- MSSQLSERVER
- SQLSERVERAGENT

タイプ		Service	Service
表示名	既定インスタンスの場合	SQL Server (MSSQLSERVER)	SQL Server Agent (MSSQLSERVER)
	名前つきインスタンスの場合	SQL Server (【インスタンス名】)	SQL Server Agent (【インスタンス名】)
サービス名	既定インスタンスの場合	MSSQLSERVER	SQLSERVERAGENT
	名前つきインスタンスの場合	MSSQL$【インスタンス名】	SQLAgent$【インスタンス名】
常駐プロセス		sqlserver.exe	SQLAGENT.EXE
スタートアップ		自動	手動
回復機能		何もしない	何もしない
依存するサービス		なし	SQL Server (【インスタンス名】)
依存されるサービス		SQL Server Agent (【インスタンス名】)	なし

© NEC Corporation 2022

18. （続き）

2-1. （続き）

・ MSSQLFDLauncher
・ MSSQLServerOLAPService

タイプ		Service	Service
表示名	既定インスタンスの場合	SQL Full-text Filter Daemon Launcher (MSSQLSERVER)	SQL Server Analysis Services (MSSQLSERVER)
	名前つきインスタンスの場合	SQL Full-text Filter Daemon Launcher (【インスタンス名】)	SQL Server Analysis Services (【インスタンス名】)
サービス名	既定インスタンスの場合	MSSQLFDLauncher	MSSQLServerOLAPService
	名前つきインスタンスの場合	MSSQLFDLauncher$【インスタンス名】	MSOLAP$【インスタンス名】
常駐プロセス		fdlauncher.exe fdhost.exe	msmdsrv.exe
スタートアップ		手動	自動
回復機能		何もしない	何もしない
依存関係		なし	なし

＊ MSSQLFDLauncher は MSSQLSERVER 起動時に起動されます。

© NEC Corporation 2022

18. （続き）

2-1. （続き）

・ ReportServer

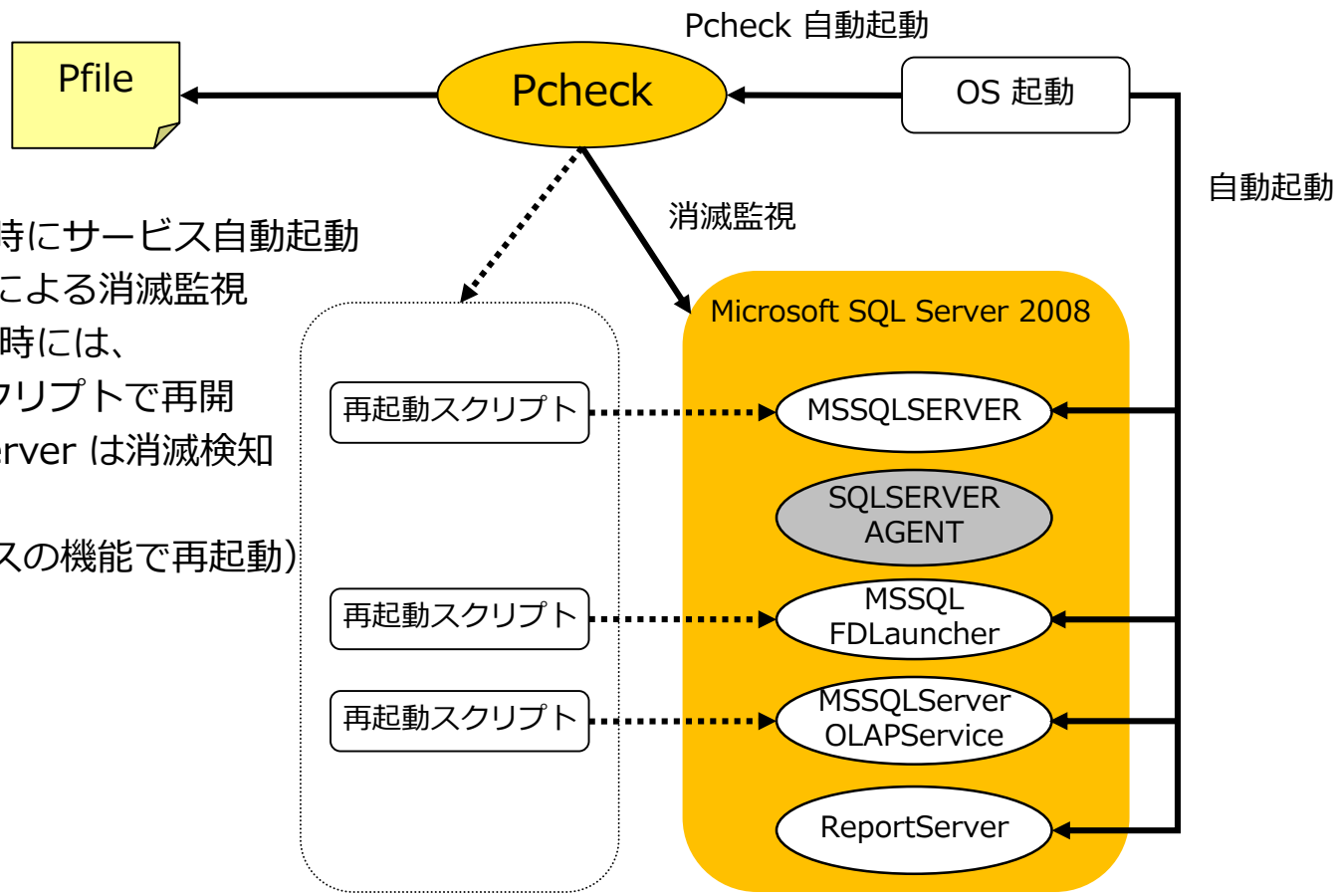
タイプ		Service
表示名	既定インスタンスの場合	SQL Server Reporting Services (MSSQLSERVER)
	名前つきインスタンスの場合	SQL Server Reporting Services (【インスタンス名】)
サービス名	既定インスタンスの場合	ReportServer
	名前つきインスタンスの場合	ReportServer$【インスタンス名】
常駐プロセス		ReportingServicesService.exe
スタートアップ		自動
回復機能		サービスを再起動する
依存関係		なし

© NEC Corporation 2022

SQLSERVERAGENT 未使用時

監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、
  再起動スクリプトで再開
- ReportServer は消滅検知
  のみ行う
  （サービスの機能で再起動）



© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

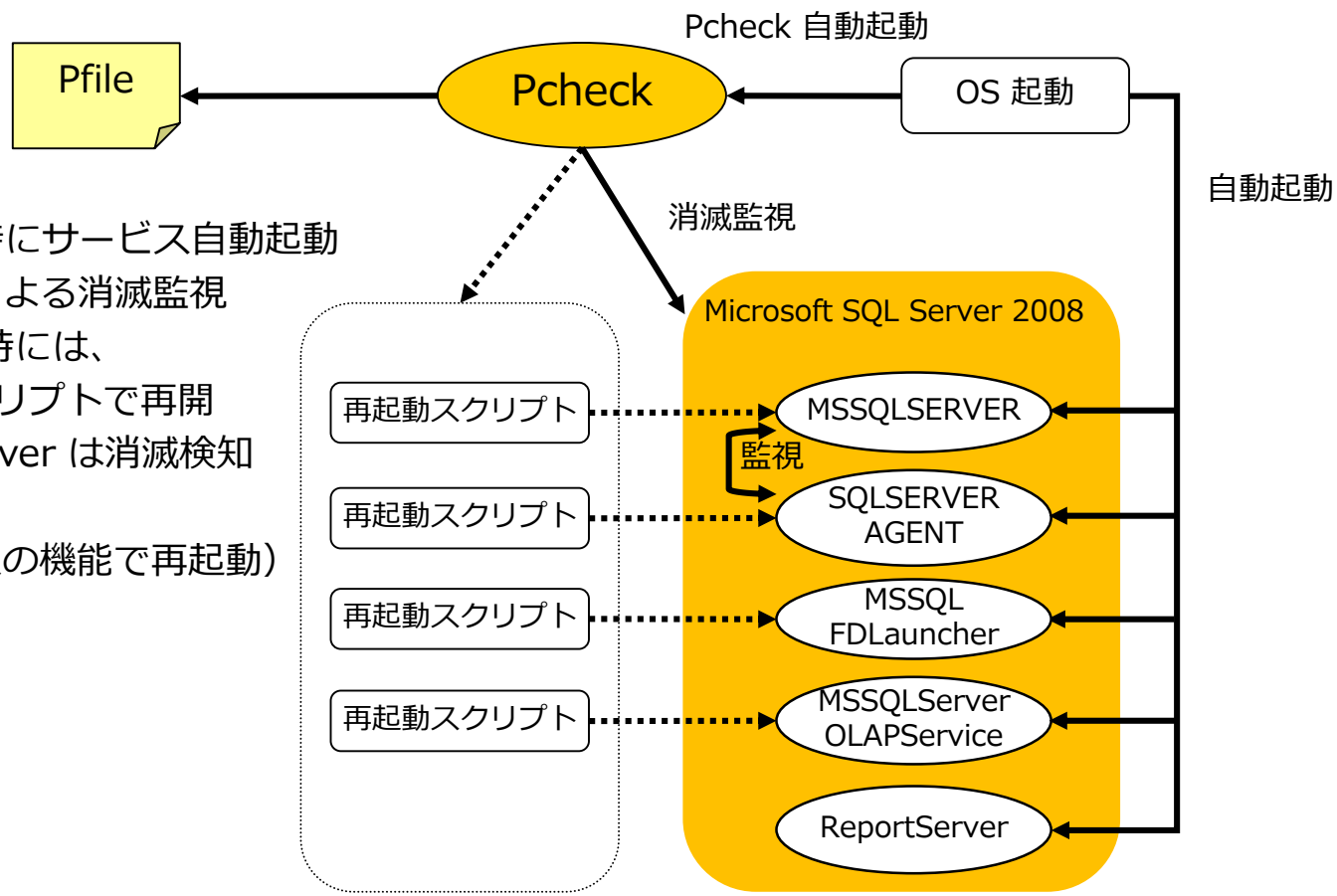
18. （続き）

SQLSERVERAGENT 使用時

SQLSERVERAGENT を使用している場合、MSSQLSERVER と SQLSERVERAGENT は相互に監視を行い、異常時には、起動しているサービスが異常終了したサービスを起動します。ただし、両サービスが停止した場合は、再起動が行われないため、ProcessSaver にて各サービスを監視し、両サービス停止時に再起動を行います。

監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開
- ReportServer は消滅検知のみ行う（サービスの機能で再起動）



© NEC Corporation 2022

2-2. Pfile

Pfile <sample_sqlserver_instance_notuse_agent>

本 Pfile は SQLSERVERAGENT を使用しない場合の Pfile です。
本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。
本 Pfile は既定のインスタンスで作成されたサービスを監視しています。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval          5
MonitorInterval            10
DumpFileName              "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥sqlserver_instance_notuse_agent.dmp"
UpMessageReduceMode    disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearCmd;In
cludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
MSSQLSERVER,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlserver.bat",86400,3,Continue,Service
MSSQLFDLauncher,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_fdlauncher.bat",86400,3,Continue,Service
MSSQLServerOLAPService,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_olapservice.bat",86400,3,Continue,Service
ReportServer,,86400,0,Continue,Service
```


© NEC Corporation 2022

2-2. （続き）

Pfile <sample_sqlserver_instance_use_agent>

本 Pfile は SQLSERVERAGENT を使用する場合の Pfile です。
本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。
本 Pfile は既定のインスタンスで作成されたサービスを監視しています。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval          5
MonitorInterval            10
DumpFileName              "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥sqlserver_instance_use_agent.dmp"
UpMessageReduceMode    disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearCmd;In
cludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
MSSQLSERVER,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlserver_useagent.bat",86400,3,Continue,Service
SQLSERVERAGENT,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlagent.bat",86400,3,Continue,Service
MSSQLFDLauncher,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_fdlauncher.bat",86400,3,Continue,Service
MSSQLServerOLAPService,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_olapservice.bat",86400,3,Continue,Service
ReportServer,,86400,0,Continue,Service
```


© NEC Corporation 2022

2-2. （続き）

名前付きインスタンスで作成されたサービスを監視する場合、使用する Pfile を
以下のように変更してください。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval       5
MonitorInterval        10
DumpFileName           "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥sqlserver_instance_use_agent.dmp"
UpMessageReduceMode    disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearCmd;In
cludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
MSSQLSERVER,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlserver_useagent.bat",86400,3,Continue,Service
SQLSERVERAGENT,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlagent.bat",86400,3,Continue,Service
MSSQLFDLauncher,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_fdlauncher.bat",86400,3,Continue,Service
MSSQLServerOLAPService,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_olapservice.bat",86400,3,Continue,Service
ReportServer,,86400,0,Continue,Service
```

名前つきインスタンスのサービスを監視する場合は
各行の Process/ServiceName をそれぞれ以下のように変更してください。

MSSQLSERVER	→	MSSQL$【インスタンス名】
SQLSERVERAGENT	→	SQLAgent$【インスタンス名】
MSSQLFDLauncher	→	MSSQLFDLauncher$【インスタンス名】
MSSQLServerOLAPService	→	MSOLAP$【インスタンス名】
ReportServer	→	ReportServer$【インスタンス名】

© NEC Corporation 2022

2-3. 再起動スクリプト

本 スクリプトは既定のインスタンスで作成されたサービスを起動します。
名前つきインスタンスで作成されたサービスを起動するにはスクリプトを変更する必要があります。

- MSSQLSERVER <restart_sqlserver.bat>
  本スクリプトは Pfile <sample_sqlserver_instance_notuse_agent> で使用します。

```
@echo off

rem MSSQLSERVER の再起動スクリプトです。
sc start MSSQLSERVER

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

名前つきインスタンスの場合は
MSSQL$【インスタンス名】 に変更してください。

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

2-3. （続き）

・ MSSQLSERVER <restart_sqlserver_useagent.bat>
本スクリプトは Pfile <sample_sqlserver_instance_use_agent> で使用します。

```
@echo off

rem SQLSERVERAGENT 使用時の MSSQLSERVER の再起動スクリプトです。

rem SQLSERVERAGENT が起動している場合、何もしません。
sc query SQLSERVERAGENT | find "STOPPED"
if %ERRORLEVEL% == 1 exit

rem MSSQLSERVER, SQLSERVERAGENT を起動する。
sc start MSSQLSERVER
sc start SQLSERVERAGENT

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

名前つきインスタンスの場合は、以下のように変更してください。
MSSQLSERVER → MSSQL$【インスタンス名】
SQLSERVERAGENT → SQLAgent$【インスタンス名】

© NEC Corporation 2022

2-3. （続き）

・ SQLSERVERAGENT <restart_sqlagent.bat>
本スクリプトは Pfile <sample_sqlserver_instance_use_agent> で使用します。

```
@echo off

rem SQLSERVERAGENT の再起動スクリプトです。

rem MSSQLSERVER が起動している場合、何もしません。
sc query MSSQLSERVER | find "STOPPED"
if %ERRORLEVEL% == 1 exit

rem SQLSERVERAGENT を起動する。
sc start SQLSERVERAGENT

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

名前つきインスタンスの場合は、以下のように変更してください。
MSSQLSERVER → MSSQL$【インスタンス名】
SQLSERVERAGENT → SQLAgent$【インスタンス名】

© NEC Corporation 2022

2-3. （続き）

・ MSSQLFDLauncher <restart_fdlauncher.bat>

```
@echo off

rem MSSQLFDLauncher の再起動スクリプトです。
sc start MSSQLFDLauncher

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

名前つきインスタンスの場合は
MSSQLFDLauncher$【インスタンス名】 に変更してください。

・ MSSQLServerOLAPService<restart_olapservice.bat>

```
@echo off

rem MSSQLServerOLAPService の再起動スクリプトです。
sc start MSSQLServerOLAPService

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

名前つきインスタンスの場合は
MSOLAP$【インスタンス名】 に変更してください。

© NEC Corporation 2022

3. Pfile 書き換え

提供している Pfile を下記の観点で書き換えてください。

- 監視しないサービスについては、Pfile から削除してください。
- MSSQLServerADHelper100 サービスの監視については、コメントアウトしています。MSSQLServerADHelper100 サービスを使用、監視する場合は、Pfile を書き換えて、コメントインしてください。
- SQLSERVERAGENT サービスを使用する場合、SQLSERVERAGENT サービスが MSSQLSERVER サービスを監視、再起動します。ProcessSaver による監視が不要な場合は Pfile から削除してください。

以降、システム一意のサービスの監視を削除する場合の Pfile の書き換え手順を説明します。
インスタンスのサービスの監視を削除する場合は、使用する Pfile
<C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_sqlserver_instance_notuse_agent>
または
<C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample¥sqlserver_instance_use_agent>
を 「3-2. Pfile の読み込み」 以降の手順にしたがい編集してください。

© NEC Corporation 2022

18. （続き）

Pfile 書き換え手順

3-1. Pfile の直接編集

↓

3-2. Pfile の読み込み

↓

3-3. 監視しないサービスの削除

↓

3-4. Pfile の保存

© NEC Corporation 2022

3-1. Pfile の直接編集

（１） MSSQLServerADHelper100 を監視する場合、
テキストエディターなどで
Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_sqlserver_system> を
開き、 MSSQLServerADHelper100 の行の # を削除し、コメントインしてください。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval          5
MonitorInterval            10
DumpFileName              "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥sqlserver_system.dmp"
UpMessageReduceMode    disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;Clea
rCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
SQLBrowser,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlbrowser.bat",86400,3,Continue,Service
SQLWriter,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlwriter.bat",86400,3,Continue,Service
MsDtsServer100,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_msdtsserver.bat",86400,3,Continue,Service
#MSSQLServerADHelper100,"C:¥Program
Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_adhelper.bat",86400,3,Continue,Service
```

を削除してコメントインしてください。

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

3-2. Pfile の読み込み

（１） 『Create Pfile』 で Read を押して
Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_sqlserver_system>
の読み込みを行ってください。
下記画面にならなかった場合、または Pfile の読み込み時にエラーか警告が出力された場合は、
Page 18 の手順により Pfile を再取得し、もう一度やり直してください。

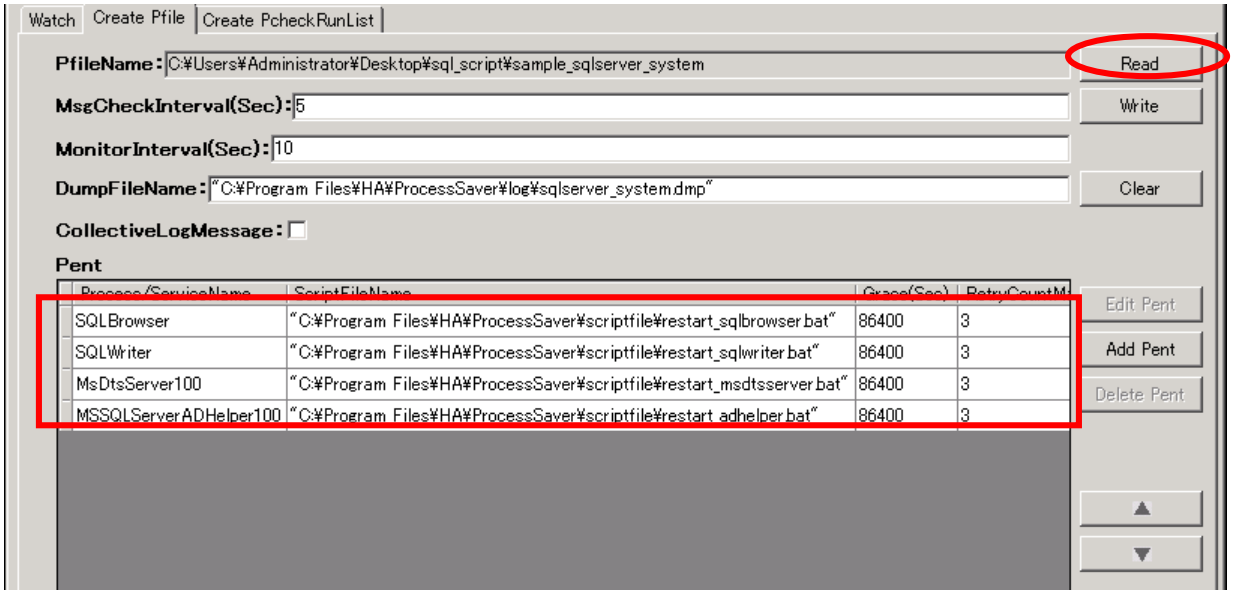


図15 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022

3-3. 監視しないサービスの削除

（1） 『Create Pfile』 の [Pent] から 監視しないサービスを選択し、
Delete Pent を押して削除してください。

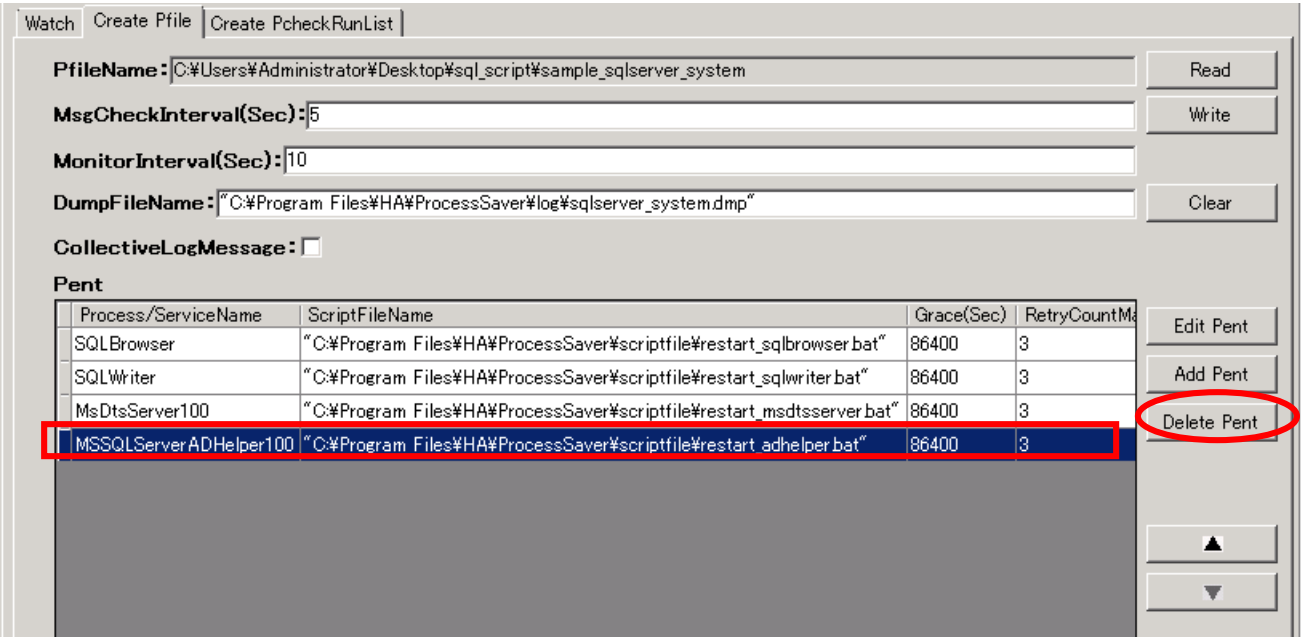


図16 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022

3-4. Pfile の保存

（1） 『Create Pfile』 で *Write* を押して
Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_sqlserver_system>
を保存してください。

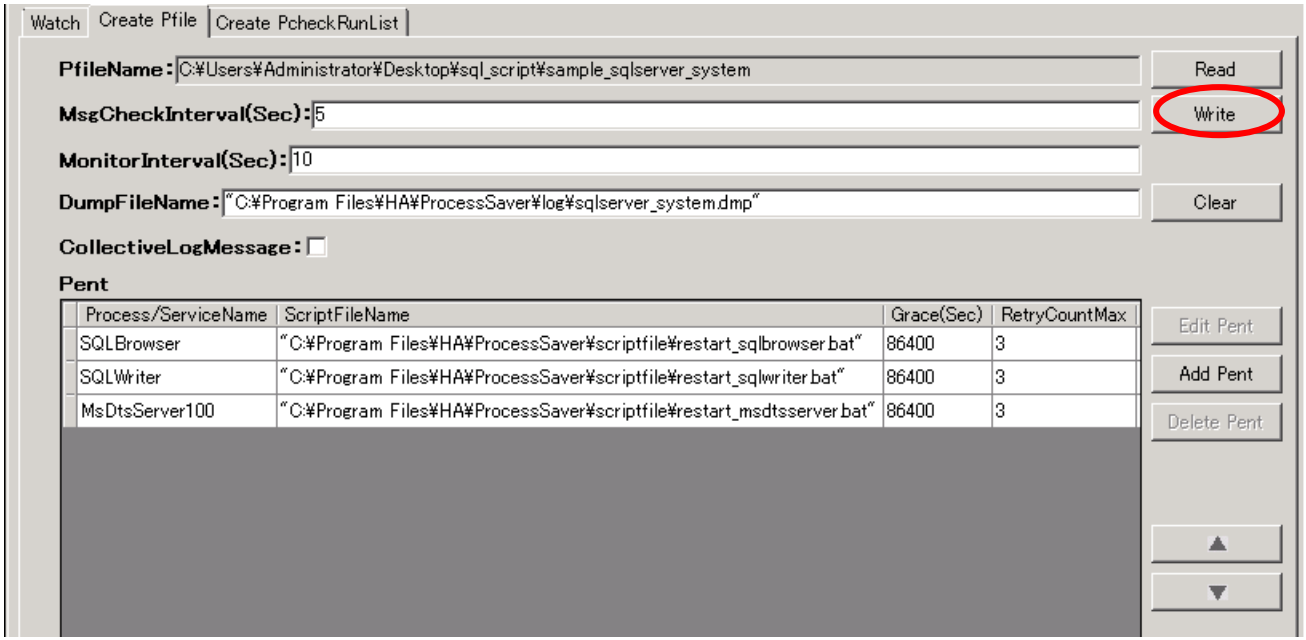


図17 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022

19. Microsoft SQL Server 2008 R2 の監視事例

・本事例は Microsoft SQL Server 2008 R2 を使用しています。
Microsoft SQL Server にて提供されているサービスを監視する場合を紹介します。

Microsoft SQL Server で提供されるサービスは以下のとおりですが、
インストール時に選択する機能によって、登録されないサービスがあります。

（1）システム一意
Microsoft SQL Server 一意のサービスのため、複数登録されません。

- SQLBrowser
- SQLWriter
- MsDtsServer100
- MSSQLServerADHelper100

（2）インスタンス
インスタンス数分サービスが登録されます。

- MSSQLSERVER
- SQLSERVERAGENT
- MSSQLFDLauncher
- MSSQLServerOLAPService
- ReportServer

© NEC Corporation 2022

19. （続き）

（２）　（続き）

インスタンスのサービス名はインストール時のインスタンス名の設定方法によって、
以下のようになります。

既定のインスタンスの場合	名前つきインスタンスの場合
MSSQLSERVER	MSSQL$【インスタンス名】
SQLSERVERAGENT	SQLAgent$【インスタンス名】
MSSQLFDLauncher	MSSQLFDLauncher$【インスタンス名】
MSSQLServerOLAPService	MSOLAP$【インスタンス名】
ReportServer	ReportServer$【インスタンス名】

＊　本書ではインスタンス名は既定のインスタンスで設定したものとします。

© NEC Corporation 2022

1. システム一意

1-1. 概要

・ SQLBrowser
・ SQLWriter

タイプ	Service	Service
表示名	SQL Server Browser	SQL Server VSS Writer
サービス名	SQLBrowser	SQLWriter
常駐プロセス	sqlbrowser.exe	sqlwriter.exe
スタートアップ	無効	自動
回復機能	サービスを再起動する	何もしない
依存関係	なし	なし

＊　スタートアップの値はインストールする機能の構成により変わる場合があります。
また、SQL Server インストール時に設定変更が可能となっています。

© NEC Corporation 2022

1-1. （続き）

・ MsDtsServer100
・ MSSQLServerADHelper100

タイプ	Service	Service
表示名	SQL Server Integration Services 10.0	SQL Active Directory Helper Service
サービス名	MsDtsServer100	MSSQLServerADHelper100
常駐プロセス	MsDtsSrvr.exe	SQLADHLP.EXE
スタートアップ	自動	無効
回復機能	何もしない	何もしない
依存関係	なし	なし

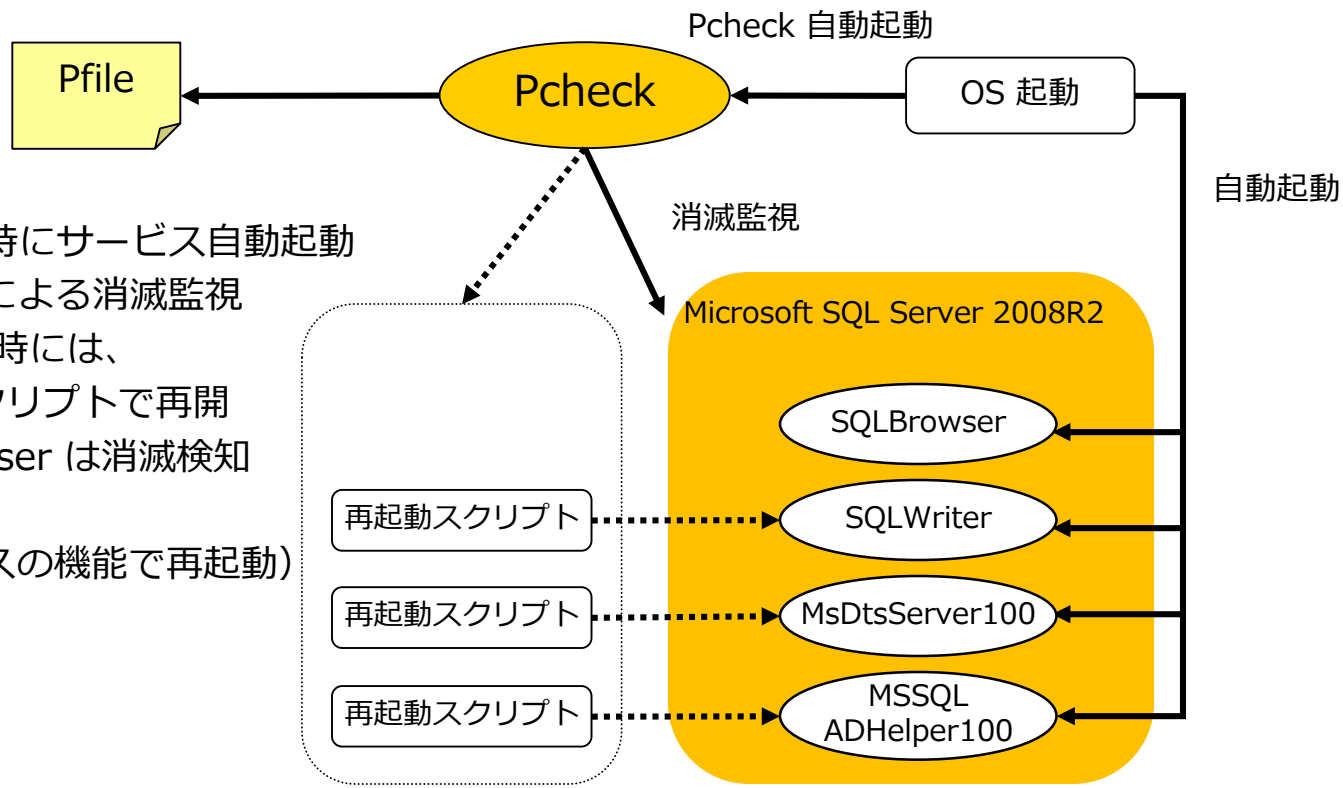
＊ スタートアップの値はインストールする機能の構成により変わる場合があります。
また、SQL Server インストール時に設定変更が可能となっています。

© NEC Corporation 2022

19. （続き）

監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、
  再起動スクリプトで再開
- SQLBrowser は消滅検知
  のみ行う
  （サービスの機能で再起動）



© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

1-2. Pfile

Pfile <sample_sqlserver2008r2_system>

本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。
本 Pfile は SQLBrower、MSSQLServerADHelper100 の監視はコメントアウトしていますので
SQLBrower、MSSQLServerADHelper100 を監視するためには Pfile を変更する必要があります。
その場合、「3. Pfile 書き換え」 の手順で Pfile を変更してください。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval          5
MonitorInterval            10
DumpFileName              "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥sqlserver2008r2_system.dmp"
UpMessageReduceMode    disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearCm
d;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
#SQLBrowser,,86400,0,Continue,Service
SQLWriter,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlwriter.bat",86400,3,Continue,Service
MsDtsServer100,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_msdtsserver.bat",86400,3,Continue,Service
#MSSQLServerADHelper100,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_adhelper.bat",86400,3,Continue,Service
```


© NEC Corporation 2022

1-3. 再起動スクリプト

- SQLWriter <restart_sqlwriter.bat>

```
@echo off

rem SQLWriter の再起動スクリプトです。
sc start SQLWriter

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

- MsDtsServer100 <restart_msdtsserver.bat>

```
@echo off

rem MsDtsServer100 の再起動スクリプトです。
sc start MsDtsServer100

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

- MSSQLServerADHelper100 <restart_adhelper.bat>

```
@echo off

rem MSSQLServerADHelper100 の再起動スクリプトです。
sc start MSSQLServerADHelper100

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

© NEC Corporation 2022

2. インスタンス

2-1. 概要

- MSSQLSERVER
- SQLSERVERAGENT

タイプ		Service	Service
表示名	既定インスタンスの場合	SQL Server (MSSQLSERVER)	SQL Server Agent (MSSQLSERVER)
	名前つきインスタンスの場合	SQL Server (【インスタンス名】)	SQL Server Agent (【インスタンス名】)
サービス名	既定インスタンスの場合	MSSQLSERVER	SQLSERVERAGENT
	名前つきインスタンスの場合	MSSQL$【インスタンス名】	SQLAgent$【インスタンス名】
常駐プロセス		sqlserver.exe	SQLAGENT.EXE
スタートアップ		自動	手動
回復機能		何もしない	何もしない
依存するサービス		なし	SQL Server (【インスタンス名】)
依存されるサービス		SQL Server Agent (【インスタンス名】)	なし

© NEC Corporation 2022

2-1. （続き）

・ MSSQLFDLauncher
・ MSSQLServerOLAPService

タイプ		Service	Service
表示名	既定インスタンスの場合	SQL Full-text Filter Daemon Launcher (MSSQLSERVER)	SQL Server Analysis Services (MSSQLSERVER)
	名前つきインスタンスの場合	SQL Full-text Filter Daemon Launcher (【インスタンス名】)	SQL Server Analysis Services (【インスタンス名】)
サービス名	既定インスタンスの場合	MSSQLFDLauncher	MSSQLServerOLAPService
	名前つきインスタンスの場合	MSSQLFDLauncher$【インスタンス名】	MSOLAP$【インスタンス名】
常駐プロセス		fdlauncher.exe fdhost.exe	msmdsrv.exe
スタートアップ		手動	自動
回復機能		何もしない	何もしない
依存関係		なし	なし

＊ MSSQLFDLauncher は MSSQLSERVER 起動時に起動されます。

© NEC Corporation 2022

2-1. （続き）

・ ReportServer

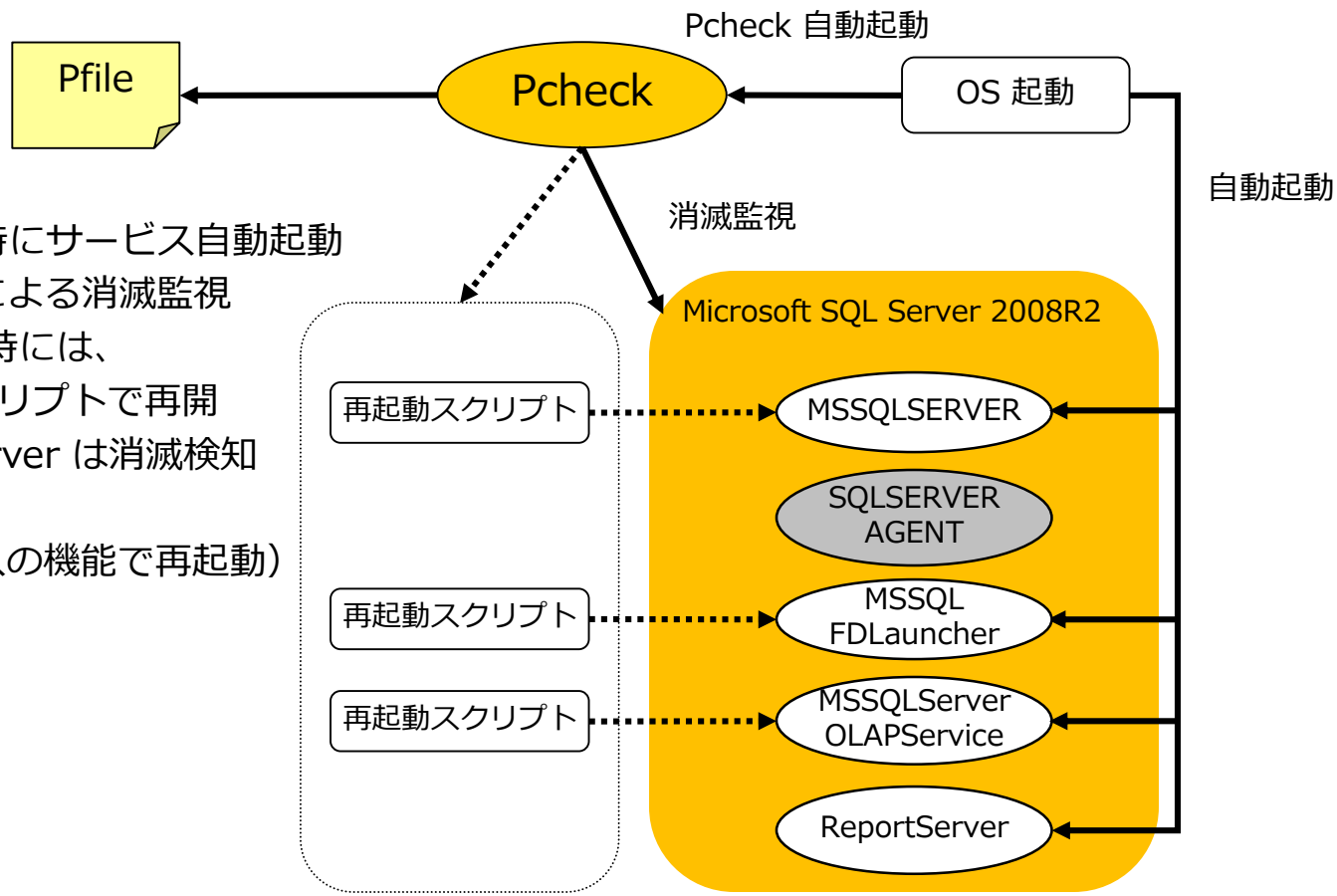
タイプ		Service
表示名	既定インスタンスの場合	SQL Server Reporting Services (MSSQLSERVER)
	名前つきインスタンスの場合	SQL Server Reporting Services (【インスタンス名】)
サービス名	既定インスタンスの場合	ReportServer
	名前つきインスタンスの場合	ReportServer$【インスタンス名】
常駐プロセス		ReportingServicesService.exe
スタートアップ		自動
回復機能		サービスを再起動する
依存関係		なし

© NEC Corporation 2022

SQLSERVERAGENT 未使用時

監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、
  再起動スクリプトで再開
- ReportServer は消滅検知
  のみ行う
  （サービスの機能で再起動）



© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

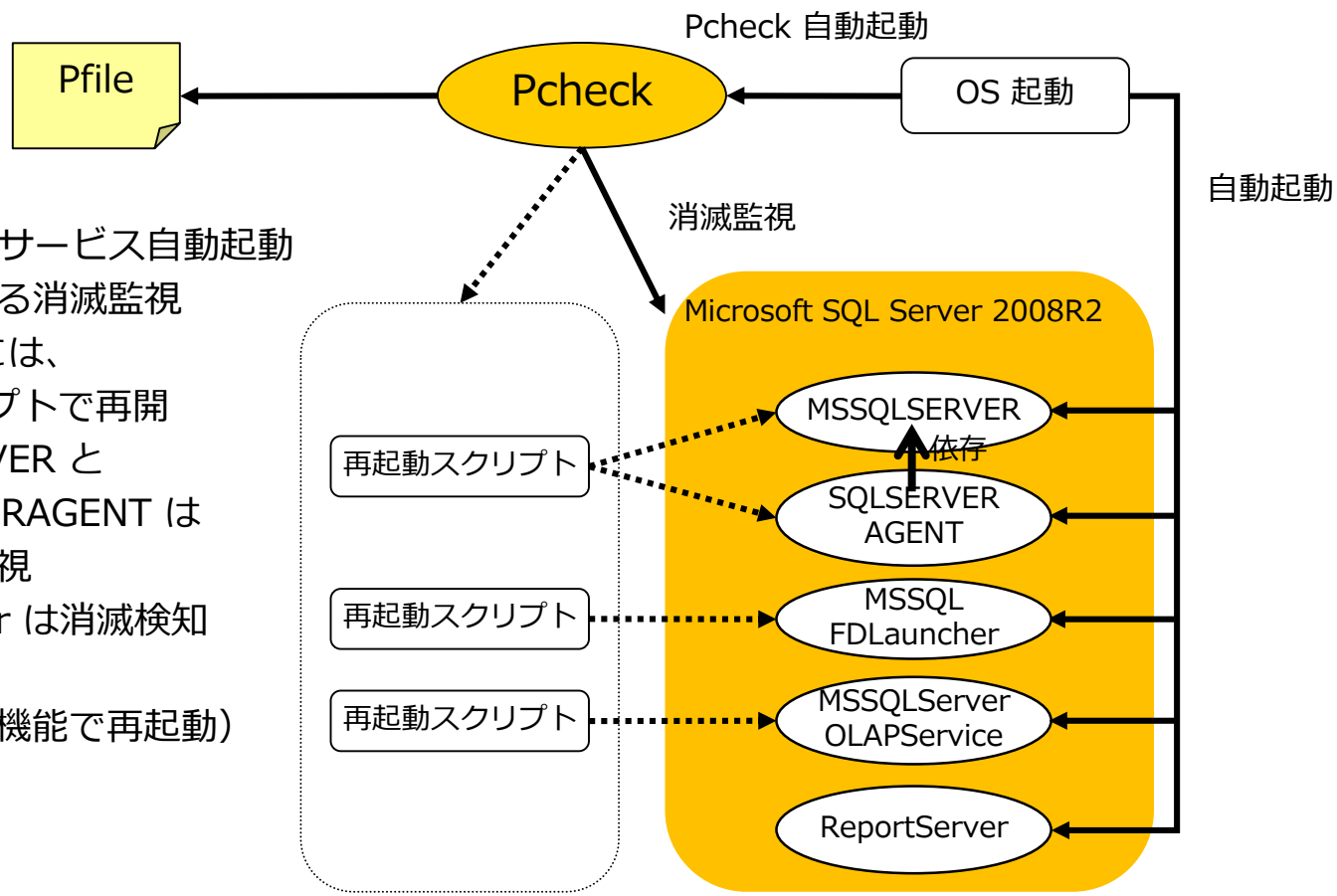
19. （続き）

SQLSERVERAGENT 使用時

SQLSERVERAGENT を使用している場合、SQLSERVERAGENT は、MSSQLSERVER に依存するため、
MSSQLSERVER 異常終了時には、SQLSERVERAGENT も停止します。
ただし、SQLSERVERAGENT 異常終了時には、MSSQLSERVER は停止しません。
ProcessSaver にて各サービスを監視し、停止したサービスの再起動を行います。

監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、
  再起動スクリプトで再開
- MSSQLSERVER と
  SQLSERVERAGENT は
  グループ監視
- ReportServer は消滅検知
  のみ行う
  （サービスの機能で再起動）



© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

2-2. Pfile

Pfile <sample_sqlserver2008r2_instance_notuse_agent>

本 Pfile は SQLSERVERAGENT を使用しない場合の Pfile です。
本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。
本 Pfile は既定のインスタンスで作成されたサービスを監視しています。
本 Pfile は ReportServer の監視はコメントアウトしていますので ReportServer を監視するためには Pfile を変更する必要があります。
その場合、「3. Pfile 書き換え」 の手順で Pfile を変更してください。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval            5
MonitorInterval              10
DumpFileName                "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥sqlserver2008r2_instance_notuse_agent.dmp"
UpMessageReduceMode    disable

##### PENT #####
##Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearCmd
;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
MSSQLSERVER,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlserver.bat",86400,3,Continue,Service
MSSQLFDLauncher,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_fdlauncher.bat",86400,3,Continue,Service
MSSQLServerOLAPService,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_olapservice.bat",86400,3,Continue,Service
#ReportServer,,86400,0,Continue,Service
```

ReportServer サービスの自動再起動は、サービス異常終了後、デフォルトで 1分後に再起動されるため、
本テンプレートの ReportServer の監視をコメントインして監視する場合、ProcessSaver で消滅検知後すぐに RetryOver となります。
ReportServer サービスを監視する場合で、消滅検知後、すぐに RetryOver にしたくない場合は、ReportServer サービスの [プロパティ] から再起動時間を変更していただくか、ReportServer サービス再起動を待ち合わせる再起動スクリプトをご用意いただく、または、MonitorInterval の値を変更する必要があります。
RetryOver になった場合は、サービス情報を再読み込み後にサービス監視の再開を行うために ReportServer サービスが 1 分後に起動したことを確認してから、Restart ボタンを押してください。

© NEC Corporation 2022

2-2. （続き）

Pfile <sample_sqlserver2008r2_instance_use_agent>

本 Pfile は SQLSERVERAGENT を使用する場合の Pfile です。
本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。
本 Pfile は既定のインスタンスで作成されたサービスを監視しています。
本 Pfile は ReportServer の監視はコメントアウトしていますので ReportServer を監視するためには Pfile を変更する必要があります。
その場合、「3. Pfile 書き換え」 の手順で Pfile を変更してください。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval            5
MonitorInterval              10
DumpFileName                "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥sqlserver2008r2_instance_use_agent.dmp"
UpMessageReduceMode    disable

##### PENT #####
##Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearCmd
;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
MSSQLSERVER,"C:¥Program
Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlserver_useagent.bat",86400,3,Continue,Service;GroupTag=sqlserver2008r2group
SQLSERVERAGENT,"C:¥Program
Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlserver_useagent.bat",86400,3,Continue,Service;GroupTag=sqlserver2008r2group
MSSQLFDLauncher,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_fdlauncher.bat",86400,3,Continue,Service
MSSQLServerOLAPService,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_olapservice.bat",86400,3,Continue,Service
#ReportServer,,86400,0,Continue,Service
```

ReportServer サービスの自動再起動は、サービス異常終了後、デフォルトで 1分後に再起動されるため、
本テンプレートの ReportServer の監視をコメントインして監視する場合、ProcessSaver で消滅検知後すぐに RetryOver となります。
ReportServer サービスを監視する場合で、消滅検知後、すぐに RetryOver にしたくない場合は、ReportServer サービスの [プロパティ] から再起動時間を変更していただくか、ReportServer サービス再起動を待ち合わせる再起動スクリプトをご用意いただく、または、MonitorInterval の値を変更する必要があります。
RetryOver になった場合は、サービス情報を再読み込み後にサービス監視の再開を行うために ReportServer サービスが 1 分後に起動したことを確認してから、Restart ボタンを押してください。

© NEC Corporation 2022

2-2. （続き）

名前付きインスタンスで作成されたサービスを監視する場合、使用する Pfile を
以下のように変更してください。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval        5
MonitorInterval        10
DumpFileName            "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥sqlserver2008r2_instance_use_agent.dmp"
UpMessageReduceMode     disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
MSSQLSERVER,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlserver_useagent.bat",86400,3,Continue,Service;GroupTag=sqlserver2008r2group
SQLSERVERAGENT,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlserver_useagent.bat",86400,3,Continue,Service;GroupTag=sqlserver2008r2group
MSSQLFDLauncher,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_fdlauncher.bat",86400,3,Continue,Service
MSSQLServerOLAPService,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_olapservice.bat",86400,3,Continue,Service
#ReportServer,,86400,0,Continue,Service
```

名前つきインスタンスのサービスを監視する場合は
各行の Process/ServiceName をそれぞれ以下のように変更してください。

MSSQLSERVER	→	MSSQL$【インスタンス名】
SQLSERVERAGENT	→	SQLAgent$【インスタンス名】
MSSQLFDLauncher	→	MSSQLFDLauncher$【インスタンス名】
MSSQLServerOLAPService	→	MSOLAP$【インスタンス名】
ReportServer	→	ReportServer$【インスタンス名】

© NEC Corporation 2022

2-3. 再起動スクリプト

- MSSQLSERVER <restart_sqlserver.bat>
  本スクリプトは Pfile <sample_sqlserver2008r2_instance_notuse_agent> で使用します。

```
@echo off

rem MSSQLSERVER の再起動スクリプトです。
sc start MSSQLSERVER

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

名前つきインスタンスの場合は
MSSQL$【インスタンス名】 に変更してください。

© NEC Corporation 2022

2-3. （続き）

・ MSSQLSERVER <restart_sqlserver_useagent.bat>
本スクリプトは Pfile <sample_sqlserver2008r2_instance_use_agent> で使用します。

```
@echo off

rem SQLSERVERAGENT 使用時の MSSQLSERVER の再起動スクリプトです。

rem MSSQLSERVER が起動していない場合、MSSQLSERVER と SQLSERVERAGENT を起動する。
sc query MSSQLSERVER | find "STOPPED"
if %ERRORLEVEL% == 0 (
  sc start MSSQLSERVER
)

rem SQLSERVERAGENT が起動していない場合、SQLSERVERAGENT を起動する。
sc query SQLSERVERAGENT | find "STOPPED"
if %ERRORLEVEL% == 0 (
  sc start SQLSERVERAGENT
)

exit
```

sc コマンドを
使用して
サービスの起動を
行います。

名前つきインスタンスの場合は、以下のように変更してください。
MSSQLSERVER → MSSQL$【インスタンス名】
SQLSERVERAGENT → SQLAgent$【インスタンス名】

© NEC Corporation 2022

2-3. （続き）

・ MSSQLFDLauncher <restart_fdlauncher.bat>

```
@echo off

rem MSSQLFDLauncher の再起動スクリプトです。
sc start MSSQLFDLauncher

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

名前つきインスタンスの場合は
MSSQLFDLauncher$【インスタンス名】 に変更してください。

・ MSSQLServerOLAPService<restart_olapservice.bat>

```
@echo off

rem MSSQLServerOLAPService の再起動スクリプトです。
sc start MSSQLServerOLAPService

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

名前つきインスタンスの場合は
MSOLAP$【インスタンス名】 に変更してください。

© NEC Corporation 2022

3. Pfile 書き換え

提供している Pfile を下記の観点で書き換えてください。

- 監視しないサービスについては、Pfile から削除してください。
- SQLBrowser、MSSQLServerADHelper100、ReportServer サービスの監視については、コメントアウトしています。SQLBrowser、MSSQLServerADHelper100、ReportServer サービスを使用、監視する場合は、Pfile を書き換えて、コメントインしてください。
- SQLSERVERAGENT サービスを使用する場合、 SQLSERVERAGENT サービス が MSSQLSERVER サービスに依存します。ProcessSaver による監視が不要な場合は Pfile から削除してください。

以降、システム一意のサービスの監視を削除する場合の Pfile の書き換え手順を説明します。
インスタンスのサービスの監視を削除する場合は、使用する Pfile
<C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_sqlserver2008r2_instance_notuse_agent>
または
<C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_sqlserver2008r2_instance_use_agent>
を 「3-2. Pfile の読み込み」 以降の手順にしたがい編集してください。

© NEC Corporation 2022

19. （続き）

Pfile 書き換え手順

3-1. Pfile の直接編集

↓

3-2. Pfile の読み込み

↓

3-3. 監視しないサービスの削除

↓

3-4. Pfile の保存

© NEC Corporation 2022

3-1. Pfile の直接編集

（1） SQLBrowser、MSSQLServerADHelper100 を監視する場合、
テキストエディターなどで
Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_sqlserver2008r2_system> を
開き、 SQLBrowser、MSSQLServerADHelper100 の行の # を削除し、コメントインしてください。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval          5
MonitorInterval           10
DumpFileName              "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥sqlserver2008r2_system.dmp"
UpMessageReduceMode       disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;Clea
rCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
#SQLBrowser,,86400,0,Continue,Service
SQLWriter,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlwriter.bat",86400,3,Continue,Service
MsDtsServer100,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_msdtsserver.bat",86400,3,Continue,Service
#MSSQLServerADHelper100,"C:¥Program
Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_adhelper.bat",86400,3,Continue,Service
```

を削除してコメントインしてください。

SQLBrow s er サービスの自動再起動は、サービス異常終了後、デフォルトで 1分後に再起動されるため、
本テンプレートの SQLBrowser の行をコメントインして監視する場合、ProcessSaver で消滅検知後すぐに RetryOver となります。
SQLBrow s er を監視する場合で、消滅検知後すぐに RetryOver にしたくない場合は、SQLBrowser サービスの [プロパティ] から
再起動時間を変更していただくか、SQLBrow s er サービス再起動を待ち合わせる再起動スクリプトをご用意いただく、
または、MonitorInterval の値を変更する必要があります。
RetryOver になった場合は、サービス情報を再読み込み後にサービス監視の再開を行うために
SQLBrowser サービスが 1分後に起動したことを確認してから、Restart ボタンを押してください。

© NEC Corporation 2022

3-2. Pfile の読み込み

（1） 『Create Pfile』 で *Read* を押して
Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_sqlserver2008r2_system>
の読み込みを行ってください。
下記画面にならなかった場合、または Pfile の読み込み時にエラーか警告が出力された場合は、
Page 18 の手順により Pfile を再取得し、もう一度やり直してください。

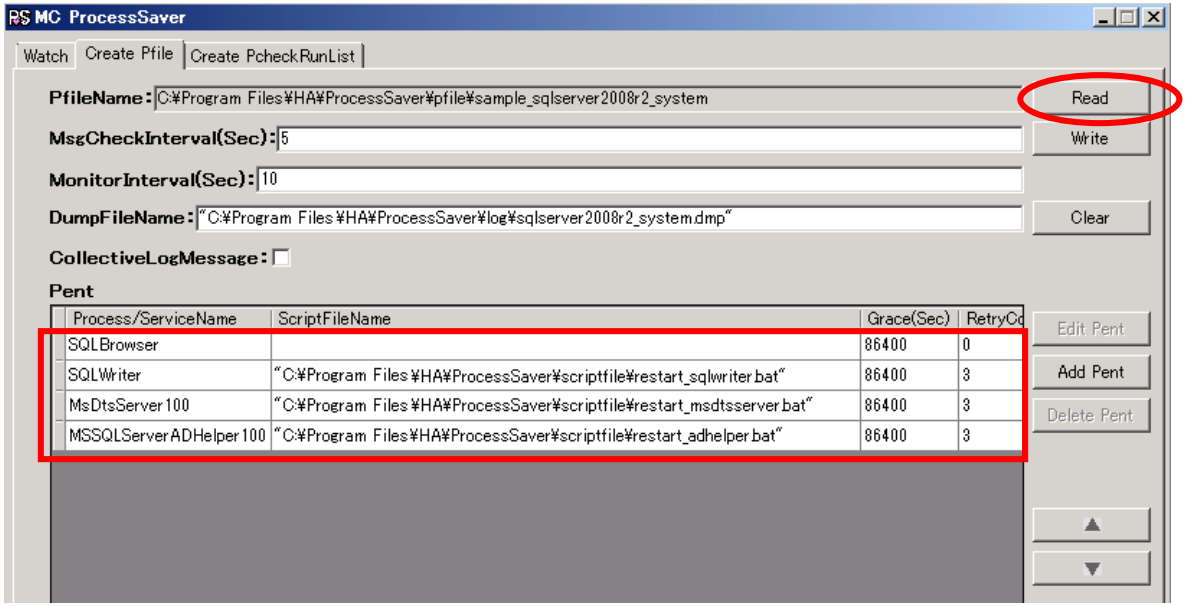


図18 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022

3-3. 監視しないサービスの削除

（１） 『Create Pfile』 の [Pent] から 監視しないサービスを選択し、
Delete Pent を押して削除してください。

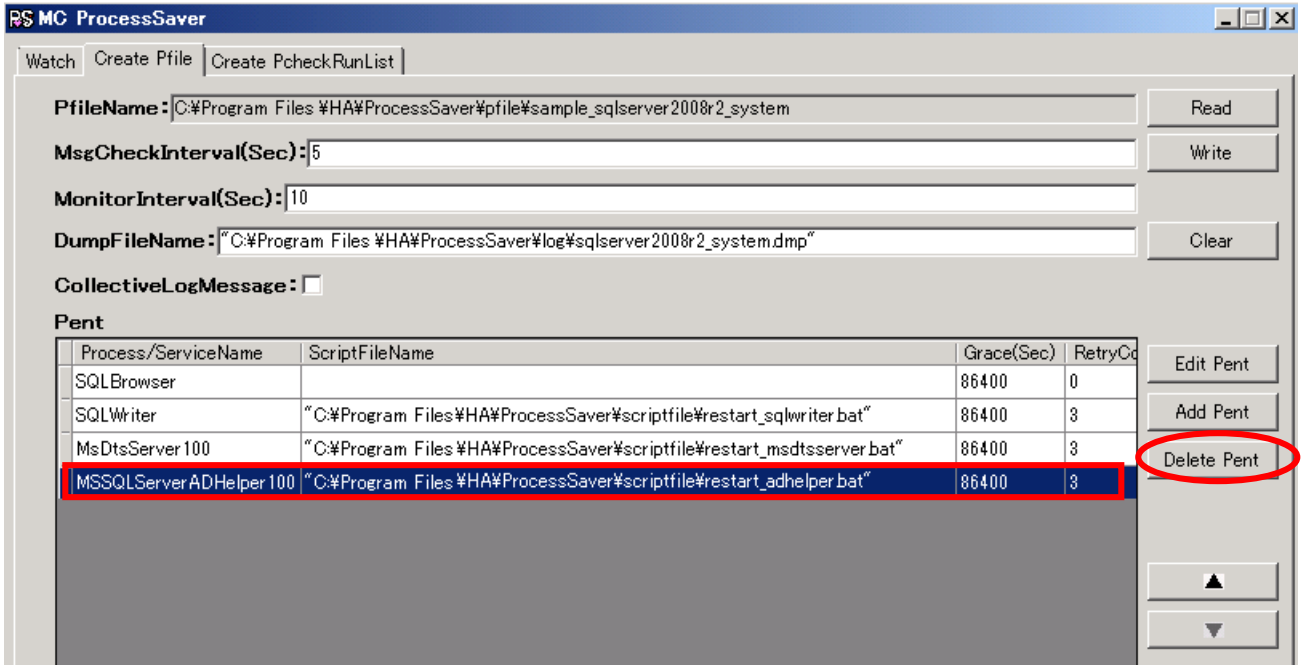


図19 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022

3-4. Pfile の保存

（1） 『Create Pfile』 で *Write* を押して
Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_sqlserver2008r2_system>
を保存してください。

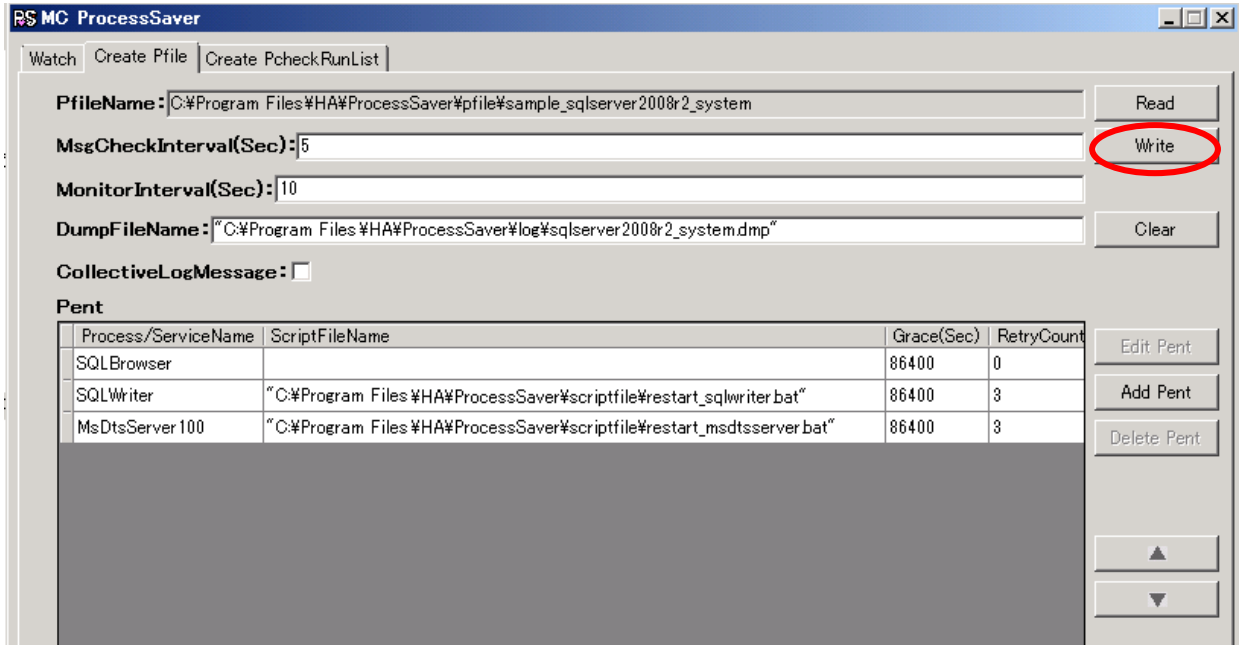


図20 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022

20. Microsoft SQL Server 2012 の監視事例

・本事例は Microsoft SQL Server 2012 ServicePack1 を使用しています。
Microsoft SQL Server にて提供されているサービスを監視する場合を紹介します。

Microsoft SQL Server で提供されるサービスは以下のとおりですが、
インストール時に選択する機能によって、登録されないサービスがあります。

（1）システム一意
Microsoft SQL Server 一意のサービスのため、複数登録されません。

- SQLBrowser
- SQLWriter
- MsDtsServer110
- SQL Server Distributed Replay Client
- SQL Server Distributed Replay Controller

（2）インスタンス
インスタンス数分サービスが登録されます。

- MSSQLSERVER
- SQLSERVERAGENT
- MSSQLFDLauncher
- MSSQLServerOLAPService
- ReportServer

© NEC Corporation 2022

20. （続き）

（２）　（続き）

インスタンスのサービス名はインストール時のインスタンス名の設定方法によって、
以下のようになります。

既定のインスタンスの場合	名前つきインスタンスの場合
MSSQLSERVER	MSSQL$【インスタンス名】
SQLSERVERAGENT	SQLAgent$【インスタンス名】
MSSQLFDLauncher	MSSQLFDLauncher$【インスタンス名】
MSSQLServerOLAPService	MSOLAP$【インスタンス名】
ReportServer	ReportServer$【インスタンス名】

＊　本書ではインスタンス名は既定のインスタンスで設定したものとします。

© NEC Corporation 2022

1. システム一意

1-1. 概要

・ SQLBrowser
・ SQLWriter

タイプ	Service	Service
表示名	SQL Server Browser	SQL Server VSS Writer
サービス名	SQLBrowser	SQLWriter
常駐プロセス	sqlbrowser.exe	sqlwriter.exe
スタートアップ	無効	自動
回復機能	サービスを再起動する	何もしない
依存関係	なし	なし

＊　スタートアップの値はインストールする機能の構成により変わる場合があります。
また、SQL Server インストール時に設定変更が可能となっています。

© NEC Corporation 2022

20. （続き）

1-1. （続き）

・ MsDtsServer110

タイプ	Service
表示名	SQL Server Integration Services 11.0
サービス名	MsDtsServer110
常駐プロセス	MsDtsSrvr.exe
スタートアップ	自動
回復機能	何もしない
依存関係	なし

＊ スタートアップの値はインストールする機能の構成により変わる場合があります。
また、SQL Server インストール時に設定変更が可能となっています。

© NEC Corporation 2022

20. （続き）

1-1. （続き）

・ SQL Server Distributed Replay Client
・ SQL Server Distributed Replay Controller

タイプ	Service	Service
表示名	SQL Server Distributed Replay Client	SQL Server Distributed Replay Controller
サービス名	SQL Server Distributed Replay Client	SQL Server Distributed Replay Controller
常駐プロセス	DReplayClient.exe	DReplayController.exe
スタートアップ	手動	手動
回復機能	何もしない	何もしない
依存関係	なし	なし

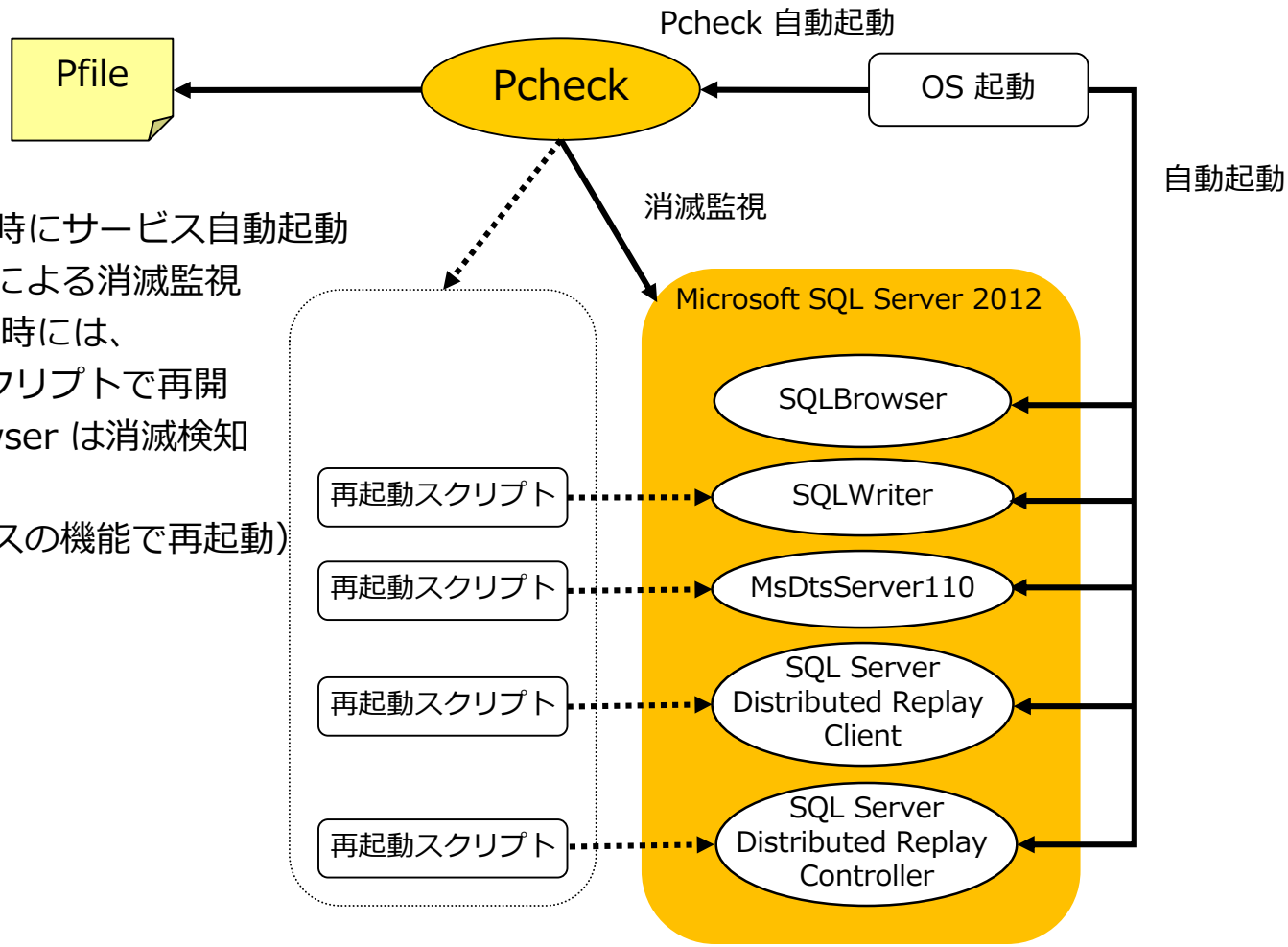
＊ スタートアップの値はインストールする機能の構成により変わる場合があります。
また、SQL Server インストール時に設定変更が可能となっています。

© NEC Corporation 2022

20. （続き）

監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、
  再起動スクリプトで再開
- SQLBrowser は消滅検知
  のみ行う
  （サービスの機能で再起動）



© NEC Corporation 2022

1-2. Pfile

Pfile <sample_sqlserver2012_system>

本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。

本 Pfile は SQLBrowser、SQL Server Distributed Replay Client、SQL Server Distributed Replay Controller の監視はコメントアウトしていますので

SQLBrowser、SQL Server Distributed Replay Client、SQL Server Distributed Replay Controller を監視するためには Pfile を変更する必要があります。

その場合、「3. Pfile 書き換え」 の手順で Pfile を変更してください。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval          5
MonitorInterval            10
DumpFileName              "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥sqlserver2012_system.dmp"
UpMessageReduceMode    disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearCm
d;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
#SQLBrowser,,86400,0,Continue,Service
SQLWriter,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlwriter.bat",86400,3,Continue,Service
MsDtsServer110,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_msdtsserver110.bat",86400,3,Continue,Service
#SQL Server Distributed Replay Client,"C:¥Program
Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_distributedreplayclient.bat",86400,3,Continue,Service
#SQL Server Distributed Replay Controller,"C:¥Program
Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_distributedreplaycontroller.bat",86400,3,Continue,Service
```


© NEC Corporation 2022

1-3. 再起動スクリプト

- SQLWriter <restart_sqlwriter.bat>

```
@echo off

rem SQLWriter の再起動スクリプトです。
sc start SQLWriter

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

- MsDtsServer110 <restart_msdtsserver110.bat>

```
@echo off

rem MsDtsServer110 の再起動スクリプトです。
sc start MsDtsServer110

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

1-3. 再起動スクリプト （続き）

- SQL Server Distributed Replay Client <restart_distributedreplayclient.bat>

```
@echo off

rem SQL Server Distributed Replay Client の再起動スクリプトです。
sc start "SQL Server Distributed Replay Client"
exit
```

sc コマンドを使用して
サービスの起動を行います。

- SQL Server Distributed Replay Controller <restart_distributedreplaycontroller.bat>

```
@echo off

rem SQL Server Distributed Replay Controller の再起動スクリプトです。
sc start "SQL Server Distributed Replay Controller"
exit
```

sc コマンドを使用して
サービスの起動を行います。

© NEC Corporation 2022

2. インスタンス

2-1. 概要

- MSSQLSERVER
- SQLSERVERAGENT

タイプ		Service	Service
表示名	既定インスタンスの場合	SQL Server (MSSQLSERVER)	SQL Server エージェント (MSSQLSERVER)
	名前つきインスタンスの場合	SQL Server (【インスタンス名】)	SQL Server エージェント (【インスタンス名】)
サービス名	既定インスタンスの場合	MSSQLSERVER	SQLSERVERAGENT
	名前つきインスタンスの場合	MSSQL$【インスタンス名】	SQLAgent$【インスタンス名】
常駐プロセス		sqlserver.exe	SQLAGENT.EXE
スタートアップ		自動	手動
回復機能		何もしない	何もしない
依存するサービス		なし	SQL Server (【インスタンス名】)
依存されるサービス		SQL Server エージェント (【インスタンス名】)	なし

© NEC Corporation 2022

20. （続き）

2-1. （続き）

・ MSSQLFDLauncher
・ MSSQLServerOLAPService

タイプ		Service	Service
表示名	既定インスタンスの場合	SQL Full-text Filter Daemon Launcher (MSSQLSERVER)	SQL Server Analysis Services (MSSQLSERVER)
	名前つきインスタンスの場合	SQL Full-text Filter Daemon Launcher (【インスタンス名】)	SQL Server Analysis Services (【インスタンス名】)
サービス名	既定インスタンスの場合	MSSQLFDLauncher	MSSQLServerOLAPService
	名前つきインスタンスの場合	MSSQLFDLauncher$【インスタンス名】	MSOLAP$【インスタンス名】
常駐プロセス		fdlauncher.exe fdhost.exe	msmdsrv.exe
スタートアップ		手動	自動
回復機能		何もしない	何もしない
依存関係		なし	なし

＊ MSSQLFDLauncher は MSSQLSERVER 起動時に起動されます。

© NEC Corporation 2022

20. （続き）

2-1. （続き）

・ ReportServer

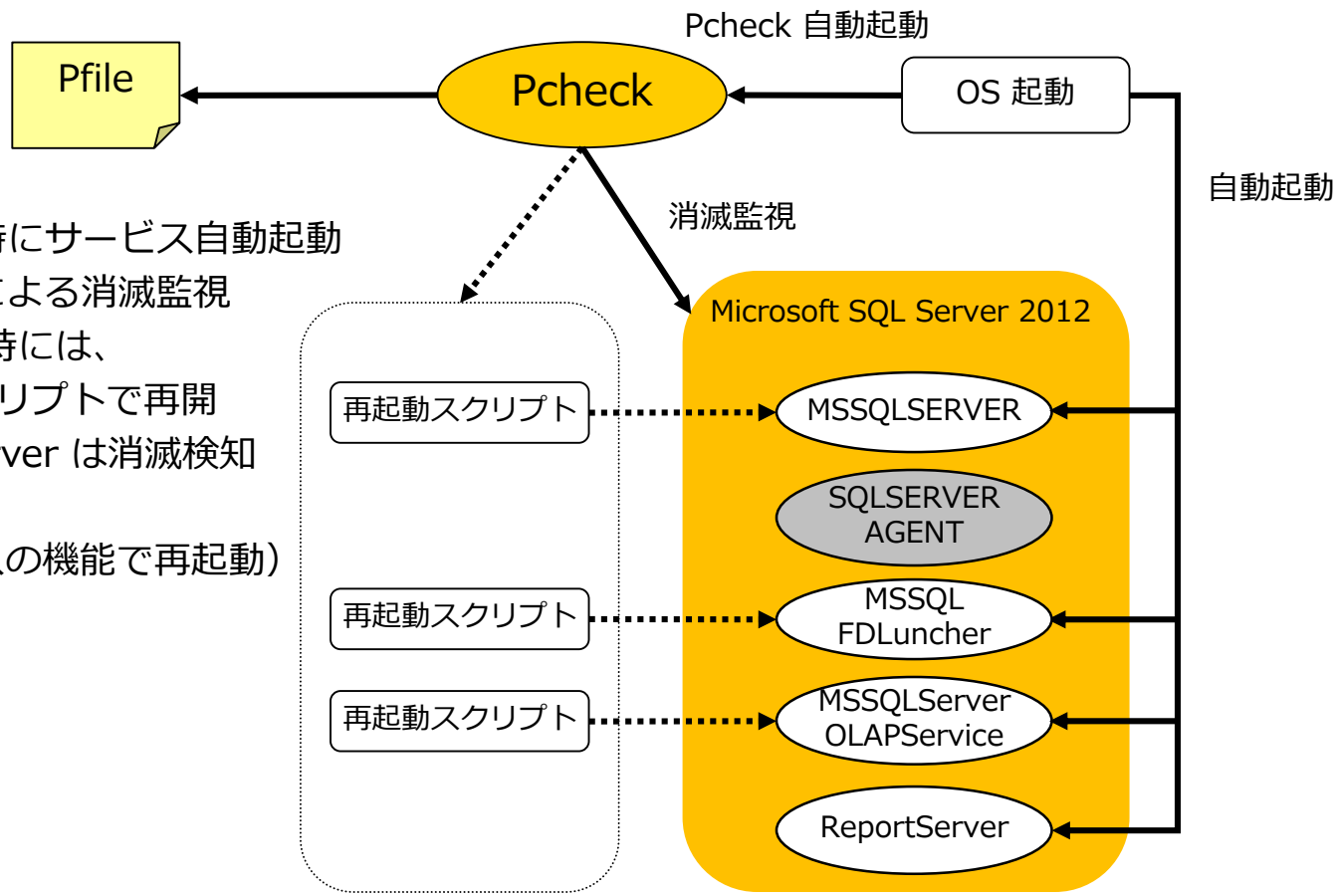
タイプ		Service
表示名	既定インスタンスの場合	SQL Server Reporting Services (MSSQLSERVER)
	名前つきインスタンスの場合	SQL Server Reporting Services (【インスタンス名】)
サービス名	既定インスタンスの場合	ReportServer
	名前つきインスタンスの場合	ReportServer$【インスタンス名】
常駐プロセス		ReportingServicesService.exe
スタートアップ		自動
回復機能		サービスを再起動する
依存関係		なし

© NEC Corporation 2022

SQLSERVERAGENT 未使用時

監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、
  再起動スクリプトで再開
- ReportServer は消滅検知
  のみ行う
  （サービスの機能で再起動）



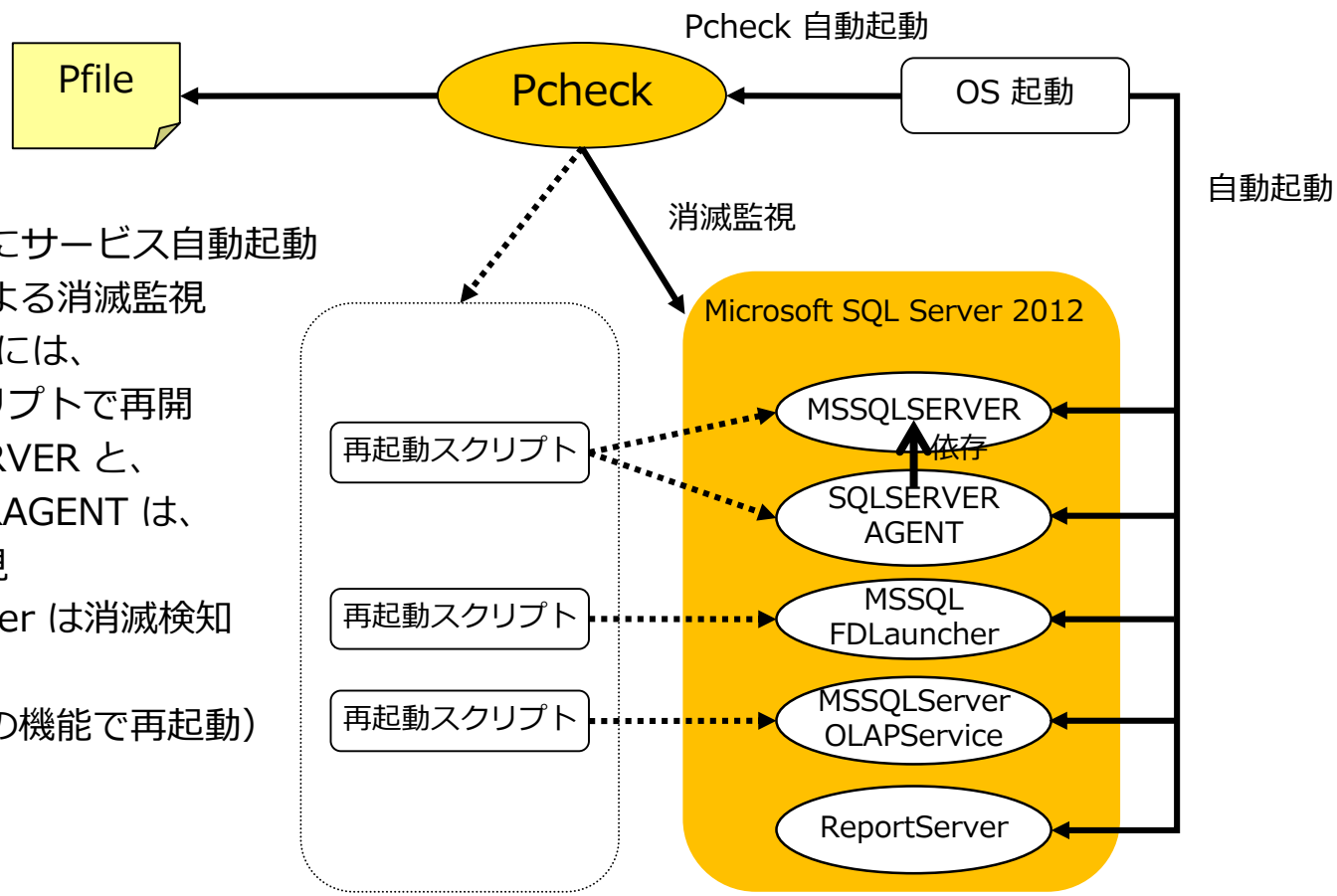
© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

SQLSERVERAGENT 使用時

SQLSERVERAGENT を使用している場合、SQLSERVERAGENT は MSSQLSERVER に依存するため、MSSQLSERVER 異常終了時に SQLSERVERAGENT も停止します。
ただし、SQLSERVERAGENT 異常終了時には、MSSQLSERVER は停止しません。
ProcessSaver にて各サービスを監視し、停止したサービスの再起動を行います。

監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、再起動スクリプトで再開
- MSSQLSERVER と、SQLSERVERAGENT は、グループ監視
- ReportServer は消滅検知のみ行う（サービスの機能で再起動）



© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

2-2. Pfile

Pfile <sample_sqlserver2012_instance_notuse_agent>

本 Pfile は SQLSERVERAGENT を使用しない場合の Pfile です。
本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。
本 Pfile は既定のインスタンスで作成されたサービスを監視しています。
本 Pfile は ReportServer の監視はコメントアウトしていますので ReportServer を監視するためには Pfile を変更する必要があります。
その場合、「3. Pfile 書き換え」 の手順で Pfile を変更してください。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval          5
MonitorInterval            10
DumpFileName              "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥sqlserver2012_instance_notuse_agent.dmp"
UpMessageReduceMode    disable

##### PENT #####
##Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearCmd
;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
MSSQLSERVER,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlserver.bat",86400,3,Continue,Service
MSSQLFDLauncher,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_fdlauncher.bat",86400,3,Continue,Service
MSSQLServerOLAPService,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_olapservice.bat",86400,3,Continue,Service
#ReportServer,,86400,0,Continue,Service
```

ReportServer サービスの自動再起動は、サービス異常終了後、デフォルトで 1分後に再起動されるため、
本テンプレートの ReportServer の監視をコメントインして監視する場合、ProcessSaver で消滅検知後すぐに RetryOver となります。
ReportServer サービスを監視する場合で、消滅検知後、すぐに RetryOver にしたくない場合は、ReportServer サービスの [プロパティ] から再起動時間を変更していただくか、ReportServer サービス再起動を待ち合わせる再起動スクリプトをご用意いただく、または、MonitorInterval の値を変更する必要があります。
RetryOver になった場合は、サービス情報を再読み込み後にサービス監視の再開を行うために ReportServer サービスが 1 分後に起動したことを確認してから、Restart ボタンを押してください。

© NEC Corporation 2022

2-2. （続き）

Pfile <sample_sqlserver2012_instance_use_agent>

本 Pfile は SQLSERVERAGENT を使用する場合の Pfile です。
本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。
本 Pfile は既定のインスタンスで作成されたサービスを監視しています。
本 Pfile は ReportServer の監視はコメントアウトしていますので ReportServer を監視するためには Pfile を変更する必要があります。
その場合、「3. Pfile 書き換え」 の手順で Pfile を変更してください。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval          5
MonitorInterval            10
DumpFileName              "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥sqlserver2012_instance_use_agent.dmp"
UpMessageReduceMode    disable

##### PENT #####
##Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearCmd
;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
MSSQLSERVER,"C:¥Program
Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlserver_useagent.bat",86400,3,Continue,Service;GroupTag=sqlserver2008r2group
SQLSERVERAGENT,"C:¥Program
Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlserver_useagent.bat",86400,3,Continue,Service;GroupTag=sqlserver2008r2group
MSSQLFDLauncher,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_fdlauncher.bat",86400,3,Continue,Service
MSSQLServerOLAPService,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_olapservice.bat",86400,3,Continue,Service
#ReportServer,,86400,0,Continue,Service
```

ReportServer サービスの自動再起動は、サービス異常終了後、デフォルトで 1分後に再起動されるため、
本テンプレートの ReportServer の監視をコメントインして監視する場合、ProcessSaver で消滅検知後すぐに RetryOver となります。
ReportServer サービスを監視する場合で、消滅検知後、すぐに RetryOver にしたくない場合は、ReportServer サービスの [プロパティ] から再起動時間を変更していただくか、ReportServer サービス再起動を待ち合わせる再起動スクリプトをご用意いただく、または、MonitorInterval の値を変更する必要があります。
RetryOver になった場合は、サービス情報を再読み込み後にサービス監視の再開を行うために ReportServer サービスが 1 分後に起動したことを確認してから、Restart ボタンを押してください。

© NEC Corporation 2022

2-2. （続き）

名前付きインスタンスで作成されたサービスを監視する場合、使用する Pfile を
以下のように変更してください。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval        5
MonitorInterval         10
DumpFileName            "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥sqlserver2012_instance_use_agent.dmp"
UpMessageReduceMode     disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearCmd;In
cludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
MSSQLSERVER,"C:¥Program
Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlserver_useagent.bat",86400,3,Continue,Service;GroupTag=sqlserver2008r2group
SQLSERVERAGENT,"C:¥Program
Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlserver_useagent.bat",86400,3,Continue,Service;GroupTag=sqlserver2008r2group
MSSQLFDLauncher,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_fdlauncher.bat",86400,3,Continue,Service
MSSQLServerOLAPService,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_olapservice.bat",86400,3,Continue,Service
#ReportServer,,86400,0,Continue,Service
```

名前つきインスタンスのサービスを監視する場合は
各行の Process/ServiceName をそれぞれ以下のように変更してください。

MSSQLSERVER	→	MSSQL$【インスタンス名】
SQLSERVERAGENT	→	SQLAgent$【インスタンス名】
MSSQLFDLauncher	→	MSSQLFDLauncher$【インスタンス名】
MSSQLServerOLAPService	→	MSOLAP$【インスタンス名】
ReportServer	→	ReportServer$【インスタンス名】

© NEC Corporation 2022

2-3. 再起動スクリプト

本 スクリプトは既定のインスタンスで作成されたサービスを起動します。
名前つきインスタンスで作成されたサービスを起動するにはスクリプトを変更する必要があります。

・ MSSQLSERVER <restart_sqlserver.bat>
本スクリプトは Pfile <sample_sqlserver2012_instance_notuse_agent> で使用します。

```
@echo off

rem MSSQLSERVER の再起動スクリプトです。
sc start MSSQLSERVER

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

名前つきインスタンスの場合は
MSSQL$【インスタンス名】 に変更してください。

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

2-3. （続き）

・ MSSQLSERVER <restart_sqlserver_useagent.bat>
本スクリプトは Pfile <sample_sqlserver2012_instance_use_agent> で使用します。

```
@echo off

rem SQLSERVERAGENT 使用時の MSSQLSERVER の再起動スクリプトです。

rem MSSQLSERVER が起動していない場合、MSSQLSERVER と SQLSERVERAGENT を起動する。
sc query MSSQLSERVER | find "STOPPED"
if %ERRORLEVEL% == 0 (
  sc start MSSQLSERVER
)

rem SQLSERVERAGENT が起動していない場合、SQLSERVERAGENT を起動する。
sc query SQLSERVERAGENT | find "STOPPED"
if %ERRORLEVEL% == 0 (
  sc start SQLSERVERAGENT
)

exit
```

sc コマンドを
使用して
サービスの
起動を行います。

名前つきインスタンスの場合は、以下のように変更してください。
MSSQLSERVER → MSSQL$【インスタンス名】
SQLSERVERAGENT → SQLAgent$【インスタンス名】

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

2-3. （続き）

・ MSSQLFDLauncher <restart_fdlauncher.bat>

```
@echo off

rem MSSQLFDLauncher の再起動スクリプトです。
sc start MSSQLFDLauncher

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

名前つきインスタンスの場合は
MSSQLFDLauncher$【インスタンス名】 に変更してください。

・ MSSQLServerOLAPService<restart_olapservice.bat>

```
@echo off

rem MSSQLServerOLAPService の再起動スクリプトです。
sc start MSSQLServerOLAPService

exit
```

sc コマンドを使用してサービスの起動を行います。

名前つきインスタンスの場合は
MSOLAP$【インスタンス名】 に変更してください。

© NEC Corporation 2022

3. Pfile 書き換え

提供している Pfile を下記の観点で書き換えてください。

- 監視しないサービスについては、Pfile から削除してください。
- SQLBrowser、SQL Server Distributed Replay Client、SQL Server Distributed Replay Controller ReportServer サービスの監視については、コメントアウトしています。SQLBrowser、SQL Server Distributed Replay Client、SQL Server Distributed Replay Controller ReportServer サービスを使用、監視する場合は、Pfile を書き換えて、コメントインしてください。
- SQLSERVERAGENT サービスを使用する場合、 SQLSERVERAGENT サービス が MSSQLSERVER サービスに依存します。ProcessSaver による監視が不要な場合は Pfile から削除してください。

以降、システム一意のサービスの監視を削除する場合の Pfile の書き換え手順を説明します。
インスタンスのサービスの監視を削除する場合は、使用する Pfile
<C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_sqlserver2012_instance_notuse_agent>
または
<C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_sqlserver2012_instance_use_agent>
を 「3-2. Pfile の読み込み」 以降の手順にしたがい編集してください。

© NEC Corporation 2022

20. （続き）

Pfile 書き換え手順

3-1. Pfile の直接編集

↓

3-2. Pfile の読み込み

↓

3-3. 監視しないサービスの削除

↓

3-4. Pfile の保存

© NEC Corporation 2022

3-1. Pfile の直接編集

（1） SQLBrowser、SQL Server Distributed Replay Client、SQL Server Distributed Replay Controllerを監視する場合、テキストエディターなどで Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_sqlserver2012_system> を開き、 SQLBrowser、SQL Server Distributed Replay Client、SQL Server Distributed Replay Controller の行の # を削除し、コメントインしてください。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval          5
MonitorInterval           10
DumpFileName              "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥sqlserver2012_system.dmp"
UpMessageReduceMode       disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
#SQLBrowser,,86400,0,Continue,Service
SQLWriter,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_sqlwriter.bat",86400,3,Continue,Service
MsDtsServer110,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_msdtsserver110.bat",86400,3,Continue,Service
#SQL Server Distributed Replay Client,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_distributedreplayclient.bat",86400,3,Continue,Service
#SQL Server Distributed Replay Controller,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_distributedreplaycontroller.bat",86400,3,Continue,Service
```

を削除してコメントインしてください。

SQLBrow s er サービスの自動再起動は、サービス異常終了後、デフォルトで 1分後に再起動されるため、
本テンプレートの SQLBrowser の行をコメントインして監視する場合、ProcessSaver で消滅検知後すぐに RetryOver となります。
SQLBrow s er を監視する場合で、消滅検知後すぐに RetryOver にしたくない場合は、SQLBrowser サービスの [プロパティ] から
再起動時間を変更していただくか、SQLBrow s er サービス再起動を待ち合わせる再起動スクリプトをご用意いただく、
または、MonitorInterval の値を変更する必要があります。
RetryOver になった場合は、サービス情報を再読み込み後にサービス監視の再開を行うために
SQLBrowser サービスが 1分後に起動したことを確認してから、Restart ボタンを押してください。

© NEC Corporation 2022

3-2. Pfile の読み込み

（1） 『Create Pfile』 で *Read* を押して
Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_sqlserver2012_system>
の読み込みを行ってください。
下記画面にならなかった場合、または Pfile の読み込み時にエラーか警告が出力された場合は、
Page 18 の手順により Pfile を再取得し、もう一度やり直してください。

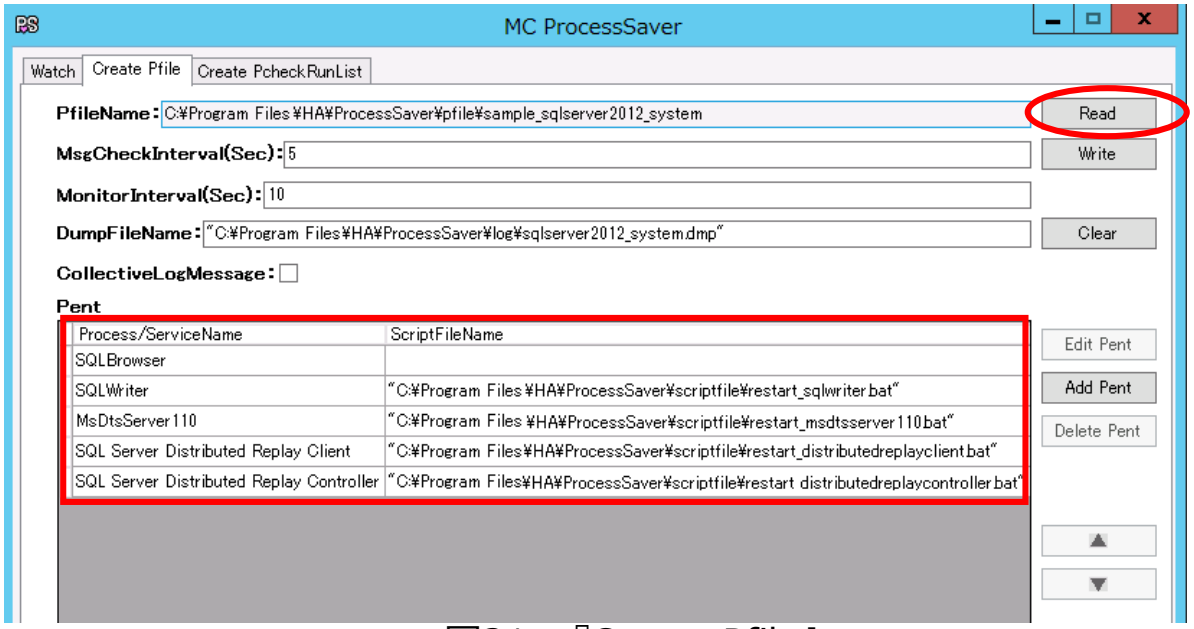


図21 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022

3-3. 監視しないサービスの削除

（1） 『Create Pfile』 の [Pent] から 監視しないサービスを選択し、
Delete Pent を押して削除してください。

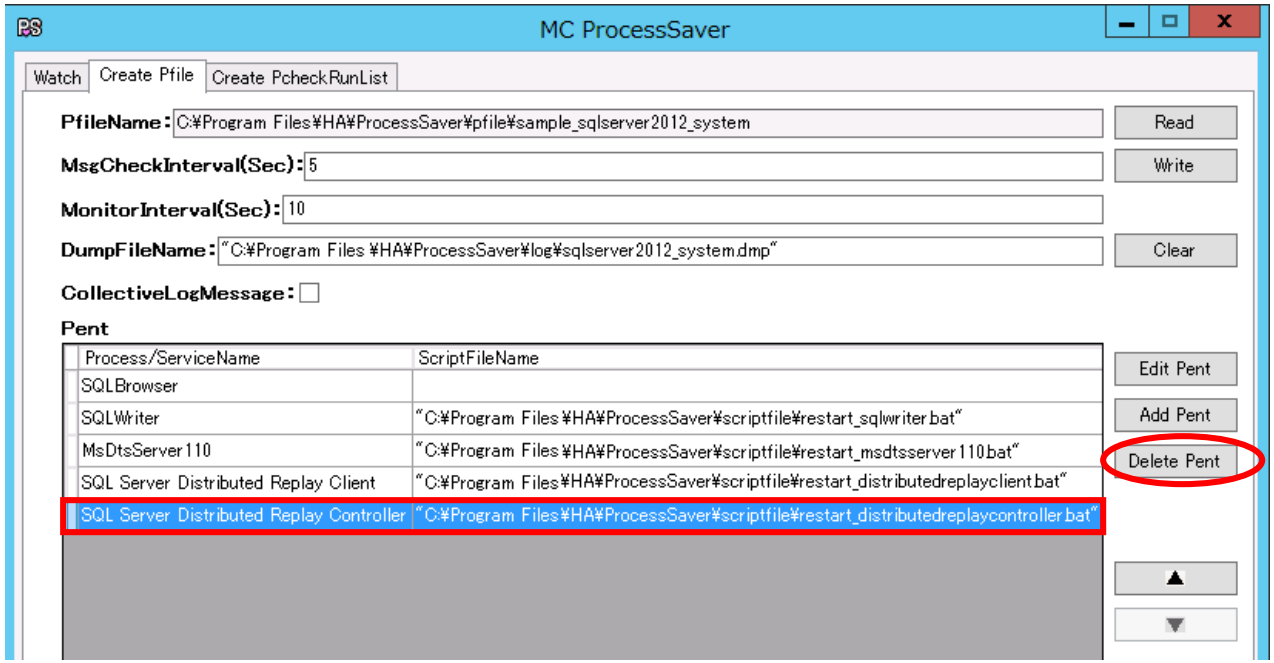


図22 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022

3-4. Pfile の保存

（1） 『Create Pfile』 で *Write* を押して
Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_sqlserver2012_system>
を保存してください。

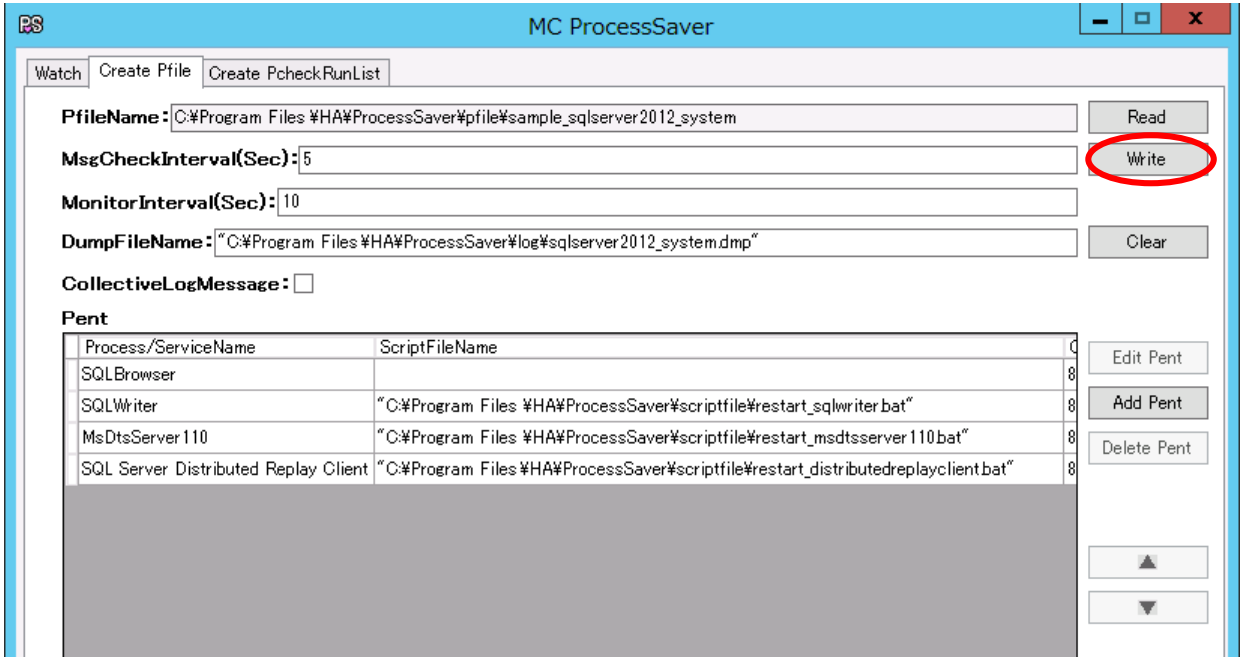


図23 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022

1. 概要

本事例は StarOffice X Standard V4.0 を使用しています。
StarOffice X にて提供されている以下のサービスを監視する場合を紹介します。

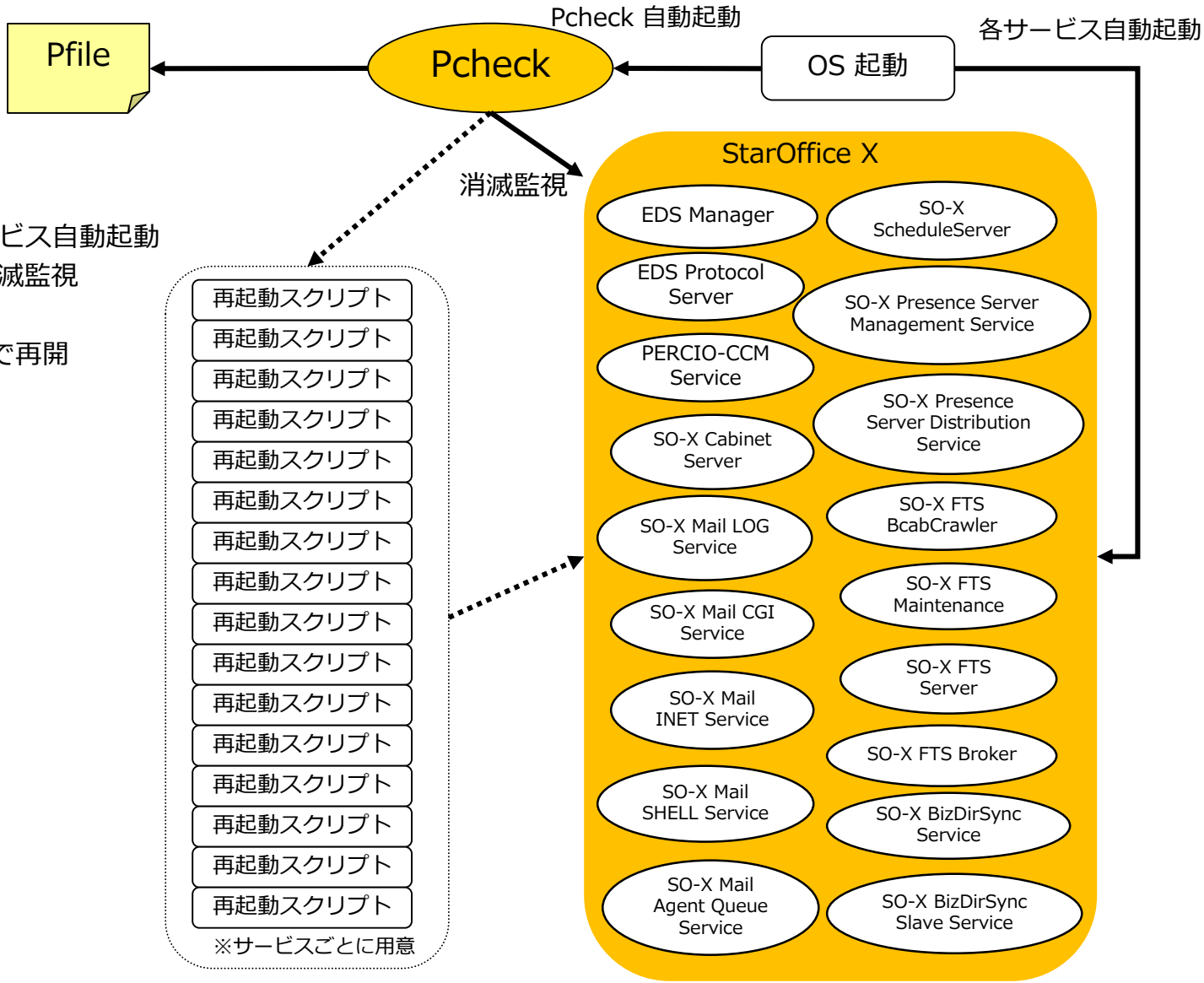
表示名	サービス名
EDS Manager	EDS Manager
EDS Protocol Server	EDS Protocol Server
PERCIO-CCM Service	PERCIO-CCM service
SO-X Cabinet Server	ObjectManager
SO-X Mail LOG Service	mlog
SO-X Mail CGI Service	cgid
SO-X Mail INET Service	minetd
SO-X Mail SHELL Service	mshd
SO-X Mail Agent Queue Service	somail_agd
SO-X ScheduleServer	StarOffice FormServer
SO-X Presence Server Management Service	PMManager
SO-X Presence Server Distribution Service	PMDistributor
SO-X FTS BcabCrawler	SOXFTSBcabCrawler
SO-X FTS Maintenance	SOXFTSMaintenance
SO-X FTS Server	SOXFTSServer
SO-X FTS Broker	SOXFTSBroke
SO-X BizDirSync Service	so_edsyncd
SO-X BizDirSync Slave Service	BDSyncSlave_Service

© NEC Corporation 2022

21. （続き）

監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- Pcheck による消滅監視
- 消滅検出時には、
  再起動スクリプトで再開



© NEC Corporation 2022

2. Pfile

Pfile <sample_staroffice>

本 Pfile は すべてのサービスを監視する設定となっています。

本 Pfile は使用する機能により、監視するサービスを削除する必要があります。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval       5
MonitorInterval       10
DumpFileName          "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥staroffice_dump"
UpMessageReduceMode    disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTa
g;ClearCmd;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch

EDS Manager,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_EDSManager.bat",86400,3,Continue,Service
EDS Protocol Server,"C:¥Program
Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_EDSProtocol.bat",86400,3,Continue,Service
PERCIO-CCM service,"C:¥Program
Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_PERCIO.bat",86400,3,Continue,Service
ObjectManager,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_Cabinet.bat",86400,3,Continue,Service
mlog,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_MailLOG.bat",86400,3,Continue,Service
cgid,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_MailCGI.bat",86400,3,Continue,Service
minetd,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_MailINET_Service.bat",86400,3,Continue,Service
```

次ページへ続く

© NEC Corporation 2022

21. （続き）

続き

```
mshd,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_MailSHELL.bat",86400,3,Continue,Service
somail_agd,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_MailAgentQueue.bat",86400,3,Continue,Service
StarOffice FormServer,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_Schedule.bat",86400,3,Continue,Service
PMManager,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_PSMS.bat",86400,3,Continue,Service
PMDistributor,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_PSDS.bat",86400,3,Continue,Service
SOXFTSBcabCrawler,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_FTSBC.bat",86400,3,Continue,Service
SOXFTSMaintenance,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_FTSMaintenance.bat",86400,3,Continue,Service
SOXFTSServer,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_FTSServer.bat",86400,3,Continue,Service
SOXFTSBroker,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_FTSBroker.bat",86400,3,Continue,Service
so_edsyncd,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_BDS.bat",86400,3,Continue,Service
BDSyncSlave_Service,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_BDSSlave.bat",86400,3,Continue,Service
```


© NEC Corporation 2022

3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト

- EDS Manager <restart_SO_EDSManager.bat>

```
@echo off

rem EDS Manager の再起動スクリプトです。
net start "EDS Manager"

exit
```

- EDS Protocol Server <restart_SO_EDSProtocol.bat>

```
@echo off

rem EDS Protocol Server の再起動スクリプトです。
net start "EDS Protocol Server"

exit
```

- PERCIO-CCM Service <restart_SO_PERCIO.bat>

```
@echo off

rem PERCIO-CCM Service の再起動スクリプトです。
net start "PERCIO-CCM Service"

exit
```


© NEC Corporation 2022

21. （続き）

・ ObjectManager (SO-X Cabinet Server) <restart_SO_Cabinet.bat>

```
@echo off

rem SO-X Cabinet Server の再起動スクリプトです。
net start "SO-X Cabinet Server"

exit
```

・ mlog (SO-X Mail LOG Service) <restart_SO_MailLOG.bat>

```
@echo off

rem SO-X Mail LOG Service の再起動スクリプトです。
net start "SO-X Mail LOG Service"

exit
```

・ cgid (SO-X Mail CGI Service) <restart_SO_MailCGI.bat>

```
@echo off

rem SO-X Mail CGI Service の再起動スクリプトです。
net start "SO-X Mail CGI Service"

exit
```


© NEC Corporation 2022

21. （続き）

- minetd (SO-X Mail INET Service) <restart_SO_MailINET_Service.bat>

```
@echo off

rem SO-X Mail INET Service の再起動スクリプトです。
net start "SO-X Mail INET Service"

exit
```

- mshd (SO-X Mail SHELL Service) <restart_SO_MailSHELL.bat>

```
@echo off

rem SO-X Mail SHELL Service の再起動スクリプトです。
net start "SO-X Mail SHELL Service"

exit
```

- somail_agd (SO-X Mail Agent Queue Service) <restart_SO_MailAgentQueue.bat>

```
@echo off

rem SO-X Mail Agent Queue Service の再起動スクリプトです。
net start "SO-X Mail Agent Queue Service"

exit
```


© NEC Corporation 2022

21. （続き）

- StarOffice FormServer (SO-X ScheduleServer) <restart_SO_Schedule.bat>

```
@echo off

rem SO-X ScheduleServer の再起動スクリプトです。
net start "SO-X ScheduleServer"

exit
```

- PMManager (SO-X Presence Server Management Service) <restart_SO_PSMS.bat>

```
@echo off

rem SO-X Presence Server Management Service の再起動スクリプトです。
net start "SO-X Presence Server Management Service"

exit
```

- PMDistributor (SO-X Presence Server Distribution Service) <restart_SO_PSDS.bat>

```
@echo off

rem SO-X Presence Server Distribution Service の再起動スクリプトです。
net start "SO-X Presence Server Distribution Service"

exit
```


© NEC Corporation 2022

21. （続き）

- SOXFTSBcabCrawler (SO-X FTS BcabCrawler) <restart_SO_FTSBC.bat>

```
@echo off

rem SO-X FTS BcabCrawler の再起動スクリプトです。
net start "SO-X FTS BcabCrawler"

exit
```

- SOXFTSMaintenance (SO-X FTS Maintenance) <restart_SO_FTSMaintenance.bat>

```
@echo off

rem SO-X FTS Maintenance の再起動スクリプトです。
net start "SO-X FTS Maintenance"

exit
```

- SOXFTSServer (SO-X FTS Server) <restart_SO_FTSServer.bat>

```
@echo off

rem SO-X FTS Server の再起動スクリプトです。
net start "SO-X FTS Server"

exit
```


© NEC Corporation 2022

21. （続き）

- SOXFTSBroker (SO-X FTS Broker) <restart_SO_FTSBroker.bat>

```
@echo off

rem SO-X FTS Broker の再起動スクリプトです。
net start "SO-X FTS Broker"

exit
```

- so_edsyncd (SO-X BizDirSync Service) <restart_SO_BDS.bat>

```
@echo off

rem SO-X BizDirSync Service の再起動スクリプトです。
net start "SO-X BizDirSync Service"

exit
```

- BDSyncSlave_Service (SO-X BizDirSync Slave Service) <restart_SO_BDSSlave.bat>

```
@echo off

rem SO-X BizDirSync Slave Service の再起動スクリプトです。
net start "SO-X BizDirSync Slave Service"

exit
```


© NEC Corporation 2022

4. Pfile 書き換え

提供している Pfile を下記の観点で書き換えてください。

・ 監視しないサービスについては、Pfile から削除してください。

Pfile 書き換え手順

4-1. Pfile の直接編集

↓

4-2. Pfile の読み込み

↓

4-3. 監視しないサービスの削除

↓

4-4. Pfile の保存

© NEC Corporation 2022

21. （続き）

4-1. Pfile の直接編集

（１） テキストエディターなどで Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_staroffice> を開き、編集してください。

```
                    .
                    .
##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearCmd;IncludeString
s;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch

EDS Manager,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_EDSManager.bat",86400,3,Continue,Service
EDS Protocol Server,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_EDSProtocol.bat",86400,3,Continue,Service
PERCIO-CCM service,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_PERCIO.bat",86400,3,Continue,Service
ObjectManager,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_Cabinet.bat",86400,3,Continue,Service
mlog,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_MailLOG.bat",86400,3,Continue,Service
cgid,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_MailCGI.bat",86400,3,Continue,Service
minetd,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_MailINET_Service.bat",86400,3,Continue,Service
mshd,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_MailSHELL.bat",86400,3,Continue,Service
somail_agd,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_MailAgentQueue.bat",86400,3,Continue,Service
StarOffice FormServer,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_Schedule.bat",86400,3,Continue,Service
PMManager,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_PSMS.bat",86400,3,Continue,Service
PMDistributor,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_PSDS.bat",86400,3,Continue,Service
SOXFTSBcabCrawler,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_FTSBC.bat",86400,3,Continue,Service
SOXFTSMaintenance,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_FTSMaintenance.bat",86400,3,Continue,Service
SOXFTSServer,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_FTSServer.bat",86400,3,Continue,Service
SOXFTSBroker,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_FTSBroker.bat",86400,3,Continue,Service
so_edsyncd,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_BDS.bat",86400,3,Continue,Service
BDSyncSlave_Service,"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SO_BDSSlave.bat",86400,3,Continue,Service
```


© NEC Corporation 2022

4-2. Pfile の読み込み

（1） 『Create Pfile』 で *Read* を押して
Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_staroffice> の読み込みを行ってください。

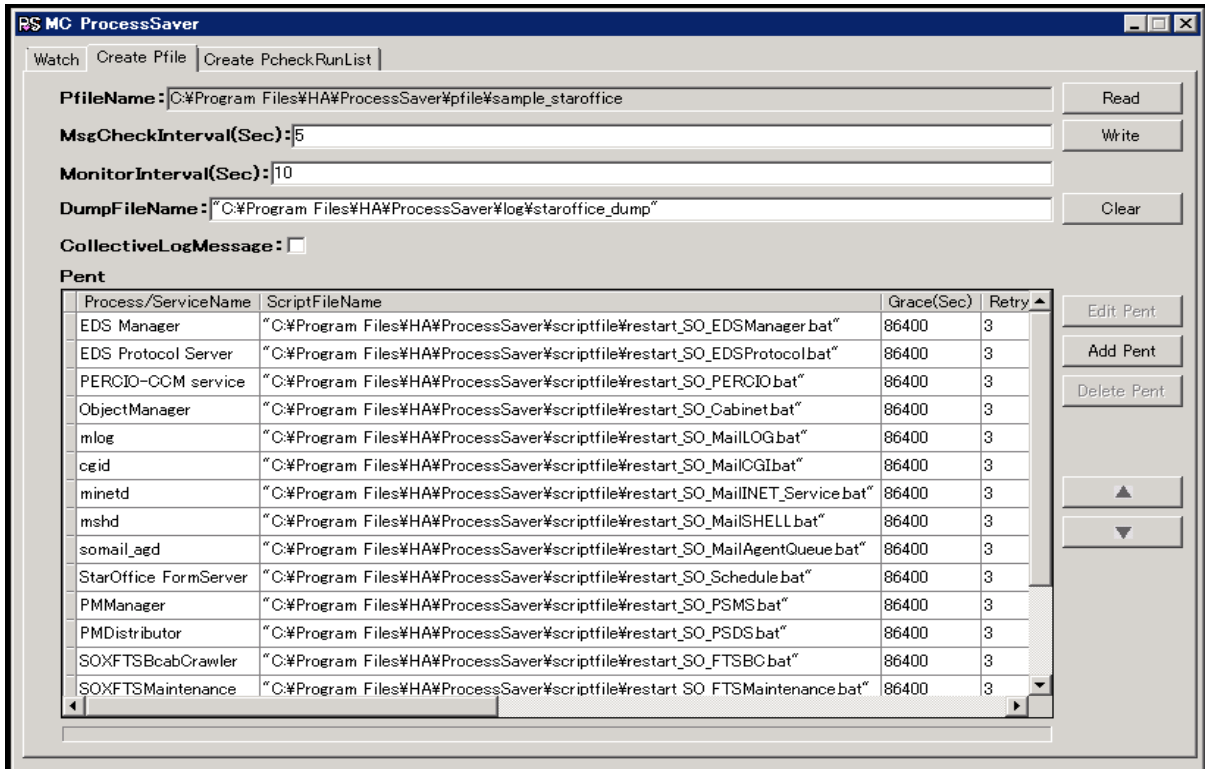


図24 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

4-3. 監視しないサービスの削除

（1） 『Create Pfile』 の [Pent] から監視しないサービスを選択し、
Delete Pent を押して削除してください。

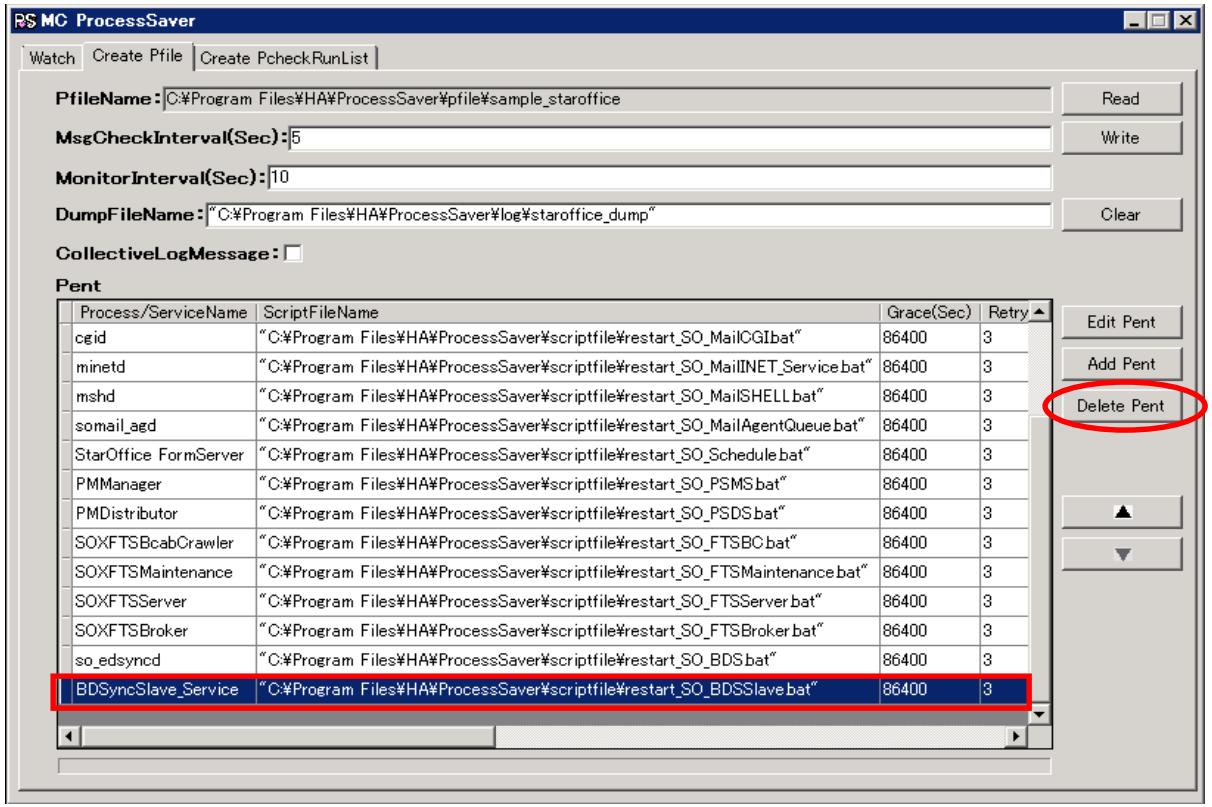


図25 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022

4-4. Pfile の保存

（1） 『Create Pfile』 で *Write* を押して
Pfile <C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥pfile¥sample_staroffice> を保存してください。

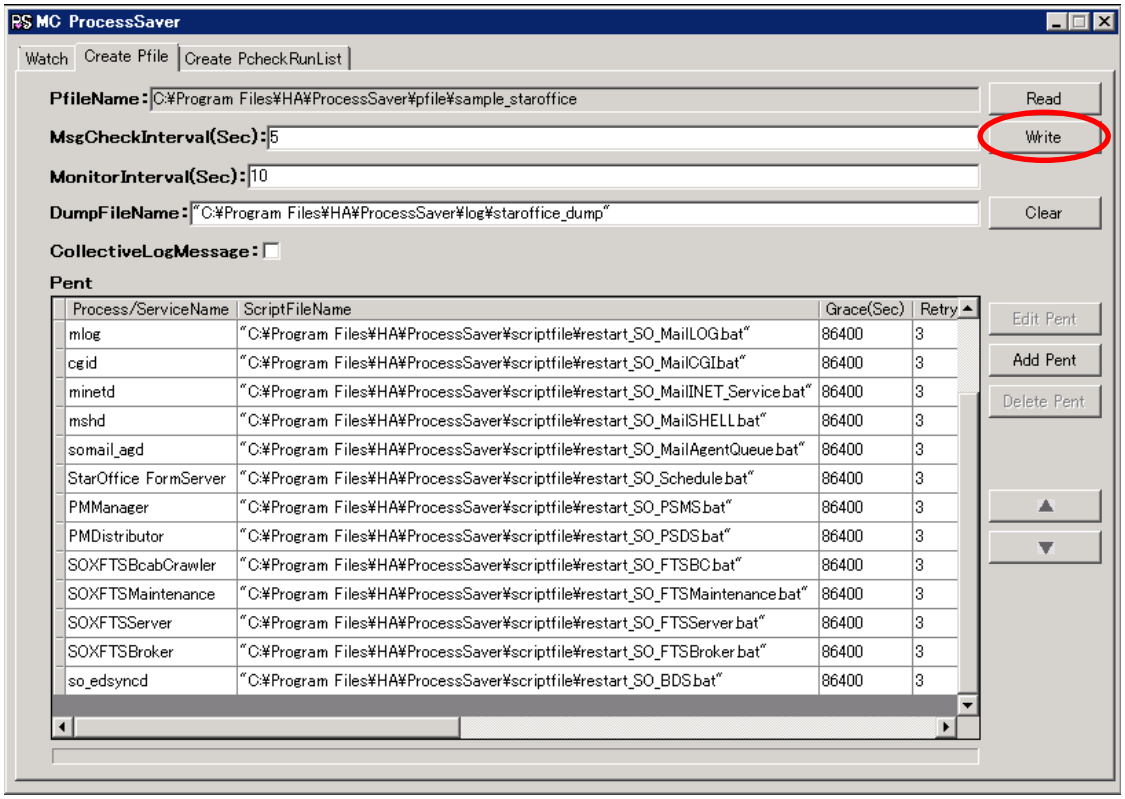


図26 『Create Pfile』

© NEC Corporation 2022

22. IIS のストール監視事例

1. 概要

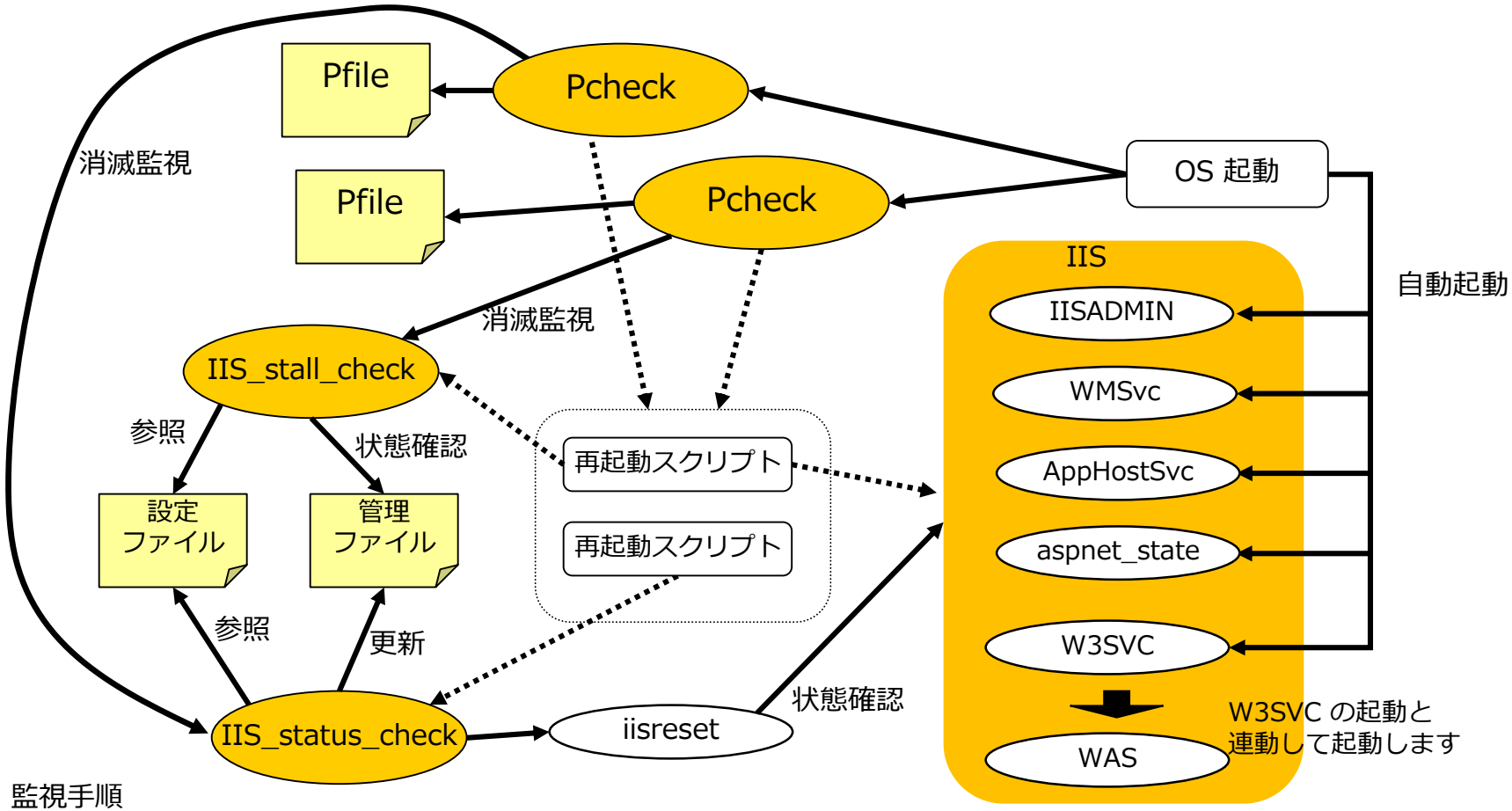
IIS のストール監視を以下の方式で行います。

IIS のステータス参照コマンド（iisreset.exe）を用いて、定期的に IIS の運用状態を確認し、
管理ファイルを更新するスクリプト(IIS_status_check.vbs)と
管理ファイルの更新を定期的に監視し、一定時間更新されていない場合に
終了するスクリプト(IIS_stall_check.vbs)を起動します。

ProcessSaver は IIS_stall_check.vbs の消滅を監視することでストール監視を行います。
また、IIS_status_check.vbs が何らかの原因により消滅した場合に、誤ってストールと
判断しないよう IIS_status_check.vbsの消滅も監視します。

© NEC Corporation 2022

22. （続き）



監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- ストール監視スクリプト（IIS_status_check、IIS_stall_check）を起動
- Pcheck によるスクリプトの消滅監視
- 消滅検出時には、再起動スクリプトで IIS のサービスとストール監視スクリプトを再開

© NEC Corporation 2022

2. Pfile

Pfile <sample_pfile_IIS_stall>

本 Pfile は IIS_stall_check.vbs を監視する Pfile です。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval       5
MonitorInterval        10
DumpFileName           "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥pfile_IIS_stall_dump"
UpMessageReduceMode    disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearC
md;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
cscript.exe&|"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥bin¥IIS_stall_check.vbs","C:¥Program
Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_IIS_stall_check.bat",86400,3,Continue,Process;PnameFullMatch=disable
```


© NEC Corporation 2022

22. （続き）

Pfile <sample_pfile_IIS_script>

本 Pfile は IIS_status_check.vbs を監視する Pfile です。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval       5
MonitorInterval        10
DumpFileName           "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥pfile_IIS_script_dump"
UpMessageReduceMode    disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearC
md;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
cscript.exe&|"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥bin¥IIS_status_check.vbs","C:¥Program
Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_IIS_status_check.bat",1,1,Continue,Process;PnameFullMatch=disable
```


© NEC Corporation 2022

3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト

- IIS_stall_check.vbs <restart_IIS_stall_check.bat>
  - 本スクリプトは IIS_stall_check.vbs の消滅を検知した場合に実行します。
  - INSTALLPATH には ProcessSaver のインストールフォルダーを設定してください。
    デフォルトは、 C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver です。
  - PFILE_IIS には IIS のサービス死活監視の設定ファイルを設定してください。
    監視しない場合、設定変更は不要です。
  - PFILE_IIS_SCRIPT には IIS_status_check.vbs の監視設定ファイルを設定してください。

```
@echo off

rem ProcessSaver のインストールフォルダーを設定する
set INSTALLPATH=C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver
set PFILE_IIS=%INSTALLPATH%¥pfile¥pfile_IIS
set PFILE_IIS_SCRIPT=%INSTALLPATH%¥pfile¥sample_pfile_IIS_script

set PADMIN=%INSTALLPATH%¥bin¥Padmin.exe
set PSSLEEP=%INSTALLPATH%¥bin¥PSSleep.exe
set STALL_CHECK=%INSTALLPATH%¥bin¥IIS_stall_check.vbs
set STATUS_CHECK=%INSTALLPATH%¥bin¥IIS_status_check.vbs

次ページへ続く
```

ファイル名に合わせて
設定を変更します。

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

22. （続き）

```
rem IIS のサービスを再起動するため IIS の死活監視を行っている場合
rem 再起動処理中は監視を停止する
:RETRY_STOP
"%PADMIN%" -f "%PFILE_IIS%" -c Stop
if "%ERRORLEVEL%" == "-1" (
    "%PSSLEEP%" 1
    goto RETRY_STOP
)

rem 念のため MsgCheckInterval秒待つ
"%PSSLEEP%" 5

rem IIS 関連サービスを再起動
iisreset /restart
net stop aspnet_state
net start aspnet_state
net stop AppHostSvc
net start AppHostSvc
net stop WMSVC
net start WMSVC


rem 停止した IIS の死活監視を再開する
rem 受付済み命令の実行待ちにより、再開に失敗する場合があるので失敗時はリトライする
:RETRY_START
"%PADMIN%" -f "%PFILE_IIS%" -c Start
if "%ERRORLEVEL%" == "-1" (
    "%PSSLEEP%" 1
    goto RETRY_START
)
```

ProcessSaver で IIS サービスの死活監視を行っていない場合はコメントアウト or 削除します。

ProcessSaver で IIS サービスの死活監視を行っていない場合はコメントアウト or 削除します。

次ページへ続く

© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

22. （続き）

```
rem IIS ステータス確認スクリプトを再起動するため、スクリプトの監視を一時停止
:RETRY_STOP_2
"%PADMIN%" -f "%PFILE_IIS_SCRIPT%" -c Stop
if "%ERRORLEVEL%" == "-1" (
    "%PSSLEEP%" 1
    goto RETRY_STOP_2
)

rem IIS ステータス確認スクリプトを再起動
wmic process where "name = ¥"cscript.exe¥" and commandline like ¥"%%IIS_status_check.vbs%%¥"" delete
start cscript "%STATUS_CHECK%“

rem IIS stall 監視スクリプトを実行
start cscript "%STALL_CHECK%"

rem スクリプト起動と監視のすれ違いを防ぐため、少し待機
"%PSSLEEP%" 10

rem IIS ステータス確認スクリプトの監視を再開
:RETRY_RESTART
"%PADMIN%" -f "%PFILE_IIS_SCRIPT%" -c Restart
if "%ERRORLEVEL%" == "-1" (
    "%PSSLEEP%" 1
    goto RETRY_RESTART
)

exit
```


© NEC Corporation 2022

22. （続き）

・ IIS_status_check.vbs <restart_IIS_status_check.bat>

- 本スクリプトは IIS_status_check.vbs の消滅を検知した場合に実行します。
- INSTALLPATH には ProcessSaver のインストールフォルダーを設定してください。
  デフォルトは、 C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver です。

```
@echo off

rem ProcessSaver のインストールフォルダーを設定する
set INSTALLPATH=C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver

set STATUS_CHECK=%INSTALLPATH%¥bin¥IIS_status_check.vbs
set PSSLEEP=%INSTALLPATH%¥bin¥PSSleep.exe

rem IIS ステータス確認スクリプトを再起動(念のため、プロセス停止処理も実行)
wmic process where "name = ¥"cscript.exe¥" and commandline like ¥"%%IIS_status_check.vbs%%¥"" delete
start cscript "%STATUS_CHECK%"

rem スクリプト起動と監視のすれ違いを防ぐため、少し待機
"%PSSLEEP%" 10

exit
```


© NEC Corporation 2022

4. ストール監視スクリプトの設定

・ IIS_check.conf

```
# ファイルの更新をチェックする間隔
STALL_CHECK_INTERVAL    600

# ステータスをチェックしファイルを更新する間隔
#   STALL_CHECK_INTERVAL より短い時間を設定すること
STATUS_CHECK_INTERVAL   10
```

-STALL_CHECK_INTERVAL
IIS_stall_check.vbs が管理ファイルの更新を確認する間隔です。この時間、管理ファイルが更新されていない場合にストールしていると判断します。
デフォルトは 600秒です。

-STATUS_CHECK_INTERVAL
IIS_status_check.vbs が IIS のステータスを確認し管理ファイルを更新する間隔です。
デフォルトは 10秒です。

© NEC Corporation 2022

22. （続き）

・ IIS_stall_check.vbs

管理ファイルの更新を定期的に監視するスクリプトです。

- installPath には ProcessSaver のインストールフォルダーを指定してください。
  デフォルトは、 C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver です。

```
Option Explicit
On Error Resume Next

' 各ファイル名の設定
Dim installPath, configFile, updateFile, logFile, rotatelogFile

installPath = "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver"
configFile = installPath & "¥bin¥IIS_check.conf"
updateFile = installPath & "¥bin¥IIS_staus"
logFile = installPath & "¥log¥IIS_stall.log"
rotatelogFile = installPath & "¥log¥IIS_stall.log.save1"

Dim objFSO, file, log, currentlog, interval, oldDate, blnFirst, strLine, index, srtArray
interval = 600 * 1000
blnFirst = True


以下省略(詳細は実ファイルを確認してください)
```


© NEC Corporation 2022

22. （続き）

・ IIS_status_check.vbs

定期的に IIS の運用状態を確認し、管理ファイルを更新するスクリプトです。

- installPath には ProcessSaver のインストールフォルダーを指定してください。
  デフォルトは、 C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver です。

```
Option Explicit
On Error Resume Next

' 各ファイル名の設定
Dim installPath, configFile, updateFile, logFile, rotatelogFile

installPath = "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver"
configFile = installPath & "¥bin¥IIS_check.conf"
updateFile = installPath & "¥bin¥IIS_staus"
logFile = installPath & "¥log¥IIS_status.log"
rotatelogFile = installPath & "¥log¥IIS_status.log.save1"

Dim interval, objFSO, file, log, currentlog, strLine, index, srtArray
interval = 10 * 1000

以下省略(詳細は実ファイルを確認してください)
```


© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

22. （続き）

・ IIS_script_start.bat

ストール監視を開始するためのバッチファイルです。
OS 起動後、自動で監視を行いたい場合は、タスクスケジューラに本バッチを登録してください。
- INSTALLPATH には ProcessSaver のインストールフォルダーを設定してください。
  デフォルトは、 C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver です。

```
@echo off

rem ProcessSaver のインストールフォルダーを設定する
set INSTALLPATH=C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver

set PSSLEEP=%INSTALLPATH%¥bin¥PSSleep.exe

REM ステータス確認スクリプト実行
start cscript "%INSTALLPATH%¥bin¥IIS_status_check.vbs"

REM 念のため 10秒待機
"%PSSLEEP%" 10

REM ストール監視スクリプト実行
start cscript "%INSTALLPATH%¥bin¥IIS_stall_check.vbs"
```


© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

22. （続き）

・ IIS_stall_check_stop.bat

IIS_stall_check.vbs　を停止するバッチファイルです。

```
@echo off

rem IIS stall 監視スクリプトを停止する(プロセス停止)
wmic process where "name = ¥"cscript.exe¥" and commandline like ¥"%%IIS_stall_check.vbs%%¥""
delete
```

・ IIS_status_check_stop.bat

IIS_status_check.vbs　を停止するバッチファイルです。

```
@echo off

rem IIS ステータス確認スクリプトを停止する(プロセス停止)
wmic process where "name = ¥"cscript.exe¥" and commandline like ¥"%%IIS_status_check.vbs%%¥""
delete
```


© NEC Corporation 2022

23. Microsoft SQLServer のストール監視事例

1. 概要

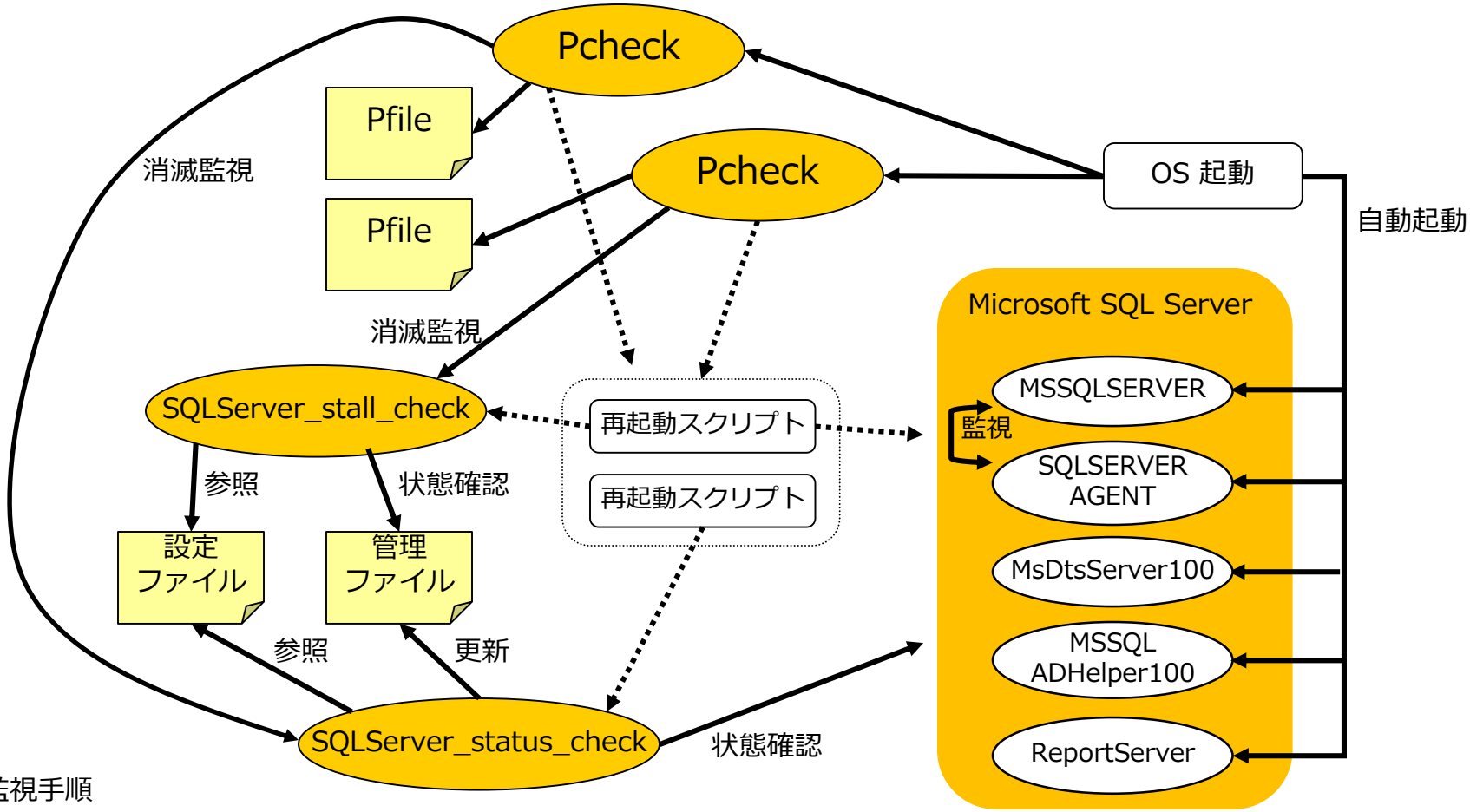
Microsoft SQL Server のストール監視を以下の方式で行います。

SQLServer の管理テーブル(sys.databases 表)を参照してデータベースの状態を
定期的に確認し、管理ファイルを更新するスクリプト(SQLServer_status_check.vbs)と
管理ファイルの更新を定期的に監視し、一定時間更新されていない場合に
終了するスクリプト(SQLServer_stall_check.vbs)を起動します。

ProcessSaver は SQLServer_stall_check.vbs の消滅を監視することで
ストール監視を行います。また、 SQLServer_status_check.vbs が何らかの原因により
消滅した場合に、誤ってストールと判断しないよう SQLServer_status_check.vbs の
消滅も監視します。

© NEC Corporation 2022

23. （続き）



監視手順

- OS 起動時にサービス自動起動
- ストール監視スクリプト（SQLServer_status_check、SQLServer_stall_check）を起動
- Pcheck によるスクリプトの消滅監視
- 消滅検出時には、再起動スクリプトで SQLServer のサービスとストール監視スクリプトを再開

© NEC Corporation 2022

2. Pfile

Pfile <sample_pfile_SQLServer_stall>

本 Pfile は SQLServer_stall_check.vbs を監視する Pfile です。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval       5
MonitorInterval        10
DumpFileName           "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥pfile_SQLServer_stall_dump"
UpMessageReduceMode    disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearC
md;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
cscript.exe&|"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥bin¥SQLServer_stall_check.vbs","C:¥Program
Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SQLServer_stall_check.bat",86400,3,Continue,Process;PnameFullMatch=disable
```


© NEC Corporation 2022
\Orchestrating a brighter world NEC

23. （続き）

Pfile <sample_pfile_SQLServer_script>

本 Pfile は SQLServer_status_check.vbs を監視する Pfile です。

```
##### PARAM #####
MsgCheckInterval       5
MonitorInterval        10
DumpFileName           "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥log¥pfile_SQLServer_script_dump"
UpMessageReduceMode    disable

##### PENT #####
##
Process/ServiceName,ScriptFileName,Grace(Sec),RetryCountMax,RetryOverAction,CheckType;MinProcCount;GroupTag;ClearC
md;IncludeStrings;RestartWaitTime;RestartTimeOut;PnameFullMatch
cscript.exe&|"C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver¥bin¥SQLServer_status_check.vbs","C:¥Program
Files¥HA¥ProcessSaver¥scriptfile¥restart_SQLServer_status_check.bat",1,1,Continue,Process;PnameFullMatch=disable
```


© NEC Corporation 2022

3. 再起動スクリプト

再起動スクリプト

- SQLServer_stall_check.vbs <restart_SQLServer_stall_check.bat>
  - 本スクリプトは SQLServer_stall_check.vbs の消滅を検知した場合に実行します。
  - INSTALLPATH には ProcessSaver のインストールフォルダーを設定してください。
    デフォルトは、 C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver です。
  - PFILE_SQLSERVER には SQLServer のサービス死活監視の設定ファイルを設定してください。
    監視しない場合、設定変更は不要です。
  - PFILE_SQLSERVER_SCRIPT には SQLServer_status_check.vbs の監視設定ファイルを
    設定してください。

```
@echo off

rem ProcessSaver のインストールフォルダーを設定する
set INSTALLPATH=C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver

set PADMIN=%INSTALLPATH%¥bin¥Padmin.exe
set PSSLEEP=%INSTALLPATH%¥bin¥PSSleep.exe
set PFILE_SQLSERVER=%INSTALLPATH%¥pfile¥pfile_SQLServer
set PFILE_SQLSERVER_SCRIPT=%INSTALLPATH%¥pfile¥pfile_SQLServer_script
set STALL_CHECK=%INSTALLPATH%¥bin¥SQLServer_stall_check.vbs
set STATUS_CHECK=%INSTALLPATH%¥bin¥SQLServer_status_check.vbs
次ページへ続く
```

ファイル名に合わせて
設定を変更します。

© NEC Corporation 2022

23. （続き）

```
rem SQLServer サービスを再起動するため SQLServer の死活監視を行っている場合、
rem 再起動処理中は監視を停止する
:RETRY_STOP
"%PADMIN%" -f "%PFILE_SQLSERVER%" -c Stop
if "%ERRORLEVEL%" == "-1" (
    "%PSSLEEP%" 1
    goto RETRY_STOP
)

rem 念のため MsgCheckInterval秒待つ
"%PSSLEEP%" 5


rem SQLServer サービスを再起動
net stop MSSQLSERVER
net start MSSQLSERVER


rem 停止した SQLServer の死活監視を再開する
rem 受付済み命令の実行待ちにより、再開に失敗する場合があるので失敗時はリトライする
:RETRY_START
"%PADMIN%" -f "%PFILE_SQLSERVER%" -c Start
if "%ERRORLEVEL%" == "-1" (
    "%PSSLEEP%" 1
    goto RETRY_START
)
```

ProcessSaver で SQLServer の死活監視を行っていない場合はコメントアウト or 削除します。

ProcessSaver で SQLServer の死活監視を行っていない場合はコメントアウト or 削除します。

次ページへ続く

© NEC Corporation 2022

23. （続き）

```
rem SQLServer ステータス確認スクリプトを再起動するため、スクリプトの監視を一時停止
:RETRY_STOP_2
"%PADMIN%" -f "%PFILE_SQLSERVER_SCRIPT%" -c Stop
if "%ERRORLEVEL%" == "-1" (
    "%PSSLEEP%" 1
    goto RETRY_STOP_2
)

rem SQLServer ステータス確認スクリプトを再起動
wmic process where "name = ¥"cscript.exe¥" and commandline like
¥"%%SQLServer_status_check.vbs%%¥"" delete
start cscript "%STATUS_CHECK%"

rem SQLServer stall 監視スクリプトを実行
start cscript "%STALL_CHECK%"

rem スクリプト起動と監視のすれ違いを防ぐため、少し待機
"%PSSLEEP%" 10

rem SQLServer ステータス確認スクリプトの監視を再開
:RETRY_RESTART
"%PADMIN%" -f "%PFILE_SQLSERVER_SCRIPT%" -c Restart
if "%ERRORLEVEL%" == "-1" (
    "%PSSLEEP%" 1
    goto RETRY_RESTART
)


exit
```


© NEC Corporation 2022

23. （続き）

・ SQLServer_status_check.vbs <restart_SQLServer_status_check.bat>

- 本スクリプトは SQLServer_status_check.vbs の消滅を検知した場合に実行します。
- INSTALLPATH には ProcessSaver のインストールフォルダーを設定してください。
  デフォルトは、 C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver です。

```
@echo off

rem ProcessSaver のインストールフォルダーを設定する
set INSTALLPATH=C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver

set STATUS_CHECK=%INSTALLPATH%¥bin¥SQLServer_status_check.vbs
set PSSLEEP=%INSTALLPATH%¥bin¥PSSleep.exe

rem SQLServer ステータス確認スクリプトを再起動(念のため、プロセス停止処理も実行)
wmic process where "name = ¥"cscript.exe¥" and commandline like
¥"%%SQLServer_status_check.vbs%%¥"" delete
start cscript "%STATUS_CHECK%"

rem スクリプト起動と監視のすれ違いを防ぐため、少し待機
"%PSSLEEP%" 10

exit
```


© NEC Corporation 2022

4. ストール監視スクリプトの設定

- SQLServer_check.conf

```
# ファイルの更新をチェックする間隔
STALL_CHECK_INTERVAL    600

# DATABASE のステータスをチェックしファイルを更新する間隔
#   STALL_CHECK_INTERVAL より短い時間を設定すること
STATUS_CHECK_INTERVAL   10

# ステータスをチェックする DATABASE が存在するインスタンス名
#   既定のインスタンスの場合は、サーバー名　のみ
#   その他の場合は、サーバー名¥インスタンス名　　を設定すること
SERVER_NAME     SERVER01

# ステータスをチェックするDATABASE のリスト
#   複数チェックする場合は、","を用いて設定する
#   (例) Database1 とDatabase2 をチェックする場合
#         DATABASE_LIST    Database1,Database2
DATABASE_LIST    Database1,Database2

# 異常として扱う DATABASE のステータス
#   複数指定する場合は、","を用いて設定する
#   (例) OFFLINE とEMERGENCY をチェックする場合
#         ERROR_DB_STATUS    OFFLINE,EMERGENCY
#ERROR_DB_STATUS    OFFLINE,EMERGENCY

# ログをローテートするサイズ(KB)
#   指定したサイズを超えるとログファイルをローテートする
LOG_LOTATE_SIZE    10000
```


© NEC Corporation 2022

23. （続き）

-STALL_CHECK_INTERVAL
IIS_stall_check.vbs が管理ファイルの更新を確認する間隔です。この時間、管理ファイルが
更新されていない場合にストールしていると判断します。デフォルトは 600秒です。
-STATUS_CHECK_INTERVAL
IIS_status_check.vbs がデータベースのステータスを確認し管理ファイルを更新する間隔です。
デフォルトは 10秒です。
-SERVER_NAME
監視するデータベースが存在するインスタンス名を指定します。
-DATABASE_LIST
ステータスを確認するデータベースを指定します。複数のデータベースを指定したい場合は、
”,”(コンマ)で区切って指定してください。
-ERROR_DB_STATUS
取得したデータベースのステータスのうち異常と判定するステータスを指定します。
指定されたステータスを取得した場合、管理ファイルの更新を行いません。
異常と判定するステータスが複数ある場合は、”,”(コンマ)で区切って指定してください。
DATABASE_LIST にて複数のデータベースを監視する設定となっている場合、
どれか1個のデータベースが異常と判定されると管理ファイルの更新を行いません。
設定しない場合、ステータスが取得できれば正常と判定します。デフォルトではコメントアウトされています。
-LOG_LOTATE_SIZE
SQLServer_status_check.vbs の内部ログのサイズを指定します。ログファイルが指定したサイズを超えた場合、
1世代分バックアップを行います。既にバックアップファイルが存在する場合、そのファイルは削除されます。
デフォルトは 10000KB です。

© NEC Corporation 2022

23. （続き）

・ SQLServer_stall_check.vbs

管理ファイルの更新を定期的に監視するスクリプトです。
- installPath には ProcessSaver のインストールフォルダーを指定してください。
  デフォルトは、 C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver です。

```
Option Explicit
On Error Resume Next

' 各ファイル名の設定
Dim installPath, configFile, updateFile, logFile, rotatelogFile
installPath = "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver"
configFile = installPath & "¥bin¥SQLServer_check.conf"
updateFile = installPath & & "¥bin¥SQLServer_staus"
logFile = installPath & & "¥log¥SQLServer_stall.log"
rotatelogFile = installPath & "¥log¥SQLServer_stall.log.save1"

Dim objFSO, file, log, currentlog, interval, oldDate, blnFirst, strLine, index, srtArray
interval = 600 * 1000
blnFirst = True

以下省略(詳細は実ファイルを確認してください)
```


© NEC Corporation 2022

23. （続き）

・ SQLServer_status_check.vbs

定期的に SQLServer の管理テーブル(sys.databases 表)を参照してデータベースの状態を確認し、管理ファイルを更新するスクリプトです。
- installPath には ProcessSaver のインストールフォルダーを指定してください。
  デフォルトは、 C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver です。

```
Option Explicit
On Error Resume Next

' 各ファイル名の設定
Dim installPath, configFile, updateFile, logFile, rotatelogFile
installPath = "C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver"
configFile = installPath & "¥bin¥SQLServer_check.conf"
updateFile = installPath & "¥bin¥SQLServer_staus"
logFile = installPath & "¥log¥SQLServer_status.log"
rotatelogFile = installPath & "¥log¥SQLServer_status.log.save1"

Dim serverName, dbListStr, interval, objFSO, file, log, currentlog, strLine, index, srtArray, lotateSize,
errStatusStr
interval = 10 * 1000
lotateSize = 10000 * 1024

以下省略(詳細は実ファイルを確認してください)
```


© NEC Corporation 2022

23. （続き）

・ SQLServer_script_start.bat

SQLServer のストール監視を開始するためのバッチファイルです。
OS 起動後、自動で監視を行いたい場合は、タスクスケジューラに本バッチを登録してください。
- INSTALLPATH には ProcessSaver のインストールフォルダーを設定してください。
  デフォルトは、 C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver です。
- 本バッチは SQLServer のデータベースにアクセス可能なユーザーで実行してください。

```
@echo off

rem ProcessSaver のインストールフォルダーを設定する
set INSTALLPATH=C:¥Program Files¥HA¥ProcessSaver

set PSSLEEP=%INSTALLPATH%¥bin¥PSSleep.exe

REM ステータス確認スクリプト実行
start cscript "%INSTALLPATH%¥bin¥SQLServer_status_check.vbs"

REM 念のため 10秒待機
"%PSSLEEP%" 10

REM ストール監視スクリプト実行
start cscript "%INSTALLPATH%¥bin¥SQLServer_stall_check.vbs"
```


© NEC Corporation 2022

23. （続き）

・ SQLServer_stall_check_stop.bat

SQLServer_stall_check_stop.bat を停止するバッチファイルです。

```
@echo off

rem SQLServer stall 監視スクリプトを停止する(プロセス停止)
wmic process where "name = ¥"cscript.exe¥" and commandline like
¥"%%SQLServer_stall_check.vbs%%¥"" delete
```

・ SQLServer_status_check_stop.bat

SQLServer_status_check_stop.bat を停止するバッチファイルです。

```
@echo off

rem SQLServer ステータス確認スクリプトを停止する(プロセス停止)
wmic process where "name = ¥"cscript.exe¥" and commandline like
¥"%%SQLServer_status_check.vbs%%¥"" delete
```


© NEC Corporation 2022

Orchestrating a brighter world

NEC